

大

学

入

試

国公立大学  
共通一次試験

昭和57年度版  
大学入試センター





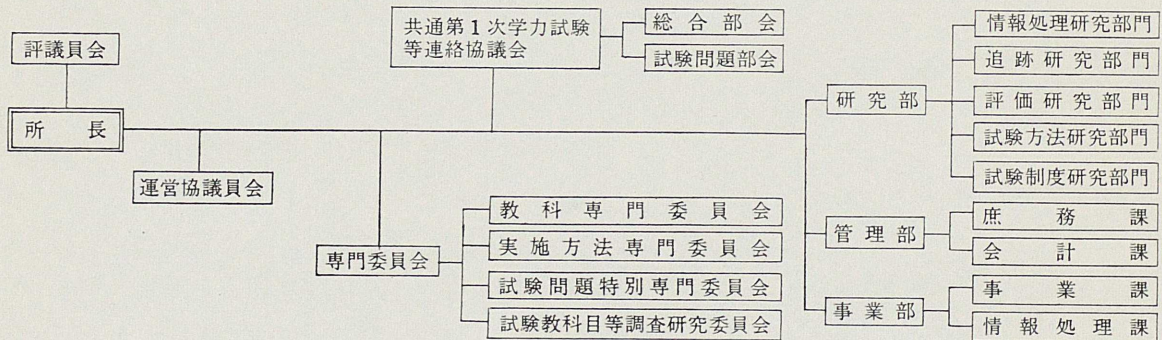
## 正 誤 表

| ページ数              | 誤                                                                                              | 正                                                                             |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| p. 22<br>(注3)の3行目 | グランゼユール                                                                                        | グランゼコール                                                                       |
| (注3)の16行目         | <p>なお、大学入学資格に認定されている。</p> <p><b>国際バカロレア</b></p> <p>資格は、スイスの国際バカロレア事務局が授与するもので、これとは別のものである。</p> | <p>なお、大学入学資格に認定されている<b>国際バカロレア</b>資格は、スイスの国際バカロレア事務局が授与するもので、これとは別のものである。</p> |
| p. 43<br>表6の(1)   | 教員養成系の第二次募集定員留保欄<br>1 (2・6)                                                                    | 教員養成系の第二次募集定員留保欄<br>1 (2・0)                                                   |
| p. 50<br>上段後から1行目 | 11月10日 (木)                                                                                     | 12月10日 (木)                                                                    |
| p. 62<br>中段8行目    | 7地区4会場                                                                                         | 7地区14会場                                                                       |

### P.48 下段に下図入る

大学入試センター機構図

昭和56年4月1日現在





はじめに

昭和五十四年度から実施してきた共通第一次学力試験も、すでに三回の実施を終え、来年一月には第四回目が実施されることになりました。

昨年まで刊行してきた「新しい大学入試」も、今年は表題を新定にし、過去の実施第一次学力試験の状況や第二次試験の概

要を盛り込み、内容(5)大学入学者選抜制度の改革の巻(6)に

この入試制度の趣旨や実施方法については、初回以来、大

高等学校はもと(4)大学進学希望者等でおおむ

の理解され、定着の方向をたどっているように思われることは

うれしく、同時に、関係各位に心からお礼を申し上げる次第

であります。

一問一答(1)試験(2)試験(3)試験(4)試験(5)試験(6)試験

昭和五十六年度第二次学力試験の実施状況

大学入試

国公立大学  
共通一次試験

昭和五十七年度版

この冊子は、共通第一次学力試験と第二次試験の成績をどのよう  
な割合で利用するか、あるいは、共通第一次学力試験の教科  
の比重をどのように取り扱うか、といったような点について  
は、各大学の独自の必要性により決定することになっていま  
す。

この冊子、受験案内などとともに十分利用され、昭和五  
十七年度の国公立大学の入学者の選抜が円滑に行われることを希  
うと願っております。



## はじめに

座談会 大学入試を語る——三回の共通第一次学力試験を経て—— 4

昭和五七年度国公立大学入学者選抜のあらまし 25

昭和五六年度共通第一次学力試験の実施状況 33

昭和五六年度第二次試験の実施状況 39

一問一答 45

資料 60

### (1) 大学進学状況等

### (2) 大学入学者選抜制度改革の歩み

## はじめに

昭和五四年度から実施してきた共通第一次学力試験も、すでに三回の実施を終え、来年一月には第四回目が実施されることになりました。

昨年まで刊行してきた「新しい大学入試」も、今年は表題を新たにし、過去の共通第一次学力試験の状況や第二次試験の概要を盛りこみ、内容の充実を図ることとしました。

この入試制度の趣旨や実施方法については、初回以来、大学、高等学校はもとより、各方面のご協力のおかげで、おおむね理解され、定着の方向をたどっているように思われることはうれしいことであり、関係各位に心からお礼を申し上げる次第であります。大学入試センターにおいては、今後とも、共通第一次学力試験について、広くご意見、ご要望などを伺いながら、より一層の改善を図っていきたいと考えております。

もとより、入学者の選抜は、各国公立大学の自らの判断と責任で行うものであり、共通第一次学力試験が同一の問題で全国共通で行われてはおりませんが、まさに各大学の入学試験の第一段階のものであります。各国公立大学では、この共通第一次学力試験を踏まえて、それぞれの大学・学部などの特性に応じた第二次試験（第二次の学力検査、実技検査、面接、小論文など）を実施し、これらの結果と共通第一次学力試験の成績、さらに高等学校長から提出される調査書などを総合し、可否の判定を行うことにしています。

この際、共通第一次学力試験と第二次試験の成績をどのような割合で利用するか、あるいは、共通第一次学力試験の教科間の比重をどのように取り扱うか、といったような点については、各大学の独自の必要性により決定することとなっています。

このように、共通第一次学力試験と第二次試験が、大学・学部の特性に応じて、有機的に組み合わせられるものであるところに現在の入試制度の大きな特色があり、この点について十分なご理解をいただきたいと思います。

受験生は、単に合格可能性のみによって志望の大学・学部を決めるのではなく、自己の将来を見定め、志をたてて、進むべきところを選択し、これに向って全力を傾ける。各大学は、その特性に応じた人材を求めて、入学者選抜方法に工夫・改善を進める。これこそが、望むべき姿といえましょう。

昭和五七年度の共通第一次学力試験には、産業医科大学が私立大学として初めて参加することになりました。また、社会の科目選択の方法が変わり、「倫理・社会」と「政治・経済」を同時に選択して受験することができなくなるなど、実施方法の一部が改められていますので十分注意してください。

この冊子が、受験案内などとともに十分利用され、昭和五七年度の国公立大学の入学者の選抜が円滑に行われることを心から祈念しております。



## 座談会

# 大学入試を語る

―三回の共通第一次学力試験を経て―

出席者

荒川

潤 (全国高等学校長協会会長  
東京都立両国高等学校校長)

黒羽

亮一 (日本経済新聞社論説委員)

斎藤

進六 (国立大学協会第二常置委員会委員長  
東京工業大学長)

加藤陸奥雄

(大学入試センター所長  
前東北大学長)

黒羽 本日は、三回目を終えた共通一次試験を振り返りながら、今後のことなども含め、いろいろと率直にお話をしていただきたいと思います。

## 大雪に見舞われた今年の試験

今年は、北日本、裏日本が昭和三八年以来の大雪で、共通一次試験が果して無事に行けるのかと心配されたのですが、大した支障もなくできたことは良かった

ですね。  
加藤 雪が多かったので非常に心配しました。北陸がひどくて、特に福井県が激しかった。しかし、北陸は、事前に雪にそなえた準備があったために、結果的には余り問題はおこりませんでした。ところが、徳島県が大変だったのです。

荒川 大変な雪だったそうですね。  
加藤 都市部で一〇センチ、山岳地帯で三〇センチも積雪がありました。徳島大学は、試験開始時刻を一時二〇分繰り下げて、無事済ませたのですね。

雪のために試験開始時刻を繰り下げたのは、福井大学、金沢大学、新潟大学の高田分校と長岡分校、徳島大学、そして島根大学。和歌山大学では交通事故のため繰り下げられました。

どこも対策をうまくとってくださいだったので、切り抜けることができましたが、大学入試センターでは、事前に非常事態まで考えて、再試験をやらなくてはいけないかな、という覚悟でした。幸いそれをせずにすみ、各大学の努力に感謝しています。

これらの地域の大学は、高等学校をはじめ、交通機関、報道機関などにも連絡をとり、父兄のご協力も得て無事にやってくれました。こういう協力体制は非常にありがたかったと思います。

斎藤 非常に不安なのは、いつも雪になれていない大都市です。

黒羽 そうですね。交通機関がすぐ止まってしまったらね。

斎藤 福井県ではずいぶん苦勞されましたね。数人の受験生がいる村があつて、陸の交通が途絶したので、川に舟を浮かべて下ってきた。

加藤 それは地域ぐるみの協力です

ね。福井大学では、校内の除雪に非常な苦勞をされましたね。大学の職員が連日大変な努力をされ、試験室までの道の確保や、案内板を立てるなど大わらわだったようです。

荒川 私はあの前後、生徒や父兄の気持ちを察して、共通一次試験が無事終わるように祈るような気持ちでした。今のお話を聞きますと、各方面の親心が天に通じたという感じがですね。とにかく、毎日心配しながらテレビを見ていました。時間繰り下げ程度で終わったということ、本当によかったですね。

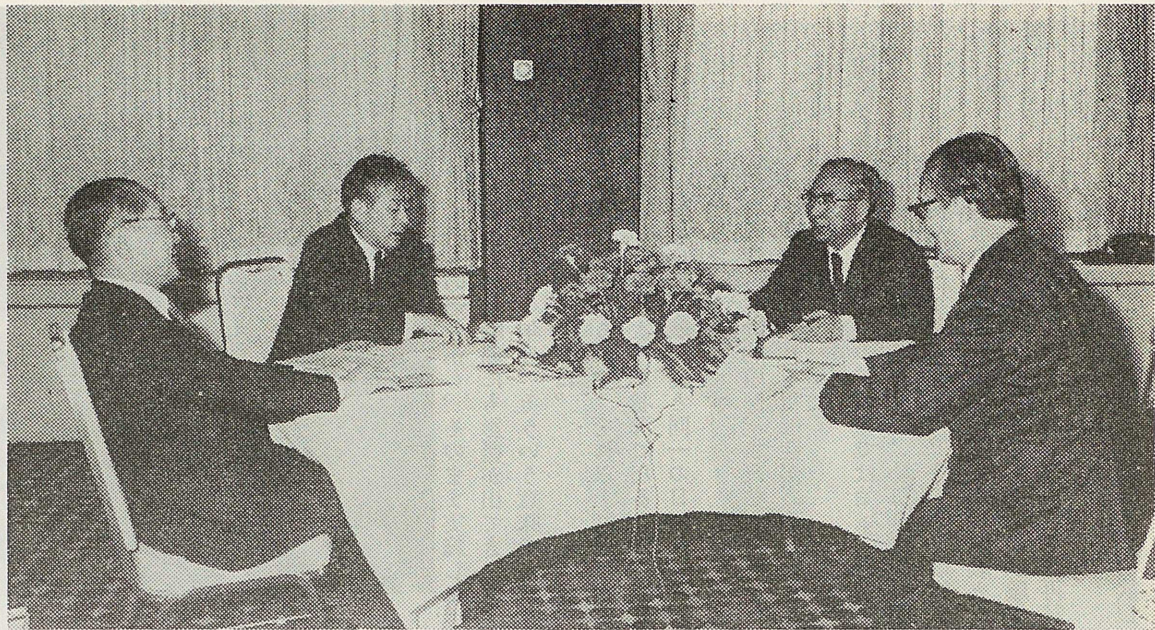
加藤 和歌山大学のような交通事故は、ふだんでもあり得ることです。普通の事故ですと、大体一時間二〇分の繰り下げの枠内で処理できると思いますね。

荒川 高等学校側を代表しまして、ご配慮にお礼を申し上げます。ありがとうございます。

斎藤 高等学校側との協力がよかったと思うのです。

黒羽 大学入試センターでは、再試験の覚悟もされていたというお話ですが、どのような状態だったら再試験をするのですか。

加藤 一つの試験場で一時間二〇分試験開始時刻を繰り下げても、まだ開始の見込みがたないという状況になりますと、再試験を考えなくてはなりませんね。共通一次試験は同じ問題で全国一斉







齋藤進六氏

いという話が前からありますが、今年のように雪のことを考えますと、かなり難しい問題がありますね。

加藤 雪の影響ということでは、気象庁の統計によると二月上旬が一番危険ですね。現在の時期もその意味ではぎりぎりのところなのです。

## 問題は難かしくなったのか

黒羽 五教科七科目で三年間やってきたわけですが、平均点は初年度が六三六点、翌年度が六一七点、今年は六〇七点とだんだん下がっています。

これはどういうことなのでしょう。毎年、試験問題が難かしくなっているのですか。

加藤 少し難かしくなっているかもしれませんが、受験生諸君の水準が下がっているかどうかは、このことから解析できません。

黒羽 教科別に見ますと、数学が最初の年はやさしかったと言われ、平均点が七五点だったのが、今年は六一点で四四点低くなっている。これは非常に大きいですね。英語も六二点から五三点と、九点低くなっているようです。

加藤 今年は、数学の得点が総平均点を引き下げました。総平均点がだんだん下がっているの、私は、初年度くらいの水準が良いのではないかと考えていま

われわれが、最初に考えた一二月下旬が一番良いのですが、これは、高等学校側の要望もあってだめでした。もっとも、今回でしたら、一二月下旬は、東北、特に福島県、宮城県は大雪でしたので、再試験問題が起こったでしょうね。

す。

荒川 それは結構ですね。

齋藤 平均点として望ましいのは、六〇点くらいか、七〇点くらいか、あるいは八〇点くらいなのか、高等学校側の意見はどうですか。

荒川 高校長協会では、共通一次試験の平均点がどのくらいを目安にすべきかということについて、今のところ積極的な意見はありません。

加藤 余りお聞きしてないですね。

荒川 大学入試センターで考えておられる六〇点程度というラインは、私たちが日常、生徒にテストする場合にも大体の目安にしておりますから、一応妥当であろうと思いますよ。

加藤 共通一次試験は、受験生の学力についての識別性が出せればいいわけですね。最初は一応六〇点程度を目安に出発したのですが、これまでのデータの解析をどんどん進め、識別性が保てる範囲

ならば平均点を上げた方がいいのではないかと気がしているのです。

齋藤 私は、国の資格試験の問題を作ったことがあるのですが、何年かやっていると対象範囲が狭い場合は問題が同じになってしまう、問題が種切れになってしまふことにはならないですか。

加藤 難かしすぎる出題という点は別として、何年かたったら同じ問題が出たとしても、一向に構わないと思っ

黒羽 問題が同じになってしまっただけで困るから、いろいろ工夫をして応用問題を出すとか、領域を考えていくという出し方と、出題の範囲がある程度決まっ

てしまっていて年々そのうちの一部分を出すという出し方と、二通りの方法がある。

齋藤 自動車免許の試験みたいですね。(笑)

黒羽 アメリカのETS(注)なども、何十年という歴史をつみ重ねているのでだんだんそうなっている。膨大な問題集が発行され、それを勉強していればいいということになってきているそうです。

加藤 ただ、ETSはアイテム・ブール方式ですが、こちらは問題の出題形式など事情は少し違います。出題のテーマが、内容的にはダブっても、設問のあり方によってはダブらないことになりま

し、数学などは同じテーマを繰り返し出題することが多いのですが、具体的な解答の数値はみんな違ってきます。そういうダブリは、余りにする必要はないのではないかと思います。

齋藤 ダブリを気にしないとすると時には、いわゆる暗記ものに偏らないよう出題に当たって工夫が必要ですね。

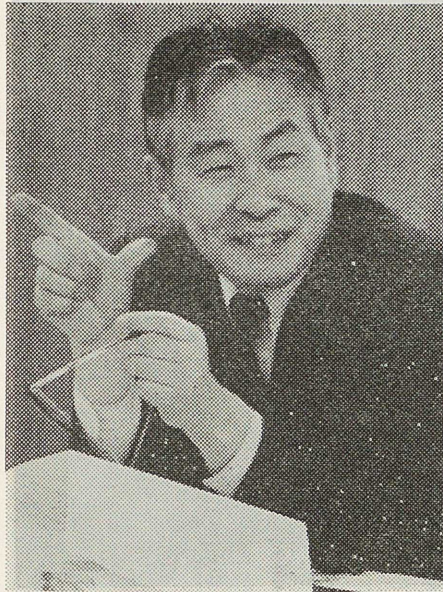
荒川 その点を注意しないといけませんね。マークシートですから、出し方は限定されてくる。知識の量をふやしていかなければ対応できないという記憶主義に陥る危険は、避けなければなりません。

齋藤 マークシートは、マークシートと考えるからおかしいので、一種のランゲージであると考えればいいと言う人もいます。コンピュータのランゲージが、このごろはずいぶん発達しています。二進法でも一ビットをずっと重ねていって、あれだけ複雑な処理ができるようになかなかの発達をしているわけです。

問題の出し方でも、一ビットを重ねながら論理性が出るように考えなければならぬ。また、マークシート自体も、一ビットではなくて五ビットくらいを組みこめるようなマークのつけ方があるはずだ。そういうことを大学入試センターの方で考えて、もうちょっと複雑な意思を表現できるようにしなければいけないでしょうね。

荒川 現在の共通一次試験のきつかけ





黒羽亮一氏

配慮してほしいという、受けさせる側からの要望ですね。

大学側の立場から見ると、物理はよくできるけれども化学の知識がほとんどないのは困るとか、歴史的な知識はあるけれども地理的な認識がないのは困るという意向もわかります。しかし一方、私学では受験科目を少なくしておりますので、受ける側の親とか生徒の立場からは私学と国公立大学を共通に受ける場合には、国立大学は受験科目数が多いので軽減してほしいということもある。そういう点から見しても、負担を軽くしたいという主張が出てきますね。

黒羽 国語、数学、外国語は一教科一科目ですから問題はないわけですが、社会と理解は一教科で二科目選択をするわけなので、この取り方によってはやさしいのと難しいのがあって、組み合わせに

よる不公平の問題がある。特に社会の組み合わせが問題になったりしています。このあたりの、教科、科目数と科目間の平均点の差の問題について、お話を伺いたいと思います。

荒川 やはり入学試験ですから、生徒が得点主義になるのはやむを得ないと思います。そこで、社会は倫理・社会、政治・経済の選択に走ったのですが、この二科目については五七年度から同時に選択することができなくなったという措置がとられることになりましたね。

黒羽 今年もかなり得点に開きがあった。倫理・社会が七一・八八点、政治・経済が六〇・六四点、あとは全部六〇点台ですから、倫理・社会が非常に高い点が取れたのですね。

荒川 倫理・社会は、入学試験としては本来は受けにくい科目であるはずですよ。二単位の科目と四単位の科目を同列にしたということは、当初からも問題があったようです。教科書を見ても分量は少ないし、学習時間も少ないのですから、だから、入試のための点数主義でいけば、結局そちらに走るの当然ですね。昔は、歴史科目を選択する者が比較のおおぜいいたのですけれども。

黒羽 受験生の数からいって、今年はかなり偏りがありますね。

荒川 三年間の推移を見ますと、よくわかります。

きたという評価をもらっています。ところが各論になりますと、この教科書から多く出ているとか、この教科書からは少ないとかいう指摘があったり、知識だけを問うにとどまっている、難かしすぎるとかいう意見もあります。最近寄せられた意見には、冒頭には適切な問題だというふうにほめてありましたが、細かな点になりますと、いろいろな角度からの批判が書いてありました。冒頭からけしからんと書かれることは、おかげさまで少なくなりました。

荒川 はじめにけしからんと言っておいて、終わりにほめてくれたほうがいいのではないのでしょうか。細かいところではいろいろな注文があるが、総括的にはなかなかよろしいという評価がほしいですね。

加藤 順序を逆に書いてもらえばいい。(笑)

荒川 そうすると、極端に、いかんという意見は各教科担当の教員からは出ないのですね。

加藤 余りありません。

加藤 来年からは、倫理・社会、政治・経済の抱き合わせは禁止になります。今年、政治・経済を約二四万人が受験しました。また、倫理・社会を受験した者は一六万人で、このうち、約一十一万人が政治・経済と倫理・社会を抱き合わせで選択しています。これが禁止になりますからその受験生は、歴史、地理に流れる可能性があるので、そうすると、その偏りはかなり防げると思います。ともかく、年を追って倫理・社会、政治・経済の受験生がどんどん増えてきたのですね。そして、歴史科目の受験生はかなり減ってきているのです。高校の社会の履修の状況に影響を与えていると云われても仕方ない面もあると思います。

黒羽 残念ながら、そういう要素はあったわけですね。

加藤 政治・経済、倫理・社会は、科目の性質もあると思いますが、妥当な問題を出そうとすると、歴史と比べてどうしても得点は上がる傾向があります。これを下げることができのですが、そうすると意地が悪い問題だとかまた批判されるようになる。もう一つ大事なことは、理科でも同じことなのですが科目選択者群の質の違いによる学力の差という問題です。受験者群の質は科目により明白に違います。

荒川 問題の難易度によるということばかりではないのですね。



荒川 潤氏

というのは、従来の大学入試がだんだん微に入り細をうがった出題になってきて、社会科で言いますと、最も詳しい叙述のある教科書が、これは大学入試向けだというので売れる、そういう事態を基本に戻そうということなのです。これまた、細かいところまで頭に入れておかなければならないということになると、元にもどることになり困りますね。良い出題を続けていくと、教科書の改善にもつながるわけです。

黒羽 旧制の高等学校や専門学校の試験問題集を見ますと、いい問題には括弧で昭和何年一高とか、昭和何年二高とか書いてありましたね。だから、いい問題は何度も出たのです。

加藤 何年かに一度は出たのですね。

斎藤 そうですね。問題はダブって出されてもいいのかもしれませんが、良い問題

題をストックして、それをアレンジしてランダムにくり返し使用する……。

加藤 ともかく、共通一次試験の得点はもう少し上がった方がいい。データが蓄積されてきたから、受験生の学力についての識別性が可能な限度を研究し、その範囲で平均点はできるだけ上げた方がいいのじゃないかと思っているのです。

共通一次試験の識別性は、例えば、入学定員一〇〇人のところ、上位八〇人についてはそれほど問題にはなりません。それ以下の受験生について何らかの識別ができればよい。また、第二次試験で更によく見ることができるようですから。

荒川 大学入試センターでは、試験問題について各教科の研究団体などの意見を聞いておられるのでしょうか。

加藤 高校の教員の意見を聞く組織ももっておりますし、教育研究団体からも意見が出ております。

荒川 高校の現場の教員の受けとめ方はどうでしょうか。

加藤 全般的には、毎年、よくなって

## 平均点の差の解消は

じがしますが。

荒川 五教科五科目という主張は、なるべく生徒の受験のための勉強の負担を軽くして、高校教育がゆがまないように



受験産業が介入する場が小さくなるでしょう。各大学に強く要望しようと思っています。

黒羽 最初は、共通一次試験の成績を各大学が利用するときに、総合点で利用するのか、各教科ないし科目別にバイアスをつけて利用するのか、その辺についての意思統一はなかったのですか。

加藤 一応、議論は全部尽したので

斎藤 バイアスをつける議論はあった  
のですが、結果的に各大学ではバイアス

加藤 教科間で比重を変えるのはいいのですが、社会、理科の場合の科目間でも比重を変えるということには問題があります。ともかく、この教科間の比重傾斜の問題は、大学で大いに工夫してもらった方がいいと思います。

斎藤 一次と二次を切り離して議論はできないのです。

荒川 そういうことは、一般にまだ十分理解されていないのではないのですか。

各大学には国立大学協会の第二

齋藤 ウエイト付けをする場合にはそのことを一般に言うておく必要がある。受験生が大学を選ぶというのは大学の序列を選ぶということではなく、大学のタ

などで公表するという考え方ですか。

斎藤  
ウエイト付けをする場合にはそ

11



加藤陸奥雄氏

る。

荒川 共通一次試験の後、すぐに新聞社から電話がかかってくる。今年も科目によって平均点が大きく開いているが、これをどう思いますか、どのくらいの開きならば容認できるのですかと聞いてきます。大学入試センターでは、どんなふうにお答えになりますか。

加藤 私は、すべての科目の平均点が同じになるというような作題はできるわけがないと思うのです。プラス・マイナス五点程度は理想に近い変動だと思うのです。これはだれがやっても同じでしょう。

荒川　というと、プラス・マイナス五  
点以上のときは何らかの措置を考えなく  
てはいけない。

加藤　そういう理屈になりますね。斉藤先生が今おっしゃったように、要因分析をした結果、受験者集団の学力差とい

## 一次と二次の総合評価に工夫を

黒羽 それは難かしいのではないですか。生物の学力と物理の学力とは比較できないのではないかなど、揚げ足を取られかねないですからね。

加藤 それが実は明瞭に出てくるのですね。

斎藤 それは、要因分折すれば出てく

それは、要因分析すれば出てく

黒羽 自己採点方式に絡む問題ですが、受験産業が共通一次試験のデータを集め、A大学は七五〇点以上合格とか、B大学は何点以上確実とかいう大学のランキング付けや、受験生をいわゆる輪切りにすることができるようになってきたと言われていますね。

斎藤 国立大学協会の第二常置委員会では、かなり真剣にこの問題と取り組んでいます。各大学、学部で二次試験と共通一次試験の間にウエイトをつけることや、更に共通一次試験の各教科の得点にも軽重をつけるという考え方は以前からあるのですが、これらのことは、もつと

うものがでてくるわけです。というのは、生物と物理は比較できないのではないかとというお話がありました。が、社会、理科は二科目を解答するのです。だからそこでは今の比較分析ができるわけです。物理と地学を選んでいる人がいる、また、物理と化学を選んだ人もいるわけです。そうすると、物理に対する反応が違ふということなのです。しかし、当面はこのようなことを背景としながら、作題の段階で配慮しようということにしています。

齋藤 要因分析の手法を細かく言っても仕方がないけれども、倫理・社会を選んだ人の倫理・社会以外の平均点とのバランス比を分析すれば出てくるでしょう。

統計の数としては三五万もあるのですから、小数例分析をはるかに超えた大数例分析だから、非常に正しく出る。

統計の数としては三五万もあるのですから、小数例分折をはるかに超えた大数例分折だから、非常に正しく出る。

積極的に考えられてよいと思います。しかし、後者は、現実には余りやっていないのです。共通一次試験の結果を画一的

各大学が積極的に自分の大学の特質、あるいは希望などをこのウエイト付けで表現し、大学によって両試験のウエイトがばらばらになってくれば、輪切り評価はかなり薄くなると思います。

大学ごとの主張によって、各教科に対するウェイトを厳しくつければ、受験生は自分の得点が一次志望校の要求しているタイプじゃなくて、二次志望校のタイプであったという判断ができる。だから、自分はこのような主張をしている大学にこそ適合しているのだということがわかるので、自己採点がイコール大学のよしあしの評価にはつながらなくなるのです。

受験産業が介入する場が小さくなるでしょう。各大学に強く要望しようと思っています。

黒羽 最初は、共通二次試験の成績を各大学が利用するときに、総合点で利用するか、各教科ないし科目別にバイアスをつけて利用するか、その辺についての意思統一はなかったのですか。

加藤 一応、議論は全部尽したのです。

斎藤 バイアスをつける議論はあった  
のですが、結果的に各大学ではバイアス

をあまりつけていないのです。もちろん、現にバイアスをつけている大学もかなりありますよ。

黒羽　ですから、某々予備校なり某々雑誌に載っている合格圏というデータは、必ずしも正確じゃないと思うのですかね。

加藤 そのとおりなので、二次試験で課す科目と課さない科目とで、共通一次試験のその教科の得点に比重をかけていいわけです。そうしますと、一次試験、二次試験を総合化するという妙味が、さうに出てくるわけです。結果としては、一次、二次の試験を併せて大学固有の選抜ができるということになるのです。

黒羽 同じ理学部でも、物理学科へ進む人が物理の試験と生物の試験を同一の比率で扱うとかえっておかしいですね。

加藤 教科間で比重を変えるのはいいのですが、社会、理科の場合の科目間でも比重を変えるということには問題があります。ともかく、この教科間の比重傾斜の問題は、大学で大いに工夫してもらった方がいいと思います。

斎藤 一次と二次を切り離して議論はできないのです。

荒川　そういうことは、一般にまだ十分理解されていないのではないのですか。

各大学には国立大学協会の第二

常置委員会から要望を出そうと思つてい  
ます。

黒羽 一次、二次のウエイトに関しては、二次では学力を見ないという大学もありますよね。また、共通一次試験を二〇％しか見ないところもあるし、半々もある、六割、七割もある。さまざまですけれども、どれがいいかということは言えないでしょうね。それぞれの大学の考え方ですからね。

斎藤 ウエイト付けをうんと強調すれ  
 ば、もつとばらばらになります。

加藤 ウエイト付けは盛んにやっても  
りたいのですが、それは意味のあるも  
のでなくてはならないと思っています。

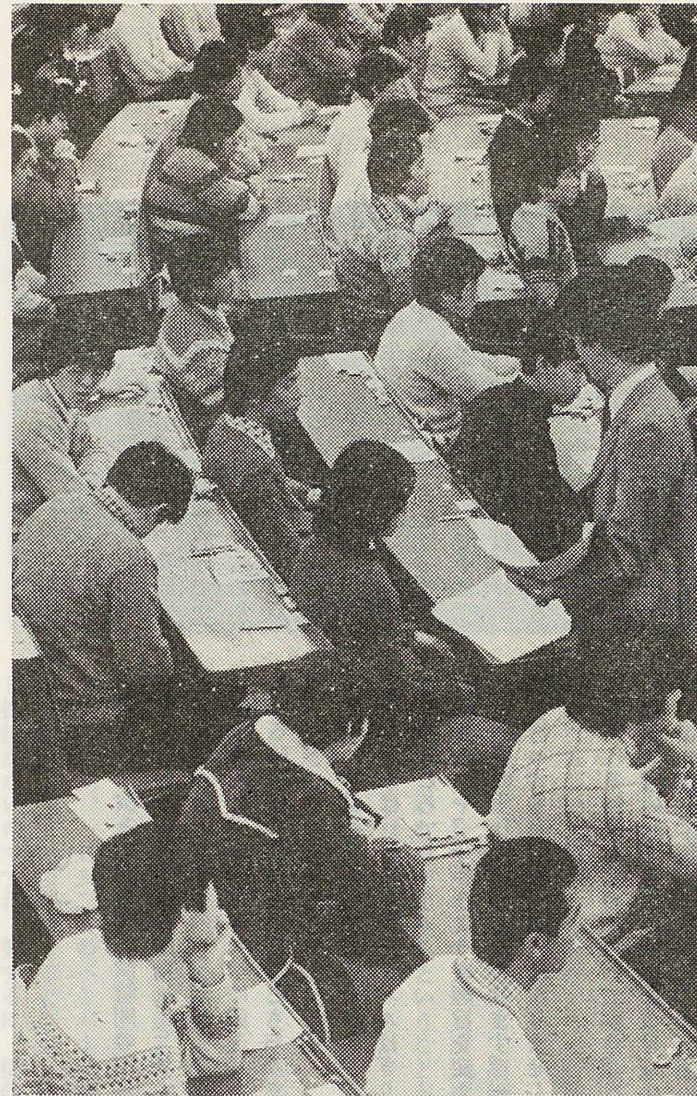
斎藤 工科系統であれば、国語とか社会をどうするかというのと、一次の結果をうんと高く見てしまふ。そのかわり二次はやらない。逆に、数学は二次でも課するのだから、一次はうんと低くしてしまふ。それも一つの意思表明ですよ。また、これと逆のこともあり得ます。

黒羽 国立大学協会でそういう決定を  
されて、それに応じて各大学はどうい  
うふうに配点しているかというようなこと  
について、『国公立大学ガイドブック』  
などで公表するという考え方ですか。

ウエイト付けをする場合にはそ

のことを一般に言っておく必要がある。





イブを選ぶのですから。

加藤 そういう意志を誘発するような

## 一般教育の改革も必要

方式が望ましいと思います。

齋藤 実は、この間、さるところで、今後大学はどうあるべきかということ、自由に話し合ったのです。どうして大学は上から成績がそろった学生を入れなくてはならないかということについて、その方が公平だと思っている人が多いいけれども、それが実は一番問題ではないかということも申し上げました。では、成績順でなく非常に特徴のある学生を入れるのがどうしてできないのかという、端的に言って、専門教育前の教育に、大学が十分対応していないのだと話しました。その理由は何かと言うと、低学年教育のシステムの不十分さにあると。

黒羽 教養課程の問題ですね。  
齋藤 ハーバード大学などでは、いろいろなコースを数多く設けている、それだけの厚みがあるのです。その厚みが専任の教員では耐えられないくらいのものであるから、やむを得ず非常勤講師を使っている。日本は逆に、層が薄いから非常勤がいる。まったく、逆の状況になっているわけです。

加藤 これは、国立大学協会の重要問題ですね。

齋藤 だから、低学年教育を厚くしない限り、特色ある学生は採れない。特色ある学生を採って、専門教育へ進むまでに、専門教育を受けられる能力をつけてやるのが、低学年教育の本当の目的なのです。これがまた、職業高校からの進学を難しくしている原因の一つにもなっているのではないかと思います。大学の一般教育の基本的なあり方を変える必要があるわけです。

加藤 そうすると、共通一次試験の方もあるわけです。(笑)

齋藤 昔の高等学校は、考えてみるとおもしろいですね。入学したときには実力がそろっていたのが、出るときにはばらばらになってしまふんだから。(笑)

黒羽 国立大学協会の第二常置委員会の方向もよくわかりましたが、輪切りで困るとは言いながらも、一方輪切りだから進路指導もやりやすいという面は実はありますよね。各大学が特色を出してくると、高校生も困るけれども、高校の先生方もかなり面食らうようになるのではないですか。

荒川 高校側では、輪切りとか序列という問題は、それほど深刻にとらえては

いません。進路指導の教員が、そういうデータのみで生徒を指導することはないと思います。

黒羽 しかし、自己採点を学校で集めて、受験産業などに提供するということは、多くの学校でやっているのでしょうか。

荒川 要求があれば出している所もあるだろうと思います。

黒羽 私は、それを悪いと言っているわけではありません。やっぱり、そうしたデータに頼るのも人情です。合格可能性ということも全く無視するわけにはいかない。

荒川 問題は、そういうデータをどう見ているかということでしょう。本人がどんなふうに進路を判断していくかという一つの材料にはなりますから。

齋藤 大学にも影響が出てきていますよ。昔は特徴のある者が来たけれども、それがなくなるといわれていますよ。これは、輪切りの悪い結果ですよ。

荒川 国立大学には大変たくさん浪人の受験生が志願していますが、その人たちが頼りにしているのは、受験産業や予備校です。そういうところが進路指導するときには、それを利用する度合いが多いでしょうね。私は、その実態をもう少し調べてみたいと思っていますので、よ。あなたの進路はこうですと、あたたかもカルテを書くようなやり方をしている

のではないですか。

加藤 受験生してみると、大学に入ってから、自分の意志に反してここに入学したという実感が出てくるのですよね。それが輪切りの悪い影響です。五月病のかなり原因になっているのですよね。

黒羽 しかし、一面においては、共通一次試験になってから五月病が若干減ったとも言われています。二期校というのがなくなったからだというお話もあるのですが。

齋藤 それともう一つは、入学後ほかの大学をもう一回受け直すという例も減ってきている。ある学部では、以前は一年経ってみないと、学部の人数が何人になるかわからないということがあったけれども、それはなくなってきた。慎重な選択をうながすという面もある。

黒羽 なるほど両面あるわけですね。  
齋藤 不満もあるけれど、この程度なんだから、がまんしなくちゃとなるわけですよ。(笑) そういうのもあるのです。  
黒羽 それは試験制度のせいだけじゃ

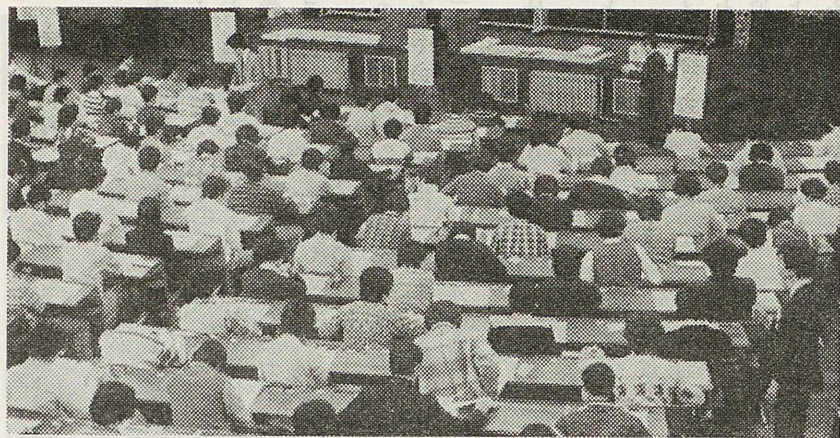
なくて、情報化社会ですから、そういう青年像が形成されてきているのです。

齋藤 もう一つには、たとえば、アメリカの社会で、教師からおまえはここへ行け、あそこへ行けと言われたら、親が怒ってきますよ。ところが、日本ではありがたうございましたと言った後、この社会土壤があるわけだ。

### (注1) ETS

(Educational Testing Service)  
アメリカ教育審議会(AC E)、カーネギー教育振興財団、大学入学試験委員会(CEEB)の三機関により一九四七年一月に設置された全米的な統一テスト実施機関。そのテストのうちではCEEBが実施する進学適性テスト(SAT)が最大のもので、毎年一〇〇万人以上の大学受験者に対して五〇年以上にわたって実施されている。ETSでは、調査・研究をその活動の基礎であるとして重要視し、テストに関する分野のみならず、人間発達や学習過程の領域及び現在の教育問題に関する様々な研究も行っている。試験問題は非公開。出題ではアイテム・プール方式またはアイテム・バンク方式がとられている。これは数千の問題を項目ごとに分類整理し、各問題の解答結果資料に基づいて、使用目的に応じて、そのいくつかを抽出し、組み合わせる出題する方法である。





## 志望変更ができるのはよいのか

**黒羽** 先ほど、試験期日のお話を雪に絡めたわけですが、一部に、共通一次試験と各大学の第二次試験を続けてやってみたらどうかという意見がありますね。そうすれば足切りもなくなる。ただ、それだと昔の試験と同じみたいですね。

**斎藤** 受験生が共通一次試験の願書を出すときに、最終の志望大学をはっきり決めてくれば、それでいいのですよ。

**黒羽** 十月に出願する段階でね。

**加藤** 最初から志望を一つに固定することができれば、一次と二次を一緒にできる。

しかし、そういう形式になると、現在の制度の趣旨を少し改めないといけない。つまり、自己採点方式もなくなるわけですね。いわゆる輪切りも一緒になくなりますね。一次と二次の間に時間の幅を置いて、そこで自己採点をして、二次試験の志望を決めるという方式を変える必要がある。

**黒羽** 極端に言えば、全国一斉国公立大学入学試験ということになるわけですね。

**加藤** 一本になるのですね。内容的に一次、二次があるというだけのことなのです。

**斎藤** 一次と二次の間に、時間の幅が必要というのは、技術的なことです。が、大学入試センターのコンピュータ処理の時間や、成績を各大学に郵送したりする時間が必要だということもあります。

**黒羽** それは必要ですよ。一次、二次とやるならば、今のインターバルはぎりぎりのところでしょう。

**加藤** いや、今のように趣旨を変えて、一緒にすればずっと縮まります。一緒に言っても完全に一緒にはなりません。

**荒川** それは、どのくらいですか。

**加藤** 大体一〇日位の間隔を置けばいいでしょうか。

**荒川** その場合には、志望校を変えられないのだから「初心忘るべからず」でやらないといけない。

**黒羽** そうすると、共通一次試験のシステムは、今とはかなり基本的な部分が違ったものになってくるわけですね。

**斎藤** 共通一次試験の発足と同時に、一期校、二期校をなくすということをしたので、それに対応する措置として、自己採点、最終志望の確定という考え方になった。

最近の受験産業提供のデータによる大

学のランク付け、受験生の輪切りが進行していることを考慮して、当初の考え方を改めるかどうか問題となるわけですね。

**加藤** 試験期日の繰り下げという点だけから考えますと、繰り下げるならば、雪のおそれがなくなる二月下旬以降にしなければいけないのです。そうすると、やはり試験の趣旨を変えて、一次、二次を一本にするというところで実施する以外に方法はないのです。

**斎藤** それから共通一次をもう少し早い時期にやるとか、教科・科目を少しずつ受験するようにしたらどうかという考え方もあるわけです。そうすると、今度は、高等学校卒業生は大学入学資格があるというのが日本の制度ですから、それを認めないことになってしまうんですね。

**黒羽** 一部に資格試験というのがあることはあるんですね。しかし、資格試験ということになりますと、別の難しい問題がありますね。

**斎藤** 資格を取った人が希望の大学へ入学できないで、どんなあふれてくる。資格試験を行う以上は、受かった人を全部入れる仕組みが別に用意されてくなくてはならない。

**黒羽** それからもう一つは、日本の現状では一八歳の段階で、「おまえは大学に行ける人だ」、「おまえは行けない人

だ」というふうに、烙印を押すということができるかという問題があります。私は個人的には、どうも難かしいんじゃないかと思うんですね。

**加藤** 日本の社会情勢じゃ、ちょっとできないですね。だから、今までのことを全部絡めて考えると、現行制度の性格を少しずつ変え、改善していくという以外にはない。

**斎藤** 高校側にも一次志望のときに、もう最後の選択を決めようという意見もあるようです。

**荒川** 高等学校としては、今の共通一次試験を始めるときに、授業のスケジュールもあり、一二月実施という線を繰り下げてほしいと要望した結果、今の時期に落ちついたわけです。

ここで、この制度も三回を経て、高等学校側でも、今までのあり方の長所短所などを総合的に考えてみるということがあります。

**斎藤** だから、一次、二次を一本にするということについて話が進めば、大学側としてもよく考えてみる必要があると思います。

**黒羽** それから、これはわが国の国民性というものもあるんじゃないかと思うんですが、何かと入試の批判はするけれども、結局、一日か二日のペーパーテストでばつと決まってしまうことには、余り抵抗がないんですね。要するに、校

花が咲いて、二、三日で散るのをめぐる心情みたいなものがある。

共通一次試験を一月にやって、次に私学を受験して、それから国立大学の第二次試験があつて、調査書を重視してというように、試験の期間が非常に長くなると、受験生も気分的に耐えられなくなるし、父兄もまた同様で、また高等学校の先生もそうなる。日本人のメンタリティーみたいなものが絡んでいるように思われます。

**斎藤** 日本人のメンタリティーもあるでしょうが、欧米では、一人の受験生が三つ以上の大学を受けるようなことは考えられないですね。ところが日本では、受ける人は一〇校くらい受けてしまうでしょう。

**黒羽** だから、アビトウア注2試験とか、バカロレア注3試験とかに、大学入学資格を託すということも、ドイツやフランスだからできるんであって、日本ではできないわけですね。

**斎藤** あれが機能しているのも、フランスとドイツが地続きということもあります。ドイツで資格がない人は、フランスの大学へ行ってしまう。フランスで資格がない人は、ドイツの大学へ行く。

**黒羽** そういうこともあるかもしれませんね。



## 追試験の会場は減らす

**黒羽** 追試験、再試験の問題がありますが、追試験は、体の具合が悪くてどうしても受けられなかったとか、やむを得ない事故の場合に行うんですね。数は非常に少ないし、また、どんどん減っている傾向がありますね。

それから、再試験というのは、先ほどのお話にあった、雪害のような災害や、大きな事故の際に行われますが、これは三年間やったことがないわけですね。

**荒川** 追試験を全部やめてもらうては、やはり困りますね。

**加藤** 来年は二か所に会場を少なくしようと考えています。

**斎藤** 会場が少なくなれば、受ける者も少なくなる。実に妙なことです。これは、なぜかと言うと、会場付近の人に追試験希望者が多いということなのです。だから、本当に追試験を必要とするなら、会場が減ろうと減るまいと人数は変わるはずがない。

**黒羽** 私は、文部省の大学入試改善会議で、追試験をやることについて、ずいぶん丁寧なことをなさるんですねと申し上げたことがあるんです。そこまでやらなくてもいいんじゃないですかと言った。

**加藤** これをやった趣旨は、一次、二

次の試験に日時的な間隔もあり、一度だけのチャンスで受験の機会をうばうのは問題がありそうだということから出発しているんですね。一次、二次を一緒に行えば、こんなことはもともと考えなかったのですよ。

**斎藤** 試験のチャンスをふやすほど、事故確率は高くなってくるわけでしょう。

## 二次試験は念入りに

**黒羽** 共通一次試験を実施するようになってから、各大学は二次試験にいろいろ工夫をしてみました。たとえば、面接をする大学がふえてきたとか、小論文を課す大学がふえてきたとか、また、科目数も大幅に減らしたりしておりますが、国立大学の二次試験について、どんな印象をおもちですか。

**荒川** 二次試験についての話題は現場ではそれほど強く出ていないようですね。生徒たちの志望も多様になっていすから、共通一次試験に比べて二次試験はどこがどうだという論が非常に淡い感じですよ。

**黒羽** ただ、小論文を課す大学がふえ

**加藤** 追試験に該当する人は、本来は多くいるはずがないという想定は、もともとあるんです。人数が減っているというのは、大部分は一度しかなければそれを受験に来るということなのです。その試験場の周辺に追試験の受験者が多いということは、追試験がなくてもいい人がかなりいるんですね。

**荒川** 追試験の平均点などは出ているんでしょう。

**加藤** 平均点は出ています。本試験と比べて、必ずしも高くないかな。

てきたし、私学でもかなり論述式がとり入れられてきているので、国語の教育方法が少し変わってきたというようなことはありませんか。

**荒川** 受験生の多い学校では、教科ごとの指導は、そういう方向にかなり力を入れていていると思います。

**加藤** 小論文、作文の時間なんていうのはどうですか。

**荒川** 受験のための作文指導という考え方はあまり出ていないと思います。

**黒羽** 国立大学協会ではどうなのですか。そういう細かいところは話題になさいますか。

**斎藤** 小論文というところ、どうしても評



価の客観性という問題があるんですね。ただ、全く客観的でなければならぬのかという議論もあります。私は、もう少し主観的な要素が評価に入ってきていいんじゃないかと思っているんですけどね。それから、実技を実施するところは、限られています。

**黒羽** そうですね。芸術系や教員養成系とかね。

**斎藤** 私は、実技試験というのはいい試験だと思えますね。私のところは工学系ですが実技検査をやりたいのですよ。

たとえば、以前は化学などは、高等学校から大学の化学科に入るとき、分析などをやらせたわけですよ。分析検査に一日六時間くらいかけていたのですが、そういうこともやらせればいいと思うんですが、現実には、物理的な制約もあってできないんですね。

それから、面接は、私のところだと、各学科単位で選抜をやるならばできるけれども、大学全体ではとてもできないというのが実情です。

**黒羽** 面接は、医学部が非常に多いですね。

**加藤** この問題も、全体の傾向から見ますと、全学一本というのは数が非常に少ないのですが、学部、学科ではそれぞれの特徴に従って、ずいぶん取り上げて実施している。その数は相当多いですね。小論文も国立では五六大学が行っている

す。私は、全学でやるよりも、学部単位でやっているという方が、むしろいい傾向だと思うのですよ。

**黒羽** 同じ大学でも、学部、学科によって教育内容は違うわけですからね。

**斎藤** 学科の判断で「これなら教えていける」と思えばいいのですからね。

**黒羽** 斎藤先生がおっしゃいました小論文の評価という問題は、私たち素人から見てもやはり気になるんですね。小論文の出題がふえてくることは、大変好ましい。

しかし、今の熾烈な受験競争で一点を争うようなときに、評価がどういうふうになっているのか、ということは大きな関心事だと思います。私なども入社試験の作文の採点をしたことがありましてね。

**加藤** それで、どうなさるのですか。

**黒羽** やはり、大変神経を使います。

公平につけているつもりなんですけど……  
**斎藤** たとえば、ある本を読ませて、その要旨を書けというような論文だと、かなり評価しやすいとは思わんだけれども。

**荒川** 一人が読んで採点するというところじゃないんでしょうね。

**斎藤** 最低三人くらいで見えていますね。

**荒川** そうすると採点の評価も大体のところに落ちつく。





**加藤** 少なくとも論述式になっている点はいですね。共通一次試験ではマークシートによる客観テストを行うので、二次試験では論述をと言っていますから。ただ、問題そのものの質的な点は、一般的に共通一次試験を意識し過ぎて難しくなったという見方もあり、もう少し研究する面もあるかもしれません。

**斎藤** 入学試験の問題という型がやはりあるのか、あまり難かしい問題ではないと思うけれども、ちょっと出題形式を変えたりすると、学生はバタッとできな

いようですね。

**加藤** そういう識別ができる二次試験であれば、いいじゃないですか。

**斎藤** しかし、受験生には評判が悪いらしいですよ。

**荒川** 今の生徒は余り本を読まなくなっていますね。映像文化の時代ですから、非常に視聴覚型の人間ができ上がっているのでしょうか。本を読むこと、それから考えること、書くこと、こういうことについて、二次試験の小論文テストが一つのきっかけになって、訓練される機会が与えられるようになってきた。その反応が、高等学校教育に出たかどうかと言え、むしろこれからだと思いますが、生徒たちにも、そういう訓練をしなければならぬということです。教育実習に来る学生諸君を見たときに一番感じるのは、非常に字を書くのがまずいんですね。

それから、今の高校生の顕著な特徴は、イラストをかくのがうまいのですね。漫画的表現が得意です。卒業アルバムを一つごらんになれば写真をいろいろ配置して、漫画でそれをつなげる。どのクラスもそれをやりますね。文章で記述することよりも、漫画的表現が今の高校生はうまいんですよ。

**黒羽** あれは学校で教育しているのではないのですか。社会科の教科書を小学校の一年生から全部調べたのですが、

「絵地図を描きましよう」なんていうことを、ちゃんとやっているのですよ。

**荒川** 一方で、やっぱり自分の考えをきちんと書くということがあればいいのですがね。

**加藤** 両方あればいい。

**黒羽** 以前は中学の試験というと作文だけじゃなくて、歴史とか、地理とかも記述式でしたよね。三題か四題出て、「室町時代の文化について述べよ」などと。

**荒川** 論述せよとか、説述せよなんていう問題を出す先生もいましたね。

**黒羽** 今の、高校ではああいうテストはやらないのですか。

**荒川** やらないですね。

**斎藤** どのようなテストをやっているのでしょうか。

**荒川** 日常のテストは、やっぱり客観テストが多いのではないですか。レポートなどで、論述的な面の評価を実施しているところは少ないと思います。公平性というのが出てきますから。

**黒羽** 中学までは市販テストを使ったりしても、高等学校は、かなりオリジナルウインドにやれるのじゃないかと思うのですが。

**斎藤** 本当ですね。やっぱり高等学校あたりから、もう少し記述式的な考え方を訓練してくれば申し分ないですね。

**黒羽** 入学試験の変化が、学校教育に

**加藤** 採点者が多ければ多いほどいいですね。

**斎藤** しかも、他の採点者に予測を与えないために、答案用紙とは別に採点票をつくっています。

**黒羽** 各大学の小論文の課題を見て、「これは細かい点数がつけられそうだな」というのと、「これはどうして採点しているのかな」というのがありますね。

**加藤** 課題の出し方によって、採点者の数などもそれに対応すれば、十分評価できると思いますね。

**黒羽** 小論文テストといえないかも知れませんが、筑波大学の医学専門学群で、科学雑誌の長い論文を読ませて、三つほど設問しています。二つは化学と地学の論述試験なんですが、一つは社会科学の論文で、これはなかなか工夫されているなと思いましたけれどもね。

**加藤** 二次試験については、大学がずいぶんと研究しなくてはならないし、これがうまくいきますと、先ほどの輪切りという問題も少なくなってくると思いますね。

**斎藤** 本当は、小論文とか面接の試験に時間をかけたいんですけどもね。一週間くらいかけてやるのかなりよくみることができのですが……。そのためには、受験生の数が、今のようによくてもとてだめなですね。

**黒羽** 国立大学の試験は、三月の四日、五日ごろ行い、二〇日までに合格者の発表をしますから、発表まで約半月あるわけですね。

ですから、相当複雑な試験をしても、採点のピッチを上げればできるという気がします。むしろ、私学の方は試験の数日後に合格者を発表しているの、非常に機械的な試験になっている。その点、国立大学の場合は、余裕があるのじゃないかと思うんですがね。

**加藤** もう少し能率的にやれるとは思いますが。(笑)

**黒羽** それは、高校入試でも言えますよね。発表するまで、どうしてあのように時間がかかるのかと思うんですが。

**荒川** 調査書を含め、誤りのないよう点検を何回もやりますと、あれだけかかるんですね。

しかし、時間がなかったとしても、や

## 二次試験は論述式で

**黒羽** 二次試験の学力検査の科目数は、三科目弱で、これは三年間大体変わしません。

**加藤** 大体、この辺で落ちついていると思いますね。二科目は全般的には必要ですね。

**黒羽** たとえば理科系だったら、数学と理科から一科目を課すということでは

はり二次試験は十分念入りにやっていただいたいと思いますね。

**黒羽** 五四年から五五年には、小論文や面接を課すところもふえたのですが、五五年と五六年とは、ほとんど横ばいですね。各大学にもう一ふんばりしていたきたいような気がしますね。

**加藤** もう少しふえてもいいですね。ただ、大学の負担は大変なものになりますね。

**斎藤** 入試には十分時間をかけた方がいいと思いますね。だから、二日くらいで試験をやるという、日本の考え方が身が不思議なのですね。

**加藤** 先に話が出たようないわゆる日本人の心情というか、短く一気にという空気が受験生側も大学側も支配してしまっている。私も長い方が賛成なんだけれども。

ね。場合によっては外国語もやりたいということになる。また、文科系でしたらやはり、外国語と国語と社会ということになるでしょうか。

問題の内容はあまり見ていないのですが、話によりやすと、論述式が多く、非常によくなった大学が多いと聞きますけれども。



いい影響を与えているか、悪い影響を与えているかということは、これからという事です。まだ三年ですから、評価

## 推薦入学で特別の才能の受入れも

黒羽 それから、入学試験の一つの形として、推薦入学というのがあります。が、国立の場合は志願者が多くて、実際は、推薦された者に対しても一度何らかの形で試験をしなければならぬという状態のようです。

加藤 推薦入学を認めている大学・学部でも、共通一次試験を課すのと課さないのがあります。

黒羽 それと、時期的な問題はどんなんでしょうか。

加藤 推薦は大体、共通一次試験の始まる前から行われます。

荒川 一次試験を課す場合、合格発表はどうなるんですか。一次をやった、その後になるんでしょう。

加藤 ええ、試験を課さない場合は二月八日まで、課す場合は二月二十六日まで合格発表することになるわけです。しかし、推薦入学で不合格になっても、二次試験を受けられる仕組みになっていますから、余り問題にならない。

齋藤 高等学校からの推薦を、私たちが信頼できるようでないといけないと思うのです。

は早いかもしれない。  
齋藤 少し早過ぎますよ。

ところが、高校にもいろいろあって、すべてが信頼できるとはいえないものもあるようです。どうして、この高等学校の推薦を受け入れ、ここは受け入れないのだと言われたときに困るのです。

黒羽 その点、私立大学の場合は指定校制度がとれるわけですね。

齋藤 私は、国立大学でも指定校制度をとってはどうかと、前に言ったことがあるんですが、特に、職業高校からの受験生を受け入れるためには、推薦入学をもっと行った方がいいのですよ。

加藤 現実に推薦入学では、職業高校を対象にしているのが多いですね。

齋藤 ハーバード大学は、成績のよい者から三分の一、地域の有力者などから推薦のあった者を三分の一、それからあとの三分の一は特殊な技能とか魅力ある個性をとるという方法をとっているんですね。

成績順で集めたら、学生が非常にモノクロマティックになって、学生間で刺激し合うということがない。学園というところは、一つの場所違った個性がまし

り合うことが大切で、そうでなければ通信教育でも足りる。金持ちの息子にも会い、スポーツ選手にも会い、青白い秀才がその中にまじることが必要なんだというのを学校の方針として掲げている。

黒羽 応援団長候補をとるとか、学生新聞の編集長候補をとるとかするらしいですね。

齋藤 そういうことを私はやりたいですね。ところが、それをやる条件として、専門科目が理解できるように、低学年の段階で教育できるような厚みを持つていなくてはならない。それが日本には、不足している。

加藤 一般教育のあり方を、かなり変える必要があるのですが、それにしてもできる範囲で、特別の才能の受け入れを推薦入学でもう少し色濃くしていきたいものと思います。

齋藤 早急にはいかないかも知れないが、基本的にはどの大学もいい学生を育てたいのだから、もっと考えるべきですよ。

黒羽 大学側にも自主的な努力をもう少し期待したいですね。良い構想を大学が持ち込めば、財政的な措置も途が開けると思うのですが……。

齋藤 大学も少しずつでも努力していかなくちゃならない。人も必ずしも足りないわけじゃない、再編成を考えれば、ずいぶんできると思う。

## 足切りは実際には少ない

黒羽 もう一つ、二次試験との絡みでは足切り問題がありますが、これはどうも評判が悪い。結果的には、足切りをやる大学の数は非常に少ないようです。

齋藤 私のところは五倍と定めているのですが実際にはやっていない。もうやめようかとも思っているんですよ。

加藤 足切りを宣言しているのは、全体で三割くらいですかね。

齋藤 足切りで、実際ののくらしい落とされているんですか。

黒羽 全体で約六、五〇〇人、うち国立は一一大学二四学部で、三、二二七人、公立が少し多く、これは試験日を変えている大学のもので、実質的には非常に少ないですね。

加藤 足切りをすると決めている大学でも、現実にはしていないところが多いですね。しかし、さきほどの輪切りとも関連することですが、本当の意味で足切りがなくなっているのかどうか。

黒羽 だから、案外、自己採点であきらめないで受けたら受かったということもある。

齋藤 案外そうかもしれないですよ。できない者は、自分ができないこともわからないからね。(笑) できなかったとわかる者は、ある程度できていますよ。

## 大都市では試験場の設定が大変

黒羽 次に、試験場の指定の問題がありますね。これは大変なんですか。

齋藤 今は居住地(県)受験方式をとっていますが、横浜国立大学の例ですと、横浜国立大学の二次試験を受ける人数の倍くらいが来て、試験会場の確保が困難なわけです。

黒羽 高等学校を借りてやるわけですね。

齋藤 高等学校もお借りしているのですが、いろいろ問題があって、つらいですね。

加藤 神奈川県は過密ですね。だから、神奈川県に対しては東京から教職員

なあ。七科目ゼロだから、まさに「007」だね。(笑)

荒川 解答は書いていますか。

加藤 受験番号はすべてきちんと書いてあるが、解答はまるつきり書いていないのです。二日間何も書かないでがんばっているんですね。この総点ゼロは別として、各科目もすべて最低がゼロです。このこと自体、足切りを云々する以前の問題だという気がするんです。

黒羽 やっぱ、三三三万人もいますと、いろいろな人もいるわけですよ。

が応援に行ってるんですよ。

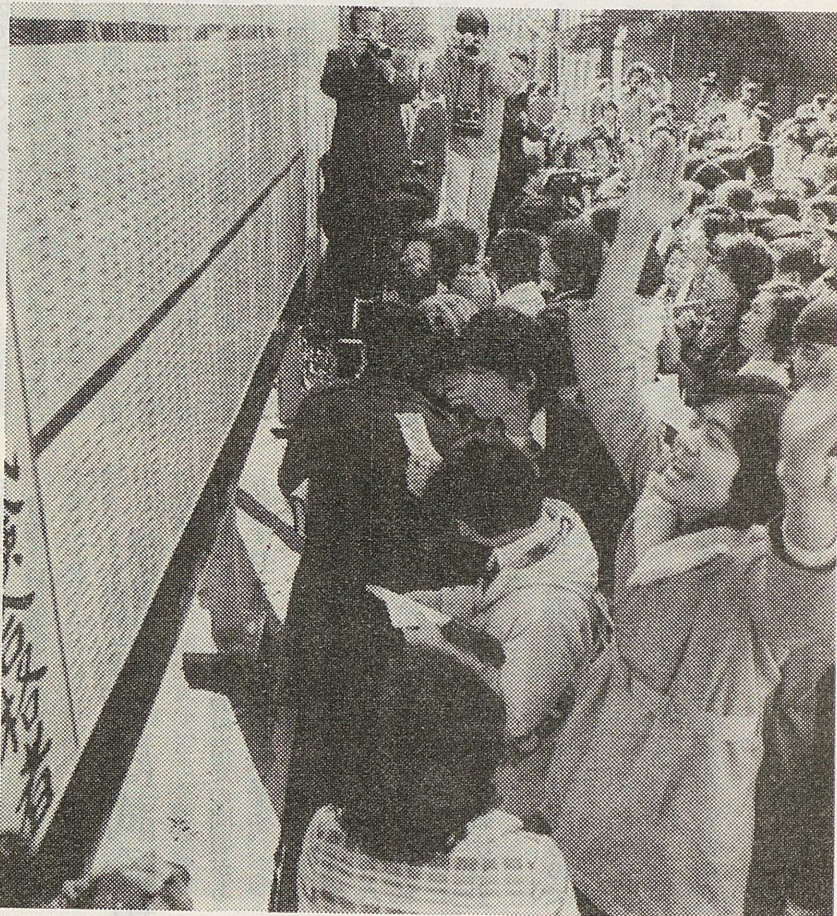
齋藤 同じような問題が埼玉県にも起こっている。また、千葉県もやがて起こる問題だから、首都圏という構想を考える必要もある。

黒羽 なかなか、ご苦労があるわけですね。そうしますと、将来、今のやり方が変わる可能性があるわけですか。

加藤 国立大学協会が各地区ごとに検討していますが、都道府県単位の原則はできるだけ維持することとしています。

しかし、大学側、あるいは地域ごとに特別の事情があるときは、この原則に微調整を加えていかなければならないと考え





ています。五七年度は大阪府・京都府間と兵庫県・鳥取県間で一部が変更になりますね。

**荒川** 試験場についての要望は、各地区にたくさんあるんです。交通機関の関係で、隣の県の方が近いとか、雪の心配などもあります。

そうした要望をまとめてお願いしているわけですが、なかなか現実は大変だと思っています。

**加藤** もともとこのことは、共通一次

試験の発足以前にも議論したのですが、議論すると、あっちこっちで際限がなくなってしまうので都道府県単位に落ちついたのですよ。

**荒川** 全国から集まると、いろんな要望が出されるのです。しかし、二地区だけでも改善していただいたらありがたいですね。

(注2) アビトゥア (Abitur)  
西ドイツの後期中等教育校ギムナジウムの卒業認定と大学入学資格を兼ねている。これを取った者は、かつては自由に大学を選ぶことができたが、最近では必ずしも自由に選べなくなっている。試験には大学側は関与せず、多くの州ではギムナジウムの校長を委員長とする試験委員会によって行われるが、水準を維持するために試験基準の統一が図られており、三出題分野から各一科目を含めて四科目について筆記試験(三科目)と口述試験(最低一科目)が行われる。

(注3) バカロレア

(baccalauréat)

バカロレア、技術者バカロレアはフランスの後期中等教育校リセの修了及び大学やグランゼユール準備校等への入学を認定する国家学位で、この資格を取得しなければ、リセを卒業することも高等教育機関に進学することもできない。この試験は全国一律に行われてきたが、受験者の増加もあって、教育省の一ないし数アカデミー(大学区で日本の教育委員会も兼ねる)単位に行われることになった。試験科目はA・Eコース別に五ないし八科目で、筆記及び口述(または実技・実験)試験が行われる。合格者の約八〇%が高等教育に進んでいると推定されている。なお、大学入学資格に認定されている。

国際バカロレア

資格は、スイスの国際バカロレア事務局が授与するもので、これとは別のものである。

## 来年度は私立大学も参加

**黒羽** 私立大学が参加することがあるのですか。

**斎藤** 五七年度から、産業医科大学が参加することになりました。

**黒羽** 私立医科大学協会は、まとまって参加するという方針はとらないのですか。

**斎藤** そういう意思表示はありません。私立大学の参加が多いと、今の体制では大きな問題となります。

**黒羽** 数多くの私立大学となるとね。

**斎藤** 現在の共通一次試験のシステムでは、職業高校を十分にフォローするに至っていない。それで、職業高校からの志願者は、共通一次の志願者の一%しかないのです。その一%以外の人が、私立大学を受験している。職業高校のことを真剣に考えないといけませんね。その突破口の一つとして、バリエーションのある試験問題を準備することが積極的な方法です。

次に、消極的な方法として、受け入れる大学が、共通一次試験の教科ごとのウエイトをつけて、何とか職業高校生も入れるような配慮をしていくということですね。それから二次試験で工夫していくということ。

**黒羽** 私立大学が、ゼネラルな問題と

して参加できるかできないかということ、は、私立大学の事情にもよるわけです。

**加藤** 今の段階では、私立大学側の事情もある。

**荒川** 時期の問題があるでしょう。

**斎藤** 私立大学が参加するようになる、あるいは試験場の問題はわりに楽になる。

**黒羽** 時期が一番問題でしようね。私立大学の場合、学部ごとに入学試験を行うことは、経営上から言って、やむを得ないことだと思われそうです。

**荒川** 入試をめぐる、私立大学の関

## 六〇年度以降の入試

**黒羽** 最後になりますが高等学校の教育課程が来年度から変わります。学年進行で実施されていきます。これにそった入試は、昭和六〇年度からになるわけです。大分先のようなですが、入試科目の設定が現実的に高等学校のカリキュラム編成に影響してくるというので、話題になっております。その点についていかがでしょうか。

**荒川** 国立大学協会で、去年の秋に出された基本の方針と、高等学校長協会側の考え方は、おおよそ合っていると思

係者と会ったことがあるんですが、その段階では、共通一次試験に参加しようとする動きはあまりないようでした。

**加藤** 現実にあるとすると、医科大学系でしょうね。

**黒羽** 私立大学の多くがこれに加わるとなると、一種の大学入学資格試験みたいなものになって、受かった人と受からなかった人との取り扱いの差も生じる。

片方で、放送大学構想などにあるように、生涯教育の理念から入学資格を弾力化する動きも出ている。

将来の問題として、そのような問題とも絡むことも予想されます。

そういうことで、引き続き検討を続けていくような課題が多いですね。

ます。

現在、高等学校長協会側では、具体的にどのような入試科目が望ましいかというのを、都道府県単位に調査をしております。まためにかかっております。国立大学協会が今年の秋ごろ中間案ができ上がるということですので、それと歩調を合わせるといって、私たちの意向を打ち出していきたくて考えております。

**斎藤** 国立大学協会の第二常置委員会からの提案も、五教科を対象とし、必修科目に選択科目を加えるという大枠で、



総会で了承されています。

荒川 この点については職業科から進学する生徒にも十分配慮していただきたいと思っています。

黒羽 そうすると、高等学校長協会と国立大学協会とは、基本的な考え方ではそれほど違いがないというので、大学入試センターもあまり心配はないわけですね。あとは、そこをきめ細かく詰めていく努力を……。

加藤 技術的に詰めるということになります。基本は、現在の共通一次試験の趣旨をそのまま受け継ぐ。現在の一般的、基礎的な学力を共通一次試験でテストするという狙いを、そのまま生かしますと、今度の教育課程では、必修科目プラス選択科目ということになるわけです。

黒羽 現在の五教科七科目の出題範囲というのは、高等学校の卒業に必要な単位数のほぼ半分くらいをカバーしていて、四〇単位ちょっとになりますね。今度の必修は、体育とかの実技を除くと、二〇数単位分くらいになってしまいます。やはり高等学校の四〇単位分くらいは、共通一次試験の範囲にしようということになってくるわけですね。

斎藤 大体考え方としては、四〇単位をカバーしたいと思っています。

黒羽 その四〇単位の中に、「工業数

るかもしれないし、ということですね。

加藤 プラス・アルファの選択科目をどうするかという案が、まとまりつつあるわけですが、職業高校についての科目設定には非常に問題がありますね。というのは、今度の新しい教育課程の必修科目レベルに見合う科目が少ないんです。むしろ、二次試験に見合う内容のものになってしまいう。そこで困っているのです。

黒羽 文科系、理科系に分けて行うという問題はどうなっているわけですか。

加藤 これも、大学側で検討していただくことにして、大学入試センターとしてもその考え方の長所短所などを国立大学協会に伝えることとしています。

斎藤 たとえば、文科系、理科系を分けて行う場合も、理科系を選んだ者が共通一次試験の結果を見て、文科系にいきたいというときに、この制度では全然対応ができない。

黒羽 その問題があるのですね。そうすると、やはり、分けるのがいいのかということになります。

荒川 そのことについては、今のところ積極的な意見は出ていないですね。

加藤 高等学校の側からも、分けるという意見はまだ出てこない。

斎藤 分けると、逆に高等学校の教育体制を乱すのではないでしょう。

荒川 そのことが、高校教育に受験準

備的空氣を濃厚にすることが懸念されるわけです。

加藤 六〇年度からの共通一次試験のあり方については、大学入試センターでの審議をまとめたものを国立大学協会へもお送りしますが、職業科の取り扱いについては、これからもっと研究をつづけたと思っています。

黒羽 今日は、長時間にわたりどうもありがとうございました。

## 昭和五七年度

### 国公立大学入学者選抜のあらまし

共通第一次学力試験を取り入れた国公立大学の入学者選抜は、来年度で第四回目を迎えます。昭和五七年度の共通第一次学力試験には、私立の産業医科大学も加わるようになりました。国立大学及び産業医科大学に入学を志願する者は、共通第一次学力試験を受験しなければなりません。

昭和五七年度の共通第一次学力試験及び各大学の第二次試験のあらましは、次のとおりです。

#### 1 共通第一次学力試験の出願資格

- 共通第一次学力試験に出願できる者は、次のいずれかに該当する者です。
- (1) 高等学校（盲学校、聾学校、養護学校の高等部を含む。以下同じ。）を卒業した者及び昭和五七年三月卒業見込みの者
  - (2) 高等専門学校第三学年を修了した者及び昭和五七年三月修了見込みの者
  - (3) 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び昭和五七年三月三十一日までにこれに該当する見込みの者
  - (4) これらに該当する者は、次のとおり。  
① 外国において、学校教育における

一二年の課程を修了した者及び昭和五七年三月三十一日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部大臣の指定したもの

- (2) 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び昭和五七年三月三十一日までに修了見込みの者（立教英国学院高等部がこれに該当する。）
- (3) 文部大臣の指定した者（国際バカロレア資格を有する者で一八歳に達したものはこれに含まれる。）
- (4) 文部大臣が行う大学入学資格検定に合格した者及び昭和五七年三月三十一日までに合格見込みの者
- (5) その他大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同



出題教科・科目等

| 教科  | 試験時間 | 配点   | 科目                                         | 科目選択の方法                                                                                                                                                                                 |
|-----|------|------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国語  | 100分 | 200点 | 現代国語と<br>古典Ⅰ甲                              | 「現代国語」と「古典Ⅰ甲」をあわせて解答する。                                                                                                                                                                 |
| 社会  | 120  | 200  | 倫理・社会<br>政治・経済<br>日本史<br>世界史<br>地理A<br>地理B | 2科目を試験室で選択解答する。<br>ただし、「倫理・社会」と「政治・経済」及び「地理A」と「地理B」を、それぞれ2科目として選択することはできない。                                                                                                             |
| 数学  | 100  | 200  | 数学Ⅰ<br>数学一般                                | 1科目を解答する。<br>(ただし、「数学一般」を解答できる者は、高等学校で「数学Ⅰ」の科目を履修せず、「数学一般」の科目を履修した者に限る。大学入学資格検定合格者は、検定試験受検の際に「数学一般」を選択した者に限る。〔注〕参照)                                                                     |
| 理科  | 120  | 200  | 物理Ⅰ<br>化学Ⅰ<br>生物Ⅰ<br>地学Ⅰ<br>基礎理科           | 「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」及び「地学Ⅰ」のうちから2科目を試験室で選択解答、又は「基礎理科」1科目を解答する。<br>(ただし、「基礎理科」を解答できる者は、高等学校で「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」、「地学Ⅰ」の科目を履修せず、「基礎理科」の科目を履修した者に限る。大学入学資格検定合格者は、検定試験受検の際に「基礎理科」を選択した者に限る。〔注〕参照) |
| 外国語 | 100  | 200  | 英語B<br>ドイツ語<br>フランス語<br>英語A                | 1科目を試験室で選択解答する。<br>(ただし、「英語A」を解答できる者は、高等学校で「英語B」の科目を履修せず、「英語A」の科目を履修した者に限る。大学入学資格検定合格者は、「英語A」又は「英語B」のいずれも選択することができる。〔注〕参照)                                                              |

〔注〕 「数学一般」、「基礎理科」、「英語A」を選択しようとする者は、出願の際そのことを志願票で届け出なければならない。これらの科目を受験することを認められた者（受験票に表示する。）は、他の科目に変更して解答することはできない。

2 共通第一次学力試験と第二次試験

等以上の学力があると認められた者

昭和五十七年度の共通第一次学力試験は、昭和五十七年一月一六日（土）、一七日（日）に行います。

また、各大学の第二次の学力試験、面接、小論文、実技検査などは、三月四日（木）から各大学が定める期間に実施されます。

なお、一部の公立大学は、三月五日（金）以降に時期をずらして、この第二次試験を実施します。

1 共通第一次学力試験

(1) 共通第一次学力試験は、主として高等学校における一般的・基礎的な学習をどの程度達成したかを判定することを目的としています。この試験は高等学校学習指導要領に準拠し、高等学校の必修科目の範囲内から出題します。ただし、外国語は選択教科ですが、大学教育の要件として出題の対象としています。

出題教科は、すべてを受験しなければなりません。一教科でも受験しなかった場合には、共通第一次学力試験を受験したことにはなりません。したがって各大学の第二次試験に出願することができません。

(2) 『社会』の「日本史」については、

高等学校三年の三学期の履修の状況に配慮し、高等学校学習指導要領の「日本史」の「(七) 現代の世界と日本」(第二次世界大戦終結以降の事象)は出題範囲から除外しています。ただし、中学校の履修程度の出題を行うことはあります。

(3) 共通第一次学力試験は、主として、多肢選択による客観式の検査方式で出題し、解答はマーク方式によります。この方式は、三五〇万人に達すると予想される入学志願者の解答の採点処理を迅速に行うため、また採点の公平を期するために採用しているものです。

2 第二次試験

(1) 第二次試験の内容は、各大学の学部・学科等の目的、特色、専門分野の特性にふさわしい能力と適性を有しているかどうかを判定することを主な目的として、各大学の必要に応じて行われます。

第二次試験の実施に当たって、各大学は共通第一次学力試験との関連から、次の諸点について配慮することにしていきます。

① 第二次の学力検査に出題する教科・科目数は、その大学の学部・学科の特性に応じ、必要な最小限のものにする

② 高等学校の工業科、商業科など専

門教育を主とする学科の卒業者のために、職業に関する基礎的、基本的な科目を出題し、選択解答できるようにする

③ 第二次の学力検査の出題形式は、入学志願者の記述力、考察力、表現力などが検査できるようにする（特に、共通第一次学力試験に出題された科目から出題を行う場合には、記述力、考察力、表現力などについて論述形式で検査するようにつとめる。）

(2) 第二次の学力検査を実施する大学では、共通第一次学力試験の成績と第二次の学力検査の成績とを合理的に総合して判定します。この場合に、特に、共通第一次学力試験の成績が、この試験の目的に即して、十分適切に評価されるように配慮することとしています。

3 小論文、面接、実技検査

第二次試験は、第二次の学力検査のほか小論文、面接、実技検査などにより行われます。

これらは、学力検査だけでは判定し得ない能力・適性などを評価するもので、とくに、第二次の学力検査を実施しない場合には、これらを行うことが望ましいとされています。



- 4 共通第一次学力試験の出願受付、出願方法**
- 1 受験案内の交付等  
受験案内と出願に必要な書類（志願票）などは、昭和五十六年七月上旬から各大学で交付します。
  - 2 出願期間  
出願期間は、昭和五十六年一〇月一日（木）から一〇月一五日（木）（消印有効）までです。
  - 3 出願方法  
（1）まず、受験案内に折り込んである納付書に志願者本人の氏名などを記入して、日本銀行（代理店、歳入代理店（銀行・信用金庫など））又は郵便局で検定料（八千円）を納付し（納付期限・昭和五十六年一〇月一五日）、その領収証書を志願票の裏に貼り付けます。  
（2）高等学校を昭和五十七年三月卒業見込みの者は、志願票に必要事項を記入し、在学する高等学校長に提出します。高等学校長は、出願書類を取りまとめ大学入試センターへ書留扱いで郵送します。  
（3）高等学校卒業見込みの者以外の者は、志願票のほか、高等学校卒業証明書などの書類を取りそろえ、受験案内に折り込んである封筒を使用して、大学入試センターへ書留扱いで郵送します。

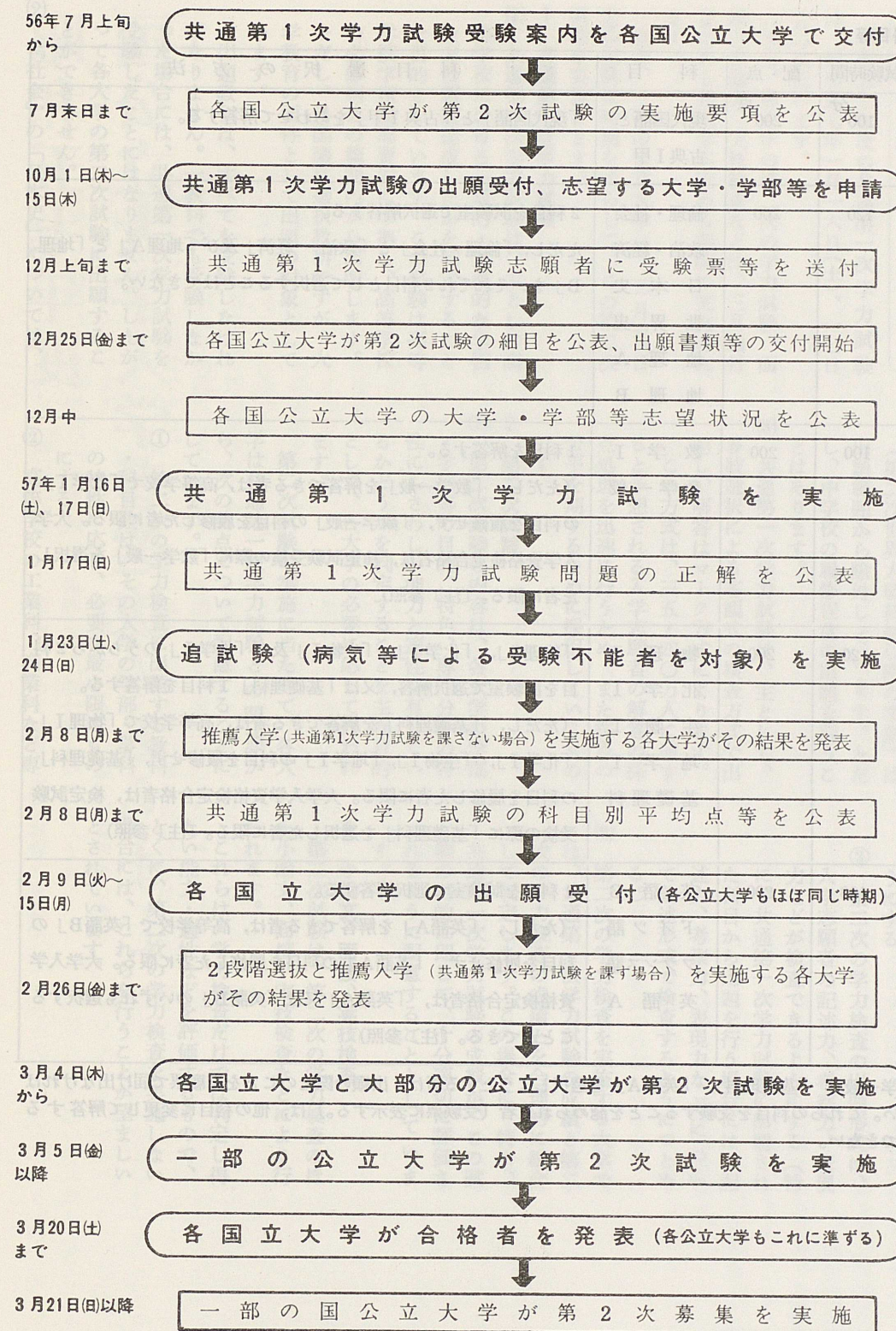
- 3 志望大学・学部への申請**  
志願者は、出願までに志望する大学・学部を決め、共通第一次学力試験の出願の際に第一志望、第二志望を申請することになります。
- 第一志望は、必ず申請しなければなりません。各大学の第二次試験に出願するときは、ここで申請した第一志望、第二志望のいずれかを選んで出願することが原則ですが、自己の勉学の進捗や共通第一次学力試験の自己採点などによって、志願者が特に必要があると判断した場合には、ここで申請した第一志望、第二志望以外の大学、学部に変更することがあります。この場合、変更を届け出る必要はありません。
- 4 確認はがきの送付**  
大学入試センターは、志願票の記入事項を電算機に登録したのち、その事項を照合・確認するため、はがきに打ち出して各志願者に送付します。この確認のはがきは、出願書類を発送した日からおよそ三週間後には志願者の手元に届くこととなります。
- 5 受験票**  
大学入試センターは、出願を受理した志願者に対して、受験番号と試験場を記載した受験票などを、一月上旬から一月上旬までの間に、直接志願者あてに郵送により交付します。
- 受験票などが一二月一〇日（木）までに

到着しなかった場合、本人又は在学する高等学校長は、一二月一五日（火）までに「速達郵便はがき」（「受験票未着」と朱書）に高等学校等コード、出身高等学校名、住所、氏名、連絡先など参考となる事項を記入して届け出なければなりません。

試験の期日  
及び  
試験時間

| 期 日               | 試 験 時 間         |
|-------------------|-----------------|
| 昭和57年<br>1月16日(土) | 国 語 12:00—13:40 |
|                   | 理 科 14:30—16:30 |
| 昭和57年<br>1月17日(日) | 社 会 9:00—11:00  |
|                   | 数 学 12:20—14:00 |
|                   | 外国語 14:50—16:30 |

**3 昭和五十七年度  
入学者選抜実施日程**



〔備考〕産業医科大学の実施日程は、国立大学と同じである。



## 5 試験場

試験場は、各大学が設定し、大学入試センターが志願者の出願資格の別に応じて、次のとおり指定します。

- ① 高等学校を昭和五十七年三月卒業見込みの者（通信制の課程によるものを除く）……原則として在学する高等学校が所在する都道府県内の試験場
- ② 高等学校を卒業した者及び通信制の課程による卒業見込みの者……出身高等学校が所在する都道府県内の試験場又は志願者の現住所欄に記入した都道府県内の試験場（後者の場合は、本人が申請した場合に限る。）
- ③ 大学入学資格検定合格者等……志願者の現住所欄に記入した都道府県内の試験場

## 6 正解の公表など

大学入試センターでは、共通第一次学力試験に関する次の資料を報道機関を通じて公表します。

- ① 入学志願者の志望する大学・学部

次のとおりです。

- ① 疾病、負傷などにより試験を全教科にわたって受験できない者で、試験開始日の前日の昭和五十七年一月一五日（金）に追試験の受験を申請し許可された者

なお、試験開始直前と開始以後の疾病・負傷のため受験できなかった者は、追試験を受験することはできません。

- ② 定期運行している交通機関の事故や一部の地域の災害などにより、試験の全教科又は一日分の教科の試験を受験できなかった者

これらの追試験の受験許可は、志願者が指定された試験場を設定している大学で審査のうえ決定され、必要な事項が通知されます。

## 2 再試験

再試験は、雪や地震などによる災害その他実施する側の責任によって、所定の期日に全教科又は一部の教科の試験が実施できなかった場合に実施します。

特に、降雪のために試験開始時刻の繰り下げによっても実施が困難になった場合は、追試験と同様、昭和五十七年一月二三日（土）、二四日（日）の二日間を実施することを考慮しています。

- ② 試験問題及びその正解・配点……試験実施後すみやかに
- ③ 科目別平均点、標準偏差、最高点及び最低点等……二月八日（月）まで

共通第一次学力試験の個人別成績は、発表しません。

## 7 身体に障害のある者についての試験実施上の取扱い

なお、試験問題の大問別の配点は、問題冊子に印刷してあります。また、大問の次の段階（小問）の配点については、正解公表の際に発表します。

- ① 盲者（強度の弱視者を含む）である入学志願者に対しては、点字による出題・解答、試験時間の延長、特定試験場の設定など
- ② 点字受験者以外の身体に障害のある者に対しては、必要に応じて、特定試験場の設定、文字による解答、手話通訳者や介助者の付与など

特別の措置を希望する者は、出願の際所定の出願書類のほか、「身体障害者受験措置申請書」を提出することになります。

また身体に障害がある者のうち、重度の障害を有する者（受験案内25ページ参照）

## 10 各大学の第二次試験の要項の公表

- (1) 各大学は、第二次試験の内容の基本的な事項（学力検査の実施教科・科目、実技検査や面接、小論文等の有無など）を昭和五十六年七月三十一日（金）までの間に決定して公表します。
- (2) 各大学は、学部・学科の募集人員、出願期日、第二次の学力検査の実施期日、検定料などを記載した細目を昭和五十六年一月二五日（金）までに発表します。

各大学の第二次試験に関して、すでに決定されている事項は、次のとおりです。

- ① 第二次試験の検定料……国立大学の場合は、九千円（夜間で授業を行う学部では五千五百円）です。公立大学及び産業医科大学の検定料は、各大学が募集要項などに記載します。
- ② 第二次試験の出願期間……昭和五十七年二月九日（火）から二月一五日（月）まで
- ③ 第二次試験の実施期日……昭和五十七年三月四日（木）から各大学が定める期間

- 照）は、志望する大学・学部で修学上特別な配慮を必要とすることが起こり得ますので、共通第一次学力試験の出願の前に、あらかじめ志望する大学と協議し、その大学から協議書の交付を受けて出願することとなります。
- 協議が早急に整わないときには、協議中であるという文書でも出願できます。
- ## 8 各大学に対する共通第一次学力試験の成績の提供
- 各大学は、第二次試験の成績と合わせて可否を決定するため、その大学の入学志願者について共通第一次学力試験の成績を大学入試センターに請求します。これに対し、大学入試センターは、個人別の科目別得点や総得点をその大学に提供します。
- これらの共通第一次学力試験の成績と第二次学力検査などの成績とを総合する方法（例えば配点比率）は、各大学の自主的な決定に委ねられています。
- ## 9 追試験、再試験
- ### 1 追試験
- 追試験は、昭和五十七年一月二三日（土）、二四日（日）の二日間、二か所の追試験場で実施します。追試験の試験教科・科目、試験時間などは、本試験に準じて行います。追試験を受験できる者は、
- ### 2 再試験
- 再試験は、雪や地震などによる災害その他実施する側の責任によって、所定の期日に全教科又は一部の教科の試験が実施できなかった場合に実施します。
- 特に、降雪のために試験開始時刻の繰り下げによっても実施が困難になった場合は、追試験と同様、昭和五十七年一月二三日（土）、二四日（日）の二日間を実施することを考慮しています。
- ## 11 特別な選抜方法
- 特別な選抜方法としては、「推薦入学」、「第二次募集」及び「二段階選抜」とがあります。
- ### 1 推薦入学
- (1) 推薦入学は、入学定員の一部について、出身学校長の推薦により、学力検査を免除して面接、小論文などの成績と調査書の内容などを主な資料として可否を判定する方法ですが、共通第一次学力試験を受験することは原則として必要とされています。しかし、大学、学部の目的、特色、専門分野などの特性に応じて、共通第一次学力試験をも免除している大学もあります。
- (2) 推薦入学についての選抜方法などについては、各大学が定め、七月三十一日（金）までに公表します。
- また、判定結果については、昭和五



七年二月二十六日(金) (共通第一次学力試験を課さない場合は二月八日(月))までに発表します。

(注) 共通第一次学力試験を課する推薦入学を国立大学に出願し、これに不合格となった場合は、その国立大学の第二次試験を受験することは可能です。

## 2 第二次募集

第二次募集とは、大学が合格者発表後、昭和五七年三月二日(日)以降に行うもので、「入学定員の一部を留保して行うもの」と「入学定員に欠員が生じたときに行うもの」の二通りがあります。

この第二次募集を受験できる者は、共通第一次学力試験を受験している者で、いずれの国(公)立大学にも合格していないものとなります。

これらの者を対象とする試験は、三月二日(日)以降に各大学が適宜定めて実施します。

## 3 二段階選抜

合格者の決定は共通第一次学力試験と第二次の学力検査などの結果を合理的に総合し、その他の資料も合わせて行うことを原則としています。しかし、各大学において入学志願者の数が入学定員を大幅に上回り、第二次学力検査などを綿密に実施することが困難であるため、特に必要がある場合は、二段階選抜を実施することが出来ます。この場合には、主として調査書の内容と共通第一次学力試験の

成績によって第一段階の選抜を実施し、その合格者について、更に必要な検査などを行って最終的な合格者を決定することになります。

ただし、この場合には、第一段階の選抜に合格させる者の数が入学定員の三倍を下回らないよう配慮することになっています。

二段階選抜を行う大学は、第一段階の選抜の合格者を、昭和五七年二月二十六日(金)までに発表します。

# 昭和五六年度 共通第一次学力試験の実施状況

昭和五六年四月に国公立大学に入学を志願する者を対象とした共通第一次学力試験は、特に北陸地方を中心とした昭和三八年以来の豪雪のため、円滑に実施できずかどうか懸念されたが、一部の試験場で試験開始時刻を繰り下げて実施したほかは、当初の計画のとおり行われ、どこおりに終了した。

## 一、出願の受付、受験票の発行

(一) 昭和五六年度の出願受付は、昭和五五年一〇月一日から一五日までの間に行われ、合計三五七、六三三人の志願者があった。(表1)

志願者の総数は前年度より約八千人増加し、これまででは最も多くなったが、特に大都市周辺の志願者数が増えたのが特徴的であった。

第一志望の状況を見ると、理工系、医

歯系学部の志願者数が増えているものの、平均倍率は昨年と同様三・七倍であった。

(二) 志願票の受理後、志願者を都道府県別に算出し、試験会場を設定した。試験会場は合計二七三か所に及び、大学内試験会場二〇六か所(うち点字問題試験場四か所)、高等学校等を借用したものが六七か所あった。(表2)

## 二 共通第一次学力試験の実施

(一) 受験者数等

共通第一次学力試験は、昭和五六年一月一日、一日に全国二七三会場で一斉に行われた。また、病気等によりこの試験を受験できなかった者のために、追試験が一月一七日、一八日に四試験場で実施され、本試験と合わせ三四〇、七五七人が受験した。うち、追試験受験者は

わずかに一四三人(前年度一八六人)であった。また、欠席者数は合計一六、八七六人で、欠席率は四・七%であった。(表3)

なお、身体に障害がある者一六六人(前年度一三五人)については、受験の際障害の種類・程度に応じ特別の措置がとられた。(表4)

(二) 試験開始時刻の繰り下げ

本試験の二日目には、降雪による交通機関の遅延等により、福井大学ほか六大学の試験場で、試験開始時刻を繰り下げる措置がとられた。

(三) 正解の公表

試験問題の正解は、試験終了後、報道機関を通じて公表するとともに、後日、高等学校に通知した。また、追試験の正解は一月十九日正午に試験実施大学で公表した。



表1 共通第1次学力試験志願者数

| 区 分  | 入学定員   | 志願者数    | 倍 率 | 第 1 志 望 |        | 第 2 志 望 |        |
|------|--------|---------|-----|---------|--------|---------|--------|
|      |        |         |     | 国 立     | 公 立    | 国 立     | 公 立    |
| 56年度 | 95,426 | 357,633 | 3.7 | 315,847 | 41,786 | 239,210 | 54,999 |
| 55年度 | 94,506 | 349,566 | 3.7 | 308,011 | 41,555 | 240,923 | 56,831 |
| 54年度 | 92,824 | 341,875 | 3.7 | 294,962 | 46,912 | 241,306 | 68,172 |

(注1) 入学定員は、各年度4月1日のもの。

(注2) 昭和54年度の第1志望の1人は志望大学不明

(内 訳)

ア 出願資格別

| 区 分                | 昭和56年度         | 昭和55年度         | 昭和54年度         |
|--------------------|----------------|----------------|----------------|
| ① 高等学校卒業見込み者       | 229,825 (64.2) | 224,314 (64.2) | 228,987 (67.0) |
| ② 高等学校卒業生          | 126,473 (35.4) | 123,896 (35.4) | 111,526 (32.6) |
| ③ 大学入学資格検定合格者      | 848            | 820            | 774            |
| ④ 高等専門学校第3学年修了者    | 397            | 453            | 510            |
| ⑤ 外国の学校(12年の課程修了者) | 60             | 55             | 63             |
| ⑥ 在外教育施設修了者        | 12             | 5              | 2              |
| ⑦ 国際バカロレア資格取得者     | 5              | 8              | —              |
| ⑧ 文部大臣の指定した者       | 13             | 15             | 13             |

イ 男女別

| 区 分 | 昭和56年度         | 昭和55年度         | 昭和54年度         |
|-----|----------------|----------------|----------------|
| ① 男 | 271,213 (75.8) | 266,896 (76.4) | 259,925 (76.0) |
| ② 女 | 86,420 (24.2)  | 82,670 (23.6)  | 81,950 (24.0)  |

ウ 高校出身者の学科別

| 区 分   | 昭和56年度         | 昭和55年度         | 昭和54年度         |
|-------|----------------|----------------|----------------|
| ① 普通科 | 344,516 (96.7) | 336,281 (96.6) | 328,001 (96.3) |
| ② 農業科 | 561 (0.1)      | 573 (0.1)      | 557 (0.2)      |
| ③ 工業科 | 2,664 (0.7)    | 3,026 (0.9)    | 3,455 (1.0)    |
| ④ 商業科 | 923 (0.3)      | 1,018 (0.3)    | 1,138 (0.3)    |
| ⑤ その他 | 7,634 (2.2)    | 7,312 (2.1)    | 7,362 (2.2)    |

エ 届出選択科目(数学一般、基礎理科、英語A)の受験希望者

| 区 分    | 昭和56年度 | 昭和55年度 | 昭和54年度 |
|--------|--------|--------|--------|
| ① 数学一般 | 25     | 37     | 119    |
| ② 基礎理科 | 132    | 127    | 195    |
| ③ 英語A  | 3,700  | 3,998  | 4,623  |

表3 受験者数等

| 区 分                | 昭和56年度  | 昭和55年度  | 昭和54年度  |
|--------------------|---------|---------|---------|
| 受験者(所定の全教科目を受験した者) | 340,757 | 333,212 | 327,427 |
| 本試験(点字受験者を含む)      | 340,614 | 333,026 | 327,140 |
| 追試験                | 143     | 186     | 287     |
| 欠席者                | 16,876  | 16,354  | 14,448  |
| 全教科欠席者(追試験欠席者を含む)  | 15,772  | 15,359  | 13,637  |
| 一部教科欠席者(追試験欠席者を含む) | 1,104   | 995     | 811     |
| 欠席率                | 4.72%   | 4.68%   | 4.23%   |
| 追試験受験許可者           | 162     | 203     | 302     |
| 病気によるもの            | 158     | 202     | 301     |
| 事故等                | 4       | 1       | 1       |
| 追試験欠席者             | 19      | 17      | 15      |

三 共通第一次学力試験の結果

(一) 受験者の答案約一七〇万六千枚は、各国公立大学で取りまとめられ、大学入試センターへ返送された。大学入試センターでは、光学式マーク読取装置で答案一枚について三回の読み取りを行い、電算機に登録した。なお、受験番号欄などのマークもれやマーク誤りは、昨年よりやや減り一、〇三四件で発生率は〇・〇四%であった。

(二) 平均点等

本試験の全教科・科目を受験した三〇、六一四人についての総得点、科目別の平均点、標準偏差、最高点及び最低点を算出し、二月三日に報道機関を通じて公表した。なお、追試験については受験者数が少ないため公表しなかった。(表6)

まず、得点の分布状況について見ると九〇一点以上が約一、九〇〇人、八〇一点以上が約二八、〇〇〇人、七〇一点以上が約九二、〇〇〇人、平均点以上が約一七五、〇〇〇人であり、また二三〇点以下が約六〇〇人となっている。

今回の総得点の平均点は、六〇七・一二点で、昨年より約一〇点下回ったが、これは数学の平均点が約一点下がったことが反映したものとみられる。

教科別にみると、各教科二〇〇点満点の平均点は、国語が最も高く一三二・八六六、次いで社会が一二七・九七点、数学が一二三・三四点、理科が一一五・七

六六、外国語が最も低く一〇七・一八八となっている。

次に五教科の科目別の平均点を見ると、社会の科目(二〇〇点満点)で倫理・社会が七一・八八点と最も高く、政治・経済が六〇・六四点と最も低くなっており、科目間のバラツキは約一一点と前年(二一・五〇点)に比して半減している。なお、この社会では倫理・社会及び政治・経済の二科目を同時選択解答した者が一〇九、五三二人で全体の約三二%(前年度は約一八%)と急増しているのが注目されるが、昭和五七年度の共通第一次学力試験からは、この二科目を同時に選択解答することはできないこととなっている。また、理科については地学と物理の平均点に約一二点の差があった。

大学入試センターでは、各教科・科目間で難易度に著しい差が生じないように、できるだけ均質の問題を作るように努めており、今回の結果は前回より縮小されたものとなった。

科目間の平均点のバラツキは、試験問題それ自体の難易度の差によるほか、その科目を選択した受験者集団の学力レベルの相違など複雑な要因があり、これを全くなくすることはきわめて難しく、ブラス・マイナス五程度程度の差が生じることは、やむを得ないのではないかと考えているが、今回の結果についても詳細な

調査、分析を行い、今後一層の改善、努力をすることとしている。

なお、各大学が共通第一次学力試験の成績のほか、第二次試験の成績や高等学校からの調査書の内容などを総合する場合、種々の角度から受験生の学力を測定することが可能となるよう、各大学へ共通第一次学力試験の成績を提供する際には、受験者各人の得点のほかに、全受験者の総得点や各科目の得点について詳細な資料を併せて提供した。

表4 身体に障害がある者についての試験実施上の特別措置

| 区 分                       |                 | 56 年 度     | 55 年 度 | 54 年 度 |    |
|---------------------------|-----------------|------------|--------|--------|----|
| 対 象 者 合 計                 |                 | 166人       | 135人   | 143人   |    |
| 障 害 の 種 類                 | 視 覚 障 害         | 43         | 45     | 53     |    |
|                           | 聴 覚 障 害         | 55         | 44     | 49     |    |
|                           | 肢 体 不 自 由 等     | 68         | 46     | 41     |    |
|                           |                 |            |        |        |    |
| (内訳)                      |                 |            |        |        |    |
| 受 験 の 際 に 取 っ た 措 置 (延 数) | 視 覚 障 害         | 点字問題を点字で解答 | 12人    | 10人    | 9人 |
|                           |                 | 一般問題を文字で解答 | 10     | 10     | 14 |
|                           |                 | 照明器具の準備    | 3      | 8      | 1  |
|                           |                 | 窓側の明るい席を指定 | 14     | 22     | 27 |
|                           |                 | 拡大鏡等の持参使用  | 22     | 17     | 25 |
|                           | 聴 覚 障 害         | 手話通訳者の付与   | 4      | 2      | 3  |
|                           |                 | 座席を前列に設定   | 33     | 26     | 28 |
|                           |                 | 補聴器の持参使用   | 45     | 33     | 39 |
|                           | 肢 体 不 自 由 ・ 病 等 | 一般問題を文字で解答 | 24     | 15     | 9  |
|                           |                 | 別室を設定      | 16     | 14     | 10 |
|                           |                 | 特製机の使用     | 5      | 1      | 3  |
|                           |                 | 車椅子等の持参使用  | 20     | 14     | 24 |
|                           |                 | 介助者の付与     | 13     | 41     | 36 |
|                           |                 | 試験室を一階に設定  | 34     |        |    |
|                           |                 | そ の 他      | 42     |        |    |



表5 共通第1次学力試験受験者数、平均点の推移（本試験）

| 年 度<br>教科・科目名  |           | 昭 和 56 年 度           |                     | 昭 和 55 年 度           |                     | 昭 和 54 年 度           |                     |
|----------------|-----------|----------------------|---------------------|----------------------|---------------------|----------------------|---------------------|
|                |           | 受 験 者 数              | 平 均 点               | 受 験 者 数              | 平 均 点               | 受 験 者 数              | 平 均 点               |
| 全教科 (1,000点満点) |           | 340,614 <sup>人</sup> | 607.12 <sup>点</sup> | 333,026 <sup>人</sup> | 617.36 <sup>点</sup> | 327,140 <sup>人</sup> | 636.07 <sup>点</sup> |
| 国 語            | (国語全体)    | 340,614              | 66.43               | 334,026              | 69.37               | 327,140              | 65.99               |
|                | 国 語       | 340,506 (99.9)       | 66.45               | 332,935 (99.9)       | 69.39               | 326,550 (99.8)       | 66.11               |
|                | 受験番号誤り等   | 108 ( 0.0)           | 0                   | 91 ( 0.0)            | 0                   | 590 ( 0.2)           | 0                   |
| 社 会            | (社会全体)    | 340,614              | 63.38               | 333,026              | 60.31               | 327,140              | 57.87               |
|                | 倫 理・社 会   | 165,668 (48.6)       | 71.88               | 120,039 (36.0)       | 61.29               | 72,350 (22.1)        | 61.83               |
|                | 政 治・経 済   | 242,053 (71.1)       | 60.64               | 178,394 (53.6)       | 73.42               | 142,710 (43.6)       | 58.09               |
|                | 日 本 史     | 117,116 (34.4)       | 62.10               | 155,368 (46.7)       | 51.92               | 192,039 (58.7)       | 54.01               |
|                | 世 界 史     | 88,633 (26.0)        | 61.04               | 128,729 (38.7)       | 53.73               | 159,531 (48.8)       | 57.21               |
|                | 地 理 A     | 32,491 ( 9.5)        | 62.81               | 47,451 (14.2)        | 52.63               | 51,714 (15.8)        | 65.62               |
|                | 地 理 B     | 35,169 (10.3)        | 64.73               | 35,925 (10.8)        | 62.08               | 35,494 (10.8)        | 62.18               |
|                | 受験番号誤り等   | 98 ( 0.0)            | 0                   | 146 ( 0.0)           | 0                   | 442 ( 0.1)           | 0                   |
| 数 学            | (数学全体)    | 340,614              | 61.67               | 333,026              | 73.19               | 327,140              | 75.81               |
|                | 数 学 I     | 340,317 (99.9)       | 61.72               | 332,766 (99.9)       | 73.25               | 326,477 (99.8)       | 75.96               |
|                | 数 学 一 般   | 18 ( 0.0)            | 18.83               | 28 ( 0.0)            | 25.63               | 54 ( 0.0)            | 29.82               |
|                | 受験番号誤り等   | 279 ( 0.1)           | 0                   | 232 ( 0.1)           | 0                   | 609 ( 0.2)           | 0                   |
| 理 科            | (理科全体)    | 340,614              | 57.88               | 333,026              | 58.93               | 327,140              | 56.02               |
|                | 物 理 I     | 164,844 (48.4)       | 51.20               | 178,844 (53.7)       | 55.17               | 184,568 (56.4)       | 59.87               |
|                | 化 学 I     | 256,613 (75.3)       | 56.64               | 259,056 (77.8)       | 56.82               | 265,323 (81.1)       | 50.58               |
|                | 生 物 I     | 180,421 (53.0)       | 63.36               | 163,090 (49.0)       | 65.33               | 153,742 (47.0)       | 60.96               |
|                | 地 学 I     | 78,943 (23.2)        | 63.55               | 64,582 (19.4)        | 61.93               | 49,822 (15.2)        | 56.12               |
|                | 基 礎 理 科   | 115 ( 0.0)           | 36.81               | 107 ( 0.0)           | 31.11               | 159 ( 0.0)           | 32.47               |
|                | 受験番号誤り等   | 177 ( 0.1)           | 0                   | 266 ( 0.1)           | 0                   | 507 ( 0.2)           | 0                   |
| 外国語            | (外国語全体)   | 340,614              | 53.59               | 333,026              | 46.90               | 327,140              | 62.35               |
|                | 英 語 B     | 336,362 (98.8)       | 53.82               | 328,538 (98.7)       | 47.09               | 321,893 (98.4)       | 62.75               |
|                | ド イ ツ 語   | 424 ( 0.1)           | 51.03               | 331 ( 0.1)           | 56.28               | 303 ( 0.1)           | 60.97               |
|                | フ ラ ン ス 語 | 234 ( 0.1)           | 56.23               | 222 ( 0.1)           | 51.30               | 192 ( 0.1)           | 58.33               |
|                | 英 語 A     | 3,222 ( 0.9)         | 35.83               | 3,467 ( 1.0)         | 33.34               | 4,031 ( 1.2)         | 42.27               |
|                | 受験番号誤り等   | 372 ( 0.1)           | 0                   | 468 ( 0.1)           | 0                   | 721 ( 0.2)           | 0                   |

(注) 1. 受験者数は、全教科の所定の科目を受験した者である。  
2. 各教科の平均点は、100点満点に換算した点数である。

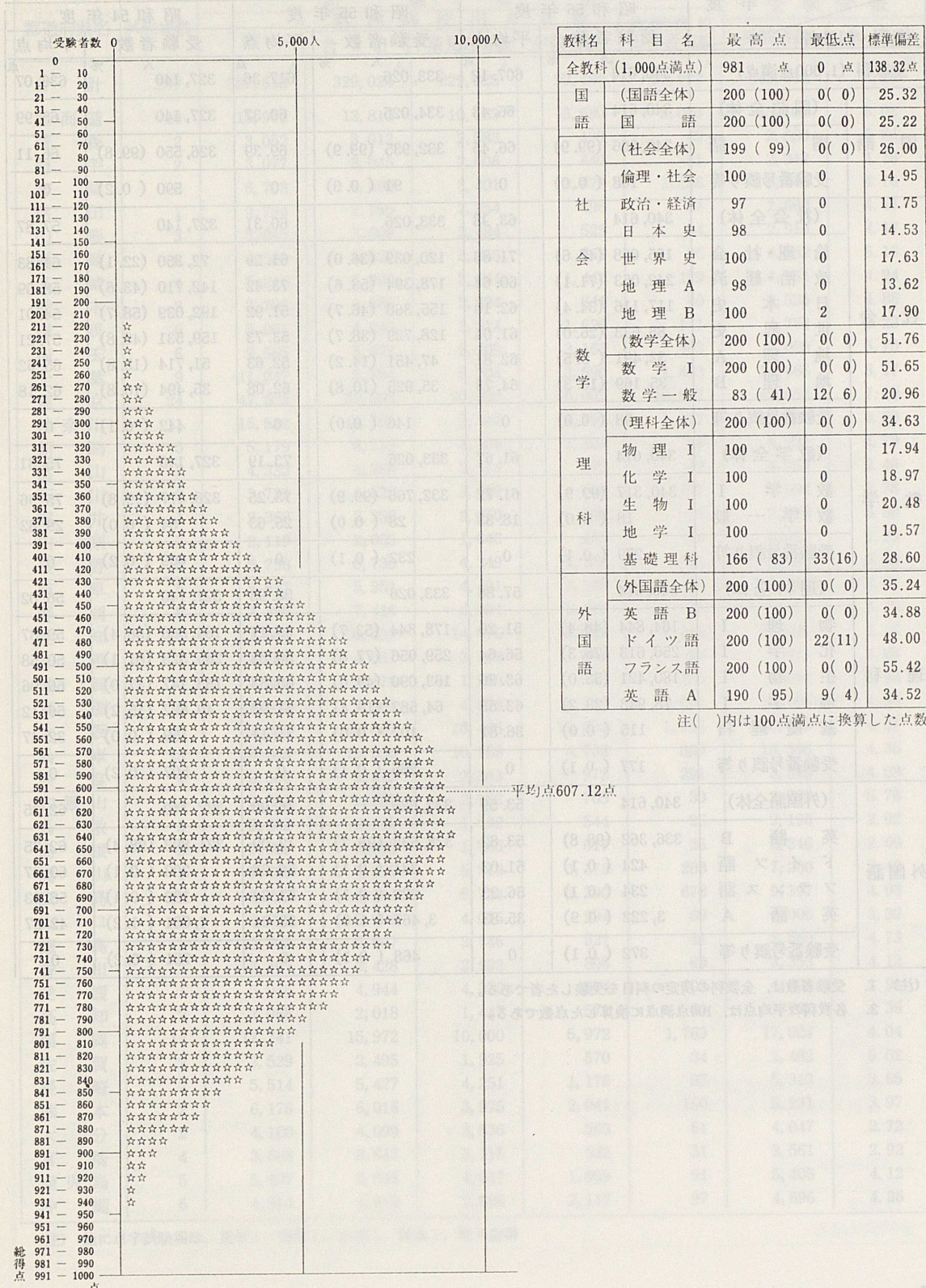
表2 昭和56年度共通第1次学力試験都道府県別志願者数・受験者数等

| 都道府県名 | 試験場数 | 志 願 者 数              |                      |                      |                     |                     | 受 験 者 数              |                   |
|-------|------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|---------------------|----------------------|-------------------|
|       |      | 計                    | 県 内 高 校 出 身 者 数      |                      | 他 県 高 校 出 身 者 数     | 卒 業 者 数             | 受 験 者 数              | 欠 席 率             |
|       |      |                      | 合 計                  | 卒業見込者数               |                     |                     |                      |                   |
| 合 計   | 269  | 357,633 <sup>人</sup> | 329,024 <sup>人</sup> | 229,825 <sup>人</sup> | 99,199 <sup>人</sup> | 28,609 <sup>人</sup> | 340,614 <sup>人</sup> | 4.76 <sup>%</sup> |
| 北 海 道 | 18   | 15,903               | 13,813               | 10,183               | 3,630               | 2,090               | 15,105               | 5.02              |
| 青 森   | 2    | 3,052                | 3,012                | 2,583                | 429                 | 40                  | 2,880                | 5.64              |
| 岩 手   | 2    | 3,077                | 3,046                | 2,606                | 440                 | 31                  | 2,949                | 4.16              |
| 宮 城   | 5    | 6,768                | 5,480                | 3,401                | 2,079               | 1,288               | 6,446                | 4.76              |
| 秋 田   | 1    | 2,784                | 2,750                | 2,254                | 496                 | 34                  | 2,660                | 4.45              |
| 山 形   | 3    | 3,043                | 3,009                | 2,484                | 525                 | 34                  | 2,916                | 4.17              |
| 福 島   | 6    | 4,563                | 4,527                | 3,665                | 862                 | 36                  | 4,282                | 6.16              |
| 茨 城   | 4    | 5,219                | 5,090                | 3,644                | 1,446               | 129                 | 4,961                | 4.94              |
| 栃 木   | 2    | 3,705                | 3,665                | 2,824                | 841                 | 40                  | 3,525                | 4.86              |
| 群 馬   | 6    | 5,051                | 4,940                | 3,314                | 1,626               | 111                 | 4,784                | 5.29              |
| 埼 玉   | 6    | 9,565                | 8,572                | 5,409                | 3,163               | 993                 | 9,020                | 5.70              |
| 千 葉   | 9    | 11,247               | 9,794                | 6,204                | 3,590               | 1,453               | 10,666               | 5.17              |
| 東 京   | 24   | 47,032               | 36,095               | 20,092               | 16,003              | 10,937              | 43,652               | 7.19              |
| 神 奈 川 | 11   | 16,532               | 15,255               | 9,364                | 5,891               | 1,277               | 15,507               | 6.20              |
| 新 潟   | 5    | 5,179                | 5,113                | 3,809                | 1,304               | 66                  | 4,931                | 4.79              |
| 富 山   | 2    | 4,332                | 4,289                | 3,614                | 675                 | 43                  | 4,224                | 2.49              |
| 石 川   | 2    | 3,735                | 3,628                | 2,889                | 739                 | 107                 | 3,594                | 3.78              |
| 福 井   | 1    | 2,368                | 2,350                | 2,070                | 280                 | 18                  | 2,278                | 3.80              |
| 山 梨   | 2    | 2,119                | 2,065                | 1,646                | 419                 | 54                  | 1,992                | 5.99              |
| 長 野   | 8    | 5,796                | 5,730                | 4,349                | 1,381               | 66                  | 5,426                | 6.38              |
| 岐 阜   | 6    | 5,637                | 5,551                | 4,401                | 1,150               | 86                  | 5,422                | 3.81              |
| 静 岡   | 9    | 7,499                | 7,416                | 6,004                | 1,412               | 83                  | 7,173                | 4.35              |
| 愛 知   | 11   | 21,583               | 20,497               | 14,675               | 5,822               | 1,086               | 20,900               | 3.16              |
| 三 重   | 1    | 4,101                | 4,051                | 3,102                | 949                 | 50                  | 3,911                | 4.63              |
| 滋 賀   | 3    | 2,801                | 2,673                | 1,930                | 743                 | 128                 | 2,691                | 3.93              |
| 京 都   | 8    | 10,632               | 7,962                | 4,814                | 3,148               | 2,670               | 10,106               | 4.95              |
| 大 阪   | 26   | 31,283               | 30,067               | 18,465               | 11,602              | 1,216               | 30,029               | 4.01              |
| 兵 庫   | 13   | 16,065               | 15,556               | 10,758               | 4,798               | 509                 | 15,366               | 4.35              |
| 奈 良   | 4    | 3,506                | 3,215                | 2,243                | 972                 | 291                 | 3,345                | 4.59              |
| 和 歌 山 | 4    | 2,887                | 2,857                | 2,152                | 705                 | 30                  | 2,720                | 5.78              |
| 鳥 取   | 3    | 2,262                | 2,236                | 1,692                | 544                 | 26                  | 2,196                | 2.92              |
| 島 根   | 2    | 2,308                | 2,283                | 1,966                | 317                 | 25                  | 2,246                | 2.69              |
| 岡 山   | 1    | 7,455                | 7,252                | 5,879                | 1,373               | 203                 | 7,200                | 3.42              |
| 広 島   | 11   | 9,792                | 9,114                | 6,724                | 2,390               | 678                 | 9,397                | 4.03              |
| 山 口   | 5    | 5,078                | 5,009                | 4,015                | 994                 | 69                  | 4,906                | 3.39              |
| 徳 島   | 1    | 2,708                | 2,667                | 2,146                | 521                 | 41                  | 2,580                | 4.73              |
| 香 川   | 3    | 3,497                | 3,428                | 2,623                | 805                 | 69                  | 3,353                | 4.12              |
| 愛 媛   | 1    | 5,046                | 4,944                | 4,370                | 574                 | 102                 | 4,899                | 2.91              |
| 高 知   | 2    | 2,088                | 2,018                | 1,447                | 571                 | 70                  | 1,997                | 4.36              |
| 福 岡   | 13   | 17,741               | 15,972               | 10,000               | 5,972               | 1,769               | 17,024               | 4.04              |
| 佐 賀   | 2    | 2,529                | 2,495                | 1,925                | 570                 | 34                  | 2,402                | 5.02              |
| 長 崎   | 2    | 5,514                | 5,427                | 4,251                | 1,176               | 87                  | 5,313                | 3.65              |
| 熊 本   | 2    | 6,176                | 6,016                | 3,975                | 2,041               | 160                 | 5,931                | 3.97              |
| 大 分   | 2    | 4,160                | 4,099                | 3,536                | 563                 | 61                  | 4,047                | 2.72              |
| 宮 崎   | 4    | 3,668                | 3,637                | 3,115                | 522                 | 31                  | 3,561                | 2.92              |
| 鹿 児 島 | 5    | 5,637                | 5,546                | 4,517                | 1,029               | 91                  | 5,405                | 4.12              |
| 沖 縄   | 6    | 4,910                | 4,813                | 2,696                | 2,117               | 97                  | 4,696                | 4.36              |

(注) 他に点字試験場は、東京1、長野1、京都1、熊本1、計4会場



表6 昭和56年度共通第1次学力試験本試験の得点分布概略図(全教科)



## 昭和五十六年度 第二次試験の実施状況

各国公立大学は、それぞれの大学・学部の特長などに応じた受験生の能力・適性をみることを目的として、必要に応じ第二次の学力検査、実技検査、面接を行い、また小論文を課し、これらと共通第一次学力試験の成績や高等学校長から提出される調査書の内容などを総合して合否判定を行っている。

この第二次試験は、年々多様となり、様々な工夫がこらされるようになってきているが、昭和五十六年度の実施状況をみると次のとおりとなる。

### 一 第二次の学力検査

第二次の学力検査については、昨年度と大きな変化はみられないが、学力検査を課さないものが三大学四学部増え、合計五七大学八四学部となっている。

学部系統別にみると教員養成系が四〇学部あり、国立大学全体の五八％を占めているのが特徴的である。

国立大学の学力検査の受験科目数の平均は昨年度と同様二・八科目で、薬学系学部(四・二科目)、医歯学系学部(三・九科目)が多く、これに対し芸術学系は〇・五科目、教員養成系は一・四科目となっており、学部系統によっては選抜方法に大きな違いがあることがうかがわれる。(表2・6の(2))

### 二 実技検査等

昭和五十六年度に実技検査を行った大学・学部は一大学三学部増え、五七大学六五学部となり、教員養成系では九八％の学部が実技検査を行っている。

面接は医歯学系学部を中心に四二大学

五五学部が実施し、昨年に比べ二大学四学部増えている。

小論文は、四大学五学部増え七六大学一八学部が実施している。国立大学では、教員養成系学部で四四・九％、人文科学系学部で三九・四％、医歯学系学部で三四・六％の実施率となった。

小論文のテーマは様々であり、現代社会における科学の在り方、教育観や女性論などについての考え方を問うものなど、受験生の論理的思考力、分析力、表現力などを引き出す工夫が行われている。(表2・6の(1))

### 三 推薦入学

推薦入学を実施する大学・学部は、年々増加し、昭和五十六年度では六二大学九九学部で、前年度に比べ四大学七学部増



表2 実施方法の概況

| 区 分                      | 昭和56年度                                       |                                             | 昭和55年度                                       |                                            | 昭和54年度                                       |                                           |
|--------------------------|----------------------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------------------------|-------------------------------------------|
|                          | 国 立                                          | 公 立                                         | 国 立                                          | 公 立                                        | 国 立                                          | 公 立                                       |
| 学力検査科目数                  | 2.8 <sup>科目</sup>                            | 2.3 <sup>科目</sup>                           | 2.8 <sup>科目</sup>                            | 2.5 <sup>科目</sup>                          | 2.9 <sup>科目</sup>                            | 2.4 <sup>科目</sup>                         |
| 推薦入学<br>(うち、共通一次を免除するもの) | 51 <sup>大学</sup> 86 <sup>学部</sup><br>(27 37) | 11 <sup>大学</sup> 13 <sup>学部</sup><br>( 6 7) | 49 <sup>大学</sup> 81 <sup>学部</sup><br>(24 33) | 9 <sup>大学</sup> 11 <sup>学部</sup><br>( 5 6) | 46 <sup>大学</sup> 75 <sup>学部</sup><br>(21 29) | 6 <sup>大学</sup> 8 <sup>学部</sup><br>( 5 6) |
| 学力検査を課さない                | 45 69                                        | 12 15                                       | 44 67                                        | 10 13                                      | 44 66                                        | 10 13                                     |
| 実技検査を課す                  | 53 59                                        | 4 6                                         | 52 56                                        | 4 6                                        | 52 56                                        | 4 6                                       |
| 面接を課す                    | 33 44                                        | 9 11                                        | 31 41                                        | 9 10                                       | 27 33                                        | 10 11                                     |
| 小論文を課す                   | 56 93                                        | 20 25                                       | 54 90                                        | 18 23                                      | 48 77                                        | 17 22                                     |

表3 推薦入学

| 区 分    |       | 国 立     |            |       | 公 立     |            |       | 計       |            |       |
|--------|-------|---------|------------|-------|---------|------------|-------|---------|------------|-------|
|        |       | 共通一次を課す | 共通一次をも免除する | 計     | 共通一次を課す | 共通一次をも免除する | 計     | 共通一次を課す | 共通一次をも免除する | 計     |
| 昭和56年度 | 大 学 数 | 37      | (13)<br>14 | 51    | 5       | 6          | 11    | 42      | (13)<br>20 | 62    |
|        | 学 部 数 | 52      | ( 3)<br>34 | 86    | 6       | 7          | 13    | 58      | ( 3)<br>41 | 99    |
|        | 志願者数  | 1,169   | 4,433      | 5,602 | 209     | 1,243      | 1,452 | 1,378   | 5,676      | 7,054 |
|        | 合格者数  | 503     | 1,285      | 1,788 | 105     | 321        | 426   | 608     | 1,606      | 2,214 |
| 昭和55年度 | 大 学 数 | 38      | (13)<br>11 | 49    | 4       | 5          | 9     | 42      | (13)<br>16 | 58    |
|        | 学 部 数 | 51      | ( 3)<br>30 | 81    | 5       | 6          | 11    | 56      | ( 3)<br>36 | 92    |
|        | 志願者数  | 1,083   | 3,909      | 4,992 | 174     | 1,327      | 1,501 | 1,257   | 5,236      | 6,493 |
|        | 合格者数  | 534     | 1,076      | 1,610 | 92      | 319        | 411   | 626     | 1,395      | 2,021 |
| 昭和54年度 | 大 学 数 | 37      | (12)<br>9  | 46    | 1       | 5          | 6     | 38      | (12)<br>14 | 52    |
|        | 学 部 数 | 47      | ( 1)<br>28 | 75    | 2       | 6          | 8     | 49      | ( 1)<br>34 | 83    |
|        | 志願者数  | 1,168   | 3,772      | 4,940 | 58      | 1,337      | 1,395 | 1,226   | 5,109      | 6,335 |
|        | 合格者数  | 475     | 979        | 1,454 | 35      | 305        | 340   | 510     | 1,284      | 1,794 |

(注) 実施大学数、実施学部数欄の( )は、「共通第1次を課す」と重複しているもので外数である。

えている。

学部系統別にみると農学系が最も多く二九学部、工学系が二五学部で、農・工学系で全体の五五%を占めており、次いで社会科学系が一八学部、教員養成系が九学部となっている。

これらのうち共通一次を課すものが四二大学五八学部、共通一次を免除するものが三三大学四四学部となっており、昨年に比べ共通一次を免除するものが四大学五学部増えている。(表3・6の(1))

#### 四 二段階選抜

入学志願者が入学定員を著しく上回って、適切な二次試験を行うことが困難な場合には、共通第一次学力試験の成績と高等学校長から提出される調査書によって第一段階の選抜を行ない、その合格者(入学定員の三倍以上)について第二次試験を行う方法をとることができることになっている。

この二段階選抜(いわゆる足切り)は、昭和五六年度は一五大学二九学部が行ったが、前年度に比べ二大学四学部減っており、実施を予告した四五大学一一五学部の相当数が実施を取り止めている。(表4・6の(1))

#### 五 第二次募集

共通第一次学力試験による入学者選抜の実施に伴い国立大学の一期校、二期校の制度は廃止されたが、入学定員の一部をあらかじめ留保して、国(公)立大学に合格できなかった者を対象に、第二次の募集を行うことができるようになっている。昭和五六年度では、国立で一四大学一六学部(前年度一二大学一三学部)、公立で一大学一学部がこれを行っている。

また、入学定員に欠員が生じたため第二次募集を行ったところは、国立で三大学三学部(前年度七大学七学部)あった。(表5・6の(1))

表1 志願者数、受験者数、合格者数等

| 区 分  | 昭和56年度               |                     |                      | 昭和55年度               |                     |                      | 昭和54年度               |                     |                      |
|------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|
|      | 国 立                  | 公 立                 | 計                    | 国 立                  | 公 立                 | 計                    | 国 立                  | 公 立                 | 計                    |
| 入学定員 | 85,291 <sup>人</sup>  | 10,135 <sup>人</sup> | 95,426 <sup>人</sup>  | 84,501 <sup>人</sup>  | 10,005 <sup>人</sup> | 94,506 <sup>人</sup>  | 82,926 <sup>人</sup>  | 9,898 <sup>人</sup>  | 92,824 <sup>人</sup>  |
| 志願者数 | 242,255 <sup>人</sup> | 64,896 <sup>人</sup> | 307,151 <sup>人</sup> | 254,424 <sup>人</sup> | 63,800 <sup>人</sup> | 318,224 <sup>人</sup> | 270,394 <sup>人</sup> | 69,862 <sup>人</sup> | 340,256 <sup>人</sup> |
| 倍 率  | 2.8 <sup>倍</sup>     | 6.4 <sup>倍</sup>    | 23.2 <sup>倍</sup>    | 73.0 <sup>倍</sup>    | 6.4 <sup>倍</sup>    | 3.4 <sup>倍</sup>     | 3.3 <sup>倍</sup>     | 7.1 <sup>倍</sup>    | 3.7 <sup>倍</sup>     |
| 受験者数 | 229,919 <sup>人</sup> | 53,437 <sup>人</sup> | 283,356 <sup>人</sup> | 240,261 <sup>人</sup> | 52,922 <sup>人</sup> | 293,183 <sup>人</sup> | 254,605 <sup>人</sup> | 50,418 <sup>人</sup> | 305,023 <sup>人</sup> |
| 合格者数 | 92,785 <sup>人</sup>  | 14,791 <sup>人</sup> | 107,576 <sup>人</sup> | 91,359 <sup>人</sup>  | 14,464 <sup>人</sup> | 105,823 <sup>人</sup> | 88,301 <sup>人</sup>  | 13,345 <sup>人</sup> | 101,646 <sup>人</sup> |
| 入学者数 | 85,264 <sup>人</sup>  | 10,772 <sup>人</sup> | 96,036 <sup>人</sup>  | 84,561 <sup>人</sup>  | 10,776 <sup>人</sup> | 95,337 <sup>人</sup>  | 82,448 <sup>人</sup>  | 10,673 <sup>人</sup> | 93,121 <sup>人</sup>  |

- (注) 1. 第2次募集及び推薦入学によるものを含む。  
2. 昭和56年度は新設の香川大学法学部及び大阪府立大学社会福祉学部を昭和55年度は新設の群馬県立女子大学を含まず、また、3年度とも東京外国語大学外国語学部日本語学科を含まない。  
3. 受験者数は第2次試験のすべてを受験した者の数である。



表6 昭和56年度学部系統別の概要

## (1) 選抜方法等

| 区 分   | 学部数 | 学力検査を課さない        | 推薦入学             | 第2次募集             |                 | 2段階選抜            | 実技検査             | 面接               | 小論文              |
|-------|-----|------------------|------------------|-------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
|       |     |                  |                  | 定員留保              | 欠員のある場合         |                  |                  |                  |                  |
| 人文科学系 | 国立  | (1) 33<br>(5)    | 4(12.1)          | (1) 1<br>(3.0)    | (1) 4<br>(12.1) | 10(30.3)         | 2(6.1)           |                  | (1) 13<br>(39.4) |
|       | 公立  | 24               | 4(16.7)          | (1) 5<br>(20.8)   | (1) 4<br>(16.7) | 6(25.0)          |                  |                  | (1) 7<br>(29.2)  |
| 社会科学系 | 国立  | (10) 54<br>(12)  | (7) 9<br>(16.7)  | (8) 13<br>(24.1)  | (1) 5<br>(9.3)  | (2) 4<br>(7.4)   | 18(33.3)         | (1) 2<br>(3.7)   | (2) 12<br>(22.2) |
|       | 公立  | (5) 19           | 2(10.5)          | 5(26.3)           | 1(5.3)          | (2) 7<br>(36.8)  |                  |                  | 4(21.1)          |
| 理学系   | 国立  | 29               |                  | 3(10.3)           | 1(3.4)          | 1(3.4)           | 6(20.7)          | 3(10.3)          | 2(6.9)           |
|       | 公立  | (1) 3            |                  | 1(33.3)           |                 |                  |                  |                  |                  |
| 工学系   | 国立  | (5) 53<br>(1)    | (1) 2<br>(3.8)   | (4) 25<br>(47.2)  | (1) 6<br>(11.3) | (1) 9<br>(17.0)  | 4(7.5)           | (1) 5<br>(9.4)   | (1) 3<br>(5.7)   |
|       | 公立  | (1) 5            |                  |                   | 1(20.0)         | 1(20.0)          |                  | (1) 2<br>(40.0)  | (1) 2<br>(40.0)  |
| 農学系   | 国立  | 37               | 8(21.6)          | 28(75.7)          | 2(5.4)          | 4(10.8)          | 4(10.8)          | 6(16.2)          | 13(35.1)         |
|       | 公立  | 2                |                  | 1(50.0)           |                 | 1(50.0)          |                  |                  |                  |
| 医歯学系  | 国立  | 52               | 1(1.9)           |                   |                 | 2(3.8)           | 26(50.0)         | 17(32.7)         | 18(34.6)         |
|       | 公立  | 9                |                  |                   |                 |                  | 3(33.3)          | 5(55.6)          | 6(66.7)          |
| 薬学系   | 国立  | 11               |                  |                   | 1(9.1)          |                  | 3(27.3)          |                  |                  |
|       | 公立  | 3                |                  |                   |                 |                  | 3(100.0)         | 2(66.7)          | 1(33.3)          |
| 教員養成系 | 国立  | (1) 49           | (1) 40<br>(81.6) | 9(18.4)           | 1(2.6)          | 6(12.2)          | 4(8.2)           | 48(98.0)         | (1) 8<br>(16.3)  |
|       | 公立  |                  |                  |                   |                 |                  |                  |                  | 22(44.9)         |
| 商船学系  | 国立  | 2                |                  | 1(50.0)           |                 | 1(50.0)          |                  |                  |                  |
|       | 公立  |                  |                  |                   |                 |                  |                  |                  |                  |
| 家政学系  | 国立  | 2                |                  |                   |                 |                  |                  |                  | 1(50.0)          |
|       | 公立  | 8                | 4(50.0)          | 1(12.5)           |                 | 4(50.0)          |                  | 1(12.5)          | 4(50.0)          |
| 教養学系  | 国立  | 1                |                  |                   |                 |                  |                  |                  |                  |
|       | 公立  |                  |                  |                   |                 |                  |                  |                  |                  |
| 芸術学系  | 国立  | 2                | 2(100.0)         |                   |                 |                  | 2(100.0)         | 2(100.0)         | 2(100.0)         |
|       | 公立  | 5                | 5(100.0)         |                   |                 | 2(40.0)          | 5(100.0)         | 1(20.0)          | 1(20.0)          |
| 学 群   | 国立  | 6                | 3(50.0)          | 5(83.3)           |                 |                  | 6(100.0)         | 2(33.3)          | 3(50.0)          |
|       | 公立  |                  |                  |                   |                 |                  |                  |                  |                  |
| 文 類   | 国立  | 6                |                  |                   |                 |                  | 6(100.0)         |                  | 1(16.7)          |
|       | 公立  |                  |                  |                   |                 |                  |                  |                  |                  |
| 理 類   | 国立  | 6                |                  |                   |                 |                  | 6(100.0)         |                  |                  |
|       | 公立  |                  |                  |                   |                 |                  |                  |                  |                  |
| そ の 他 | 国立  | 1                |                  | 1(100.0)          |                 | 1(100.0)         |                  |                  | 1(100.0)         |
|       | 公立  |                  |                  |                   |                 |                  |                  |                  |                  |
| 計     | 国立  | (17) 344<br>(12) | (9) 69<br>(20.1) | (13) 86<br>(25.0) | (2) 16<br>(4.7) | (4) 32<br>(9.3)  | 93(27.0)         | (1) 59<br>(17.2) | (2) 44<br>(12.8) |
|       | 公立  | (12) 78          | 15(19.2)         | (1) 13<br>(16.7)  | (1) 1<br>(1.3)  | (4) 11<br>(14.1) | (4) 22<br>(28.2) | (1) 6<br>(7.7)   | (2) 11<br>(14.1) |

(注) ① 各欄のパーセントは、各区分ごとの学部数に対する割合である。

② 北大、東大の19学部(北大9、東大10)については、文類、理類に分類した。表中の( )内は第2部及び夜間を主とするコースの学部数を内数で示す。

③ 実技検査、面接及び小論文の各欄は、推薦入学に係るものは除いてある。

表4 2段階選抜実施状況

| 区 分    |            | 国 立                 |                   | 公 立                 |                  | 計                   |                   |
|--------|------------|---------------------|-------------------|---------------------|------------------|---------------------|-------------------|
| 昭和56年度 | 実施予告大学・学部数 | 33 <sup>大学</sup>    | 93 <sup>学部</sup>  | 12 <sup>大学</sup>    | 22 <sup>学部</sup> | 45 <sup>大学</sup>    | 115 <sup>学部</sup> |
|        | 実施大学・学部数   | 11 <sup>大学</sup>    | 24 <sup>学部</sup>  | 4 <sup>大学</sup>     | 5 <sup>学部</sup>  | 15 <sup>大学</sup>    | 29 <sup>学部</sup>  |
|        | 入 学 定 員    | 5,984 <sup>人</sup>  |                   | 860 <sup>人</sup>    |                  | 6,844 <sup>人</sup>  |                   |
|        | 第1段階選抜合格者数 | 17,081 <sup>人</sup> |                   | 8,364 <sup>人</sup>  |                  | 25,445 <sup>人</sup> |                   |
| 昭和55年度 | 実施予告大学・学部数 | 34 <sup>大学</sup>    | 96 <sup>学部</sup>  | 14 <sup>大学</sup>    | 23 <sup>学部</sup> | 48 <sup>大学</sup>    | 119 <sup>学部</sup> |
|        | 実施大学・学部数   | 11 <sup>大学</sup>    | 27 <sup>学部</sup>  | 6 <sup>大学</sup>     | 6 <sup>学部</sup>  | 17 <sup>大学</sup>    | 33 <sup>学部</sup>  |
|        | 入 学 定 員    | 6,609 <sup>人</sup>  |                   | 1,080 <sup>人</sup>  |                  | 7,689 <sup>人</sup>  |                   |
|        | 第1段階選抜合格者数 | 19,464 <sup>人</sup> |                   | 10,304 <sup>人</sup> |                  | 29,768 <sup>人</sup> |                   |
| 昭和54年度 | 実施予告大学・学部数 | 38 <sup>大学</sup>    | 112 <sup>学部</sup> | 14 <sup>大学</sup>    | 26 <sup>学部</sup> | 52 <sup>大学</sup>    | 138 <sup>学部</sup> |
|        | 実施大学・学部数   | 12 <sup>大学</sup>    | 28 <sup>学部</sup>  | 7 <sup>大学</sup>     | 12 <sup>学部</sup> | 19 <sup>大学</sup>    | 40 <sup>学部</sup>  |
|        | 入 学 定 員    | 4,241 <sup>人</sup>  |                   | 1,445 <sup>人</sup>  |                  | 5,686 <sup>人</sup>  |                   |
|        | 第1段階選抜合格者数 | 12,734 <sup>人</sup> |                   | 12,534 <sup>人</sup> |                  | 25,268 <sup>人</sup> |                   |

表5 第2次募集

| 区 分    | 国 立  |        |         | 公 立      |      |      | 計    |        |         |
|--------|------|--------|---------|----------|------|------|------|--------|---------|
|        | 定員留保 | 欠員補充   | 計       | 定員留保     | 欠員補充 | 計    | 定員留保 | 欠員補充   | 計       |
| 昭和56年度 | 実施大学 | 14 16  | 3 3     | 17 19    | 1 1  | —    | 1 1  | 15 17  | 3 3     |
|        | 募集人員 | 約 762人 | 約 40人   | 約 802人   | 60人  | —人   | 60人  | 約 822人 | 約 40人   |
|        | 志願者数 | 5,412人 | 688人    | 6,100人   | 139人 | —人   | 139人 | 5,551人 | 688人    |
|        | 受験者数 | 5,268人 | 667人    | 5,935人   | 129人 | —人   | 129人 | 5,397人 | 667人    |
|        | 合格者数 | 1,203人 | 48人     | 1,251人   | 71人  | —人   | 71人  | 1,274人 | 48人     |
| 昭和55年度 | 実施大学 | 12 13  | 7 7     | 18 20    | 1 1  | 1 1  | 2 2  | 13 14  | 8 8     |
|        | 募集人員 | 約 738人 | 約 114人  | 約 852人   | 60人  | —人   | 60人  | 約 798人 | 約 114人  |
|        | 志願者数 | 7,100人 | 1,851人  | 8,951人   | 153人 | 209人 | 362人 | 7,253人 | 2,060人  |
|        | 受験者数 | 6,664人 | 1,767人  | 8,431人   | 139人 | 188人 | 327人 | 6,803人 | 1,955人  |
|        | 合格者数 | 1,100人 | 184人    | 1,284人   | 71人  | 7人   | 78人  | 1,171人 | 191人    |
| 昭和54年度 | 実施大学 | 4 5    | 11 16   | 15 21    | —    | 1 1  | 1 1  | 4 5    | 12 17   |
|        | 募集人員 | 約 264人 | 約 759人  | 約 1,023人 | —人   | 26人  | 26人  | 約 264人 | 約 785人  |
|        | 志願者数 | 3,846人 | 14,711人 | 18,557人  | —人   | 121人 | 121人 | 3,846人 | 14,832人 |
|        | 受験者数 | 3,715人 | 13,884人 | 17,599人  | —人   | 113人 | 113人 | 3,715人 | 13,997人 |
|        | 合格者数 | 382人   | 1,075人  | 1,457人   | —人   | 44人  | 44人  | 382人   | 1,119人  |

(注) 1. 55年度の実施大学のうち国立大学1校は「定員留保」と「欠員補充」との両方に重複して数えてある。

2. 募集人員を若干名としているもの(55年度)については、募集人員欄では除いて算出した。



# 一問一答

## (共通一次の目的など)

**Q 1** 共通第一次学力試験を実施するのはなぜですか。

**Q 2** 大学入試センターとは、どのような性格の組織ですか。  
また、国立大学との関係はどうでしょうか。

**Q 3** 大学入試センターの研究部では、どのような研究を行っていますか。

## (共通一次の出願手続)

**Q 4** 共通第一次学力試験の出願手続は、どのように行うのですか。

**Q 5** 受験案内は、いつ、どこで手に入れることができますか。  
**Q 6** 受験票などはいつごろ送付されるでしょうか。また、受験票などが未着の場合はどうすればよいのですか。

**Q 7** 出願書類を提出しましたが、大学入試センターで受理されたかどうか、確認する方法がありますか。

## Q 8

受験票を紛失したり、受験票の記載事項を変更する必要が生じたときは、受験票を再発行してもらうことができますでしょうか。

## (出題教科・試験問題など)

**Q 9** 共通第一次学力試験は、どのような教科・科目について行われるのですか。

**Q 10** 試験問題は、だれが作成するのですか。

**Q 11** 試験問題について、いろいろな意見があるようですが、その改善について、どのように取り組んでいますか。

**Q 12** 教科・科目間で平均点のバラツキがかなりあり、科目選択の仕方、有(不)利になると言われていますが、このような場合、得点の調整を行うことは考えられませんか。

## (試験の方法など)

**Q 13** 試験場は、志願者の希望によって決められるのですか。

## (2) 学力検査の受験科目数

| 区 分     | 学部数    | 学力検査を課さない  |            | 平均科目数 | 受 験 科 目 数 分 布 |             |             |           |
|---------|--------|------------|------------|-------|---------------|-------------|-------------|-----------|
|         |        | 全 学 的      | 学部・学科の1学部  |       | 0 ～ 3 科目 未満   | 3 ～ 5 科目 未満 | 5 ～ 7 科目 未満 | 7 科 ～ 8 目 |
| 人文科学系   | 国立 33  |            | 4( 12.1) % | 2.5   | 17( 51.5) %   | 13( 39.4) % | 3( 9.1) %   |           |
|         | 公立 24  |            | 4( 16.7)   | 2.0   | 16( 66.7)     | 8( 33.3)    |             |           |
| 社会科学系   | 国立 54  |            | 9( 16.7)   | 2.4   | 33( 61.1)     | 12( 22.2)   | 9( 16.7)    |           |
|         | 公立 19  | 2( 10.5) % |            | 2.4   | 11( 57.9)     | 8( 42.1)    |             |           |
| 理 学 系   | 国立 29  |            |            | 3.2   | 12( 41.4)     | 13( 44.8)   | 4( 13.8)    |           |
|         | 公立 3   |            |            | 3.7   |               | 2( 66.7)    | 1( 33.3)    |           |
| 工 学 系   | 国立 53  |            | 2( 3.8)    | 3.0   | 23( 43.4)     | 23( 43.4)   | 7( 13.2)    |           |
|         | 公立 5   |            |            | 3.9   | 2( 40.0)      | 1( 20.0)    | 2( 40.0)    |           |
| 農 学 系   | 国立 37  |            | 8( 21.6)   | 2.3   | 26( 70.3)     | 8( 21.6)    | 3( 8.1)     |           |
|         | 公立 2   |            |            | 2.5   | 1( 50.0)      | 1( 50.0)    |             |           |
| 医 歯 学 系 | 国立 52  | 1( 1.9)    |            | 3.9   | 3( 5.8)       | 38( 73.1)   | 11( 21.2)   |           |
|         | 公立 9   |            |            | 4.1   |               | 6( 66.7)    | 3( 33.3)    |           |
| 薬 学 系   | 国立 11  |            |            | 4.2   | 1( 9.1)       | 7( 63.6)    | 3( 27.3)    |           |
|         | 公立 3   |            |            | 2.7   | 1( 33.3)      | 2( 66.7)    |             |           |
| 教員養成系   | 国立 49  | 2( 4.1)    | 38( 77.6)  | 1.4   | 46( 93.9)     | 2( 4.1)     | 1( 2.0)     |           |
|         | 公立     |            |            |       |               |             |             |           |
| 商 船 学 系 | 国立 2   |            |            | 2.5   | 1( 50.0)      | 1( 50.0)    |             |           |
|         | 公立     |            |            |       |               |             |             |           |
| 家政学系    | 国立 2   |            |            | 2.8   | 1( 50.0)      | 1( 50.0)    |             |           |
|         | 公立 8   |            | 4( 50.0)   | 1.0   | 8(100.0)      |             |             |           |
| 教養学系    | 国立 1   |            |            | 2.5   | 1(100.0)      |             |             |           |
|         | 公立     |            |            |       |               |             |             |           |
| 芸術学系    | 国立 2   |            | 2(100.0)   | 0.5   | 2(100.0)      |             |             |           |
|         | 公立 5   | 5(100.0)   |            | 0     | 5(100.0)      |             |             |           |
| 学 群     | 国立 6   |            | 3( 50.0)   | 1.8   | 3( 50.0)      | 3( 50.0)    |             |           |
|         | 公立     |            |            |       |               |             |             |           |
| 文 類     | 国立 6   |            |            | 4.8   | 1( 16.7)      | 2( 33.3)    |             | 3( 50.0)  |
|         | 公立     |            |            |       |               |             |             |           |
| 理 類     | 国立 6   |            |            | 7.0   |               |             | 3( 50.0)    | 3( 50.0)  |
|         | 公立     |            |            |       |               |             |             |           |
| そ の 他   | 国立 1   |            |            | 2.0   | 1(100.0)      |             |             |           |
|         | 公立     |            |            |       |               |             |             |           |
| 計       | 国立 344 | 3( 0.9)    | 66( 19.2)  | 2.8   | 171( 49.7)    | 123( 35.8)  | 44( 12.8)   | 6( 1.7)   |
|         | 公立 78  | 7( 9.0)    | 8( 10.3)   | 2.3   | 44( 56.4)     | 28( 35.9)   | 6( 7.7)     |           |

(注) ① 科目数は、高等学校学習指導要領に準拠して算出してあるが、理科についてのみ、同一試験時間に〔物理Ⅰ、物理Ⅱ〕〔化学Ⅰ、化学Ⅱ〕のように同種の2科目をあわせて出題し、解答させる場合は、それぞれ1科目として算出した。(大学入学者選抜実施要項第4の1の5)の理科の項を参照)  
② 北大、東大の19学部(北大9、東大10)については、文類、理類に分類した。



このような要望を受けて、国立大学協会では永い年月にわたって検討を重ね、共通第一次学力試験を取り入れた新しい入学者選抜方法を構想し、昭和五十四年度から実施に移してきました。この選抜方

共通第一次学力試験も来年一月には、四回目を迎えることになりましたが、幸い試験問題については、大勢として高等学校の日常の学習をしっかりやっておけば解答のできる適切な問題であるという

領などの作成、答案の採点・集計、試験成績その他資料の各大学あての提供その他これらに関連する業務を処理します。

各国立大学は、試験場の設定、試験監督者等の選出、受験案内などの交付、試

もちろん大学入試に関する問題の解決のためには、社会全体の学歴偏重、とくに有名校偏重の風潮を解消することや、各国公私立大学の特色ある発展を図ることなどの総合的な方策が必要ですが、入試方法そのものの改善ももとより重要であり、これを改善すべきであるという要望も強く出されるようになってきました。

このように、新しい選抜方法では共通第一次学力試験の結果と第二次試験の結果、さらに高等学校からの調査書など多数の資料を総合して、適切な選抜を行うおうとしているのです。

また、これによって、高等学校において基本的な学習に打ち込むことの重要さが認識され、その成果が大学入学者選抜にそのまま生かされることになると思われます。

者選抜方法の改善に関する調査研究を行うこと」を目的として、国立学校設置法に基づき国立大学の共同利用的な機関として設置されたものです。

大学入試センターと各国立大学は、共通第一次学力試験の実施に当たり、次のように業務を分担します。

大学入試センターでは、試験問題等の作成・印刷及び輸送、受験案内などの作成、出願の受付、受験票の交付、監督要

**A** 大学入学者の選抜は、大学が行う学力検査、高等学校長から提出される調査書その他受験生の能力・適性などを適切に判定することができると資料を合理的に総合して行うことが望ましいことですが、従来は、多くの場合一回の学力検査の成績を中心とした判定が行われていました。この学力検査については、高等学校の教育内容を逸脱した出題がみられたり、難問・奇問といわれるような出題があったりしたために、受験生が必ず以上の準備にかりたてられ、高等学校の教育にゆがみを与えるようになったと

基礎的な学習の達成度を判定することを目的として、必修科目について学力検査を行います。これが共通第一次学力試験です。

一方、各大学は学部・学科の特性に応じて、それぞれの立場からの第二次試験を行います。この第二次試験の一つとして行う学力検査は、高等学校における選択科目に対応したものとして考えることができる、その科目数は少ないものとなりますので、小論文や面接を課するなど学部・学科の特性に応じた多様な方法で選抜が行われるようになりました。

らについて、いろいろな批判や要望も出されていますが、これらの意見に十分耳を傾け、更に実施の経験をつみ重ねてできるだけの改善を加え、より良いものに育てていきたいと考えています。

**Q2**

**A**

大学入試センターとは、どのような性格の組織ですか。また、国立大学との関係はどうでしょうか。

大学入試センターは、「共通第一次学力試験」に関し、試験問題の作成及び採点その他一括して処理することが適当な業務を行うとともに、大学の入学

## Q1

共通第一次学力試験を実施するのはなぜですか。

法では、試験を二段階に分け、まず、各大学の選抜資料として共通に活用するた

評価を得ています。また各大学が行う第二次試験についても、さまざまな工夫・

**Q 21**  
昭和五七年度から高等学校の教育課程が変わりますが、共通第一次学力試験の試験科目などは、どのようになり  
ますか。

**Q 20** 共通第一次学力試験の趣旨からいうと、高等学校側の意見も十分に反映される必要があると思いますがどうでしょうか。

Q 19 共通第一次学力試験には、私立大学も参加するのですか。

**Q 18** 追試験・再試験は、どのような場合に行われるのでしょうか。

**Q 17** 試験問題の正解や平均点、標準偏差などは、いつ公表されるのですか。

**Q 16** マークシート（解答用紙）に記入する際には、どのような注意をすればよいのですか。

職業科の高等学校出身者に対しては、どのような配慮がなされていますか。

**Q 14** 身体障害者の受験については、どのような配慮がなされていますか。

**Q 22** (二次試験)  
第二次試験の出願手続は、どのようになっていますか。  
出願に必要な書類は、いつ、どこで手に入れることができますか。

**Q 23** 共通第一次学力試験の志願票に記入した志望の大学・学部を、その後各大学の第二次試験に出願するとき、他の大学・学部に変更することができますか。

**Q 24** 第二次の学力試験の実施教科・科目などは、どのようになっていますか。

Q 25 実技検査、面接、小論文などの実施状況は、どうなっていますか。

**Q 26**  
推薦入学の実施状況は、どうなっていますか。また、推薦入学に出願する場合でも、共通第一次学力試験を受けなければなりませんか。

**Q 27** 第二次募集は、いつ、どのように行われるのですか。

**Q 28** 各大学の合否判定は、どのように行われるのでしょうか  
また、一次試験、二次試験の配点は公表されないのでしょうか。

二段階選抜（いわゆる足切り）は、共通第一次学力試験の趣旨にそわないのではないだろうか。

Q 30 国立大学の入試期日の一元化は、受験の機会を減少させることになるのでしょうか。



験の実施、答案の整理・発送その他これらに関連する業務を行います。

各公立大学も国立大学に協力して、これらに準じた業務を行います。したがって、それぞれが担当する業務の範囲内において責任を分担しています。

大学入試センターには、各大学の意向が十分に反映され、また、各大学との間に緊密な連携を保つことのできるよう、公立大学の代表者も含めて評議員会、運営協議会などの会議が設けられています。その概要は、次のとおりです。

#### ① 評議員会

大学入試センターの事業計画その他の管理運営に関する重要事項について審議し、所長に助言する。評議員は一五人で、国立大学の学長その他の学識経験者のうちから選ばれる。任期二年。

#### ② 運営協議会

共通第一次学力試験の実施計画に関する事項、その他大学入試センターの運営に関する事項について所長の諮問に応じて協議する。運営協議員は二人で、センターの教授・助教授並びに国立大学の教授又は助教授及びその他学識経験者のうちから選ばれる。任期二年。

#### ③ 専門委員会

共通第一次学力試験に関し、専門的事項を処理する。約二百人の国立大学教官を委員とする教科専門委員会は、共通第一次学力試験の試験問題の作成に当た

る。また、約二〇人の国立大学教官を委員とする実施方法専門委員会は、共通第一次学力試験の実施方法の検討、情報処理システムの策定に当たる。任期二年。

このほか、試験問題特別専門委員会及び試験教科目等調査研究委員会がある。

#### ④ 共通第一次学力試験等連絡協議会

高等学校側の意見を共通第一次学力試験の実施等に反映させるため、高等学校長及び教育長の代表者、大学入試センター側の代表者など一〇数人で構成する総合部会と、高等学校教員四五人及び大学入試センターの試験問題作成責任者一五人で構成する試験問題部会とからなる。(Q20参照)

### Q3

大学入試センターの研究部では、どのような研究を行っていますか。

#### A

高等学校と大学の接点である大学入試は、相互の影響を十分に考慮して、公正かつ妥当に実施されなければなりません。そのためには、大学入試に関し、あらゆる観点から不断の調査研究が必要です。

大学入試センターは、共通第一次学力試験の実施部門とともに、研究部門を持ち、大学入試の改善に関する調査研究を集中的に行っています。

この研究部門では、共通第一次学力試験に関する諸データはもとより、各大学

の第二次試験、高等学校及び大学

に関する諸データなどを蓄積し、相互に関連させながら実証的な調査、研究を行い、その成果を共通第一次学力試験や一般の大学入試の改善に役立てることとしています。また、これらを高等学校や大学などに普及し、大学入試、高等学校教育、大学の教育研究、青年の進路決定に関する研究の発展に資することも期待されます。

研究部は五部門から成り、現在の主要な研究項目は、次のとおりです。

#### 情報処理部門

共通第一次学力試験を始め大学入試に関する全般的な情報処理システムの開発・改善の研究、他の研究部門に対する情報処理的な協力研究

#### 追跡部門

共通第一次学力試験、第二次試験、高等学校の成績、大学入学後の成績その他の相関などに関する研究及び研究方法の開発・改善の研究

#### 評価部門

共通第一次学力試験などの問題の内容の評価に関する研究、共通第一次学力試験及び第二次試験の問題の内容の関連などに関する研究、能力評価に関する研究

#### 試験方法部門

共通第一次学力試験などの試験の実施方法の研究並びに諸外国の入試方法の比較研究

#### 試験制度部門

大学入学者選抜制度に関する研究及び諸外国の入試制度の比較研究

このほか、各部門の共同研究として、客観テストの信頼性、妥当性の向上に関する調査研究、大学入試と高等学校教育・大学教育との相関に関する調査研究などが行われています。

### Q4

共通第一次学力試験の出願手続は、どのように行うのですか。

#### A

共通第一次学力試験の出願手続は「昭和五十七年度大学入学者選抜共通第一次学力試験受験案内」に詳しく書いてあり、また、その中に「出願に必要な志願票などが折り込まれていますので、まず、この受験案内を近くの国公立大学で手に入れ、そこに定められた手続に従って出願してください。

出願方法の概要は、次のとおりです。まず、検定料八千円を受験案内に折り込まれている「納付書」により、日本銀行(代理店、歳入代理店(銀行・信用金庫など))又は郵便局に納付します。(納付期限は昭和五十六年一〇月一五(木))その納付済の領収証書を志願票の裏に貼付してください。検定料納付済の領収証書が貼付されていない志願票は受理されませんので、十分に注意してください。

次に

① 高等学校を昭和五十七年三月卒業見

込みの者は、志願票(検定料納付済の領収証書を貼付)を在学する高等学校長に提出してください。高等学校長は、志願票などを取りまとめ大学入試センターへ書留扱いにより郵送します。

② 高等学校を卒業した者は、志願票(検定料納付済の領収証書を貼付)、卒業証明書など必要な書類を取りそろえ、必ず受験案内に折り込まれている指定の封筒を使用して、書留扱いで郵送してください。

なお、出願に必要な卒業証明書や単位修得証明書は、出願期間以前に、早めに出身高等学校へ請求し、入手しておいてください。

③ 高等専門学校第三学年を修了した者及び昭和五十七年三月修了見込みの者は、②と同様の方法で提出してください。

④ 大学入学資格検定試験に合格した者及び昭和五十七年三月合格見込みの者などは、志願票(検定料納付済の領収証書を貼付)、大学入学資格検定の合格証明書又は昭和五十六年度大学入学資格検定受検出席票を取りまとめ、②と同様の方法で提出してください。

志願票を作成するに当たっては、受験案内の「志願票作成上の注意」を参照しながらそれぞれの事項を確認し、正確に記入してください。出願書類に記入も



れ、記入誤りのなど不備があるものは、受理できません。  
出願期間は、昭和五六年一〇月一日（木）から一五日（木）までです。

**Q5** 受験案内は、いつ、どこで手に入るができますか。

**A** 共通第一次学力試験の受験の案内と出願に必要な志願票などを折り込んである「共通第一次学力試験受験案内」は、昭和五六年七月上旬から各国公立大学で交付されますので、近くの国公立大学の入試担当係に請求してください。

なお、受験案内を郵送で入手したい場合には、「共通第一次学力試験受験案内請求」と明記した封筒に、返信用封筒〔角3号（22cm×28cm）に（二四〇円）切手を貼付し、住所・氏名を書きしたものを同封して近くの国公立大学に請求してください。

**Q6** 受験票などはいづごろ送付されるでしょうか。また、受験票などが未着の場合はどうすればよいのですか。

**A** 受験票、写真票、成績請求票などは、一月下旬から二月上旬までの間に大学入試センターから、本人あてに直接送付します。  
受験票などが一月一〇日（木）までに

到着しなかった場合には、すみやかに大学入試センターあて届け出てください。大学入試センターでは、その事由などを調査の上、再発行し送付します。

**Q7** 出願書類を提出しましたが、大学入試センターで受理されたかどうか、確認する方法がありますか。

**A** 大学入試センターは、郵送されてきた出願書類の内容を点検し、受理した志願票の記入事項を電算機に登録します。そして志願票の記入事項を本人に照合・確認してもらうため、これをはがきに打ち出して各志願者に送付します。また、このはがきは出願書類を大学入試センターが受理したことを通知するものであり、出願書類を送付した日からおおよそ三週間後に、出願者の手元に届くこととなります。なお、高等学校を卒業見込みの者に対しては、在学する高等学校を経由し送付します。

**Q8** 受験票を紛失したり、受験票の記載事項を変更する必要が生じたときは、受験票を再発行してもらうことができますでしょうか。

**A** 受験票などを紛失したり、汚損したりしたとき、また、氏名に変更があったときや送付した受験票の氏名、性別、生年月日に誤記があったときには、「速達郵便」（封筒の表に「受験票等再発

行」と朱書すること）に必要な事項を明記して、すみやかに大学入試センターへ再発行の申請をしてください。  
大学入試センターでは、これら申請事項を審査の上、再発行を行います。この場合、再発行された受験票だけが有効で、紛失した受験票が見つかったもそれは無効になりますので注意してください。

なお、共通第一次学力試験当日に、万一、受験票などを忘れたり、紛失したりした場合には、試験場本部に出頭して係員の指示を受けてください。

次に、出願後に、現住所、連絡先（電話番号）に変更があった場合には、新・旧の住所（フリガナ）、新しい連絡先（電話番号）、氏名（フリガナ）と高等学校等コード、出身高等学校名（高等学校出身者以外の者は出願資格）、などを記入し「速達郵便はがき」（住所変更）などと朱書することにより、すみやかに大学入試センターへ届け出てください。

住所変更の場合は、届け出により、大学入試センターのデータの住所表示は変更しますが、受験票の住所表示の変更は行わず、旧住所表示のままで有効とします。（受験票の再発行は行いません。）

なお、住所変更に伴う試験場の変更は行いません。

**Q9** 共通第一次学力試験は、どのような教科・科目について行われるのですか。

**A** 共通第一次学力試験は、高等学校における一般的・基礎的な学習の達成の程度を判定することを目的としています。このため試験の範囲は、高等学校ですべての生徒が履修する必修科目としています。しかし、英語などの外国語は、高等学校では必須科目になっていませんが、大学教育を行うためには必要と考えられますので、この試験の対象に加えています。

受験しなければならぬ教科・科目は、次のとおり五教科六〜七科目になります。

国語Ⅱ現代国語と古典Ⅰ甲を合わせて解答する。

社会Ⅱ倫理・社会、政治・経済、日本史、世界史、地理A、地理Bのうちから二科目を選択解答する。  
ただし、倫理・社会と政治・経済及び地理Aと地理Bをそれぞれ二科目として選択することはできません。

数学Ⅱ数学Ⅰ又は数学一般の一科目を選択解答する。

理科Ⅱ物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰ、地学Ⅰのうちから二科目を選択解答又は基礎理科一科目を解答する。

外国語Ⅱ英語B、ドイツ語、フランス語、英語Aのうちから一科目を選択解答する。

なお、数学一般、基礎理科、英語Aについては、その科目を高等学校で履修した者のみに限られるという制限がありますので注意してください。

**Q10** 試験問題は、だれが作成するのですか。

**A** 共通第一次学力試験の問題は、大学入試センターの専門の委員会が作成します。この委員会は、広く全国の国立大学教官の中から選ばれた作成委員約二百人で構成され、一五の科目別の部会と点字問題を作成する部会に分かれ、部会ごとに高等学校の学習指導要領に準拠するとともに、高等学校の教科書などを十分に調査研究して問題を作成しています。

なお、年を重ねるに従って出題傾向が固定化することを避けるため委員の任期は二年とし、毎年半数ずつ交替することとしています。

また、出題した問題については、毎年試験の実施後、高等学校側や教科・科目別の教育研究団体の意見を聞き、これができるだけ今後の問題作成に反映させるとともに、選択肢ごとの正答率を分析するなど、科学的な評価も加え、適切なよい問題を作成することに努めています。

**Q11** 試験問題について、いろいろな意見があるようですが、その改善について、どのように取り組んでいますか。

**A** 共通第一次学力試験の試験問題については、全体的には適切であるという評価を得ておりますが、科目により、難しすぎるのではないか、などという意見も寄せられています。

大学入試センターの各科目の試験問題の作成に当たる部会では、各部会内で十分な調査検討を行うとともに、部会間あるいは全部会が合同で協議し、更に実施方法などについて検討する専門の委員会とも連絡をとりながら、より良い試験問題の作成のため努力を続けています。

また、使用した試験問題の適否については、高等学校関係者や全国的な教育研究団体等にも検討をお願いしています。

そのほか各方面から寄せられた意見についても耳を傾け、試験問題の作成に役立てています。

なお、大学入試センターでは、試験問題に対する信頼性と妥当性を更に高めていくためには、常に調査研究の裏付けをもとに改善を図ることが必要であると考え、研究部に情報処理、追跡、評価、試験方法及び試験制度の五研究部門を設けて、共通第一次学力試験問題についての多くのデータをもとに分析、研究を行い、これ



を実施面に反映させています。(Q3参照)

**Q12** 教科・科目間で、平均点のバラツキがかなりあり、科目選択の仕方  
で、有(不)利になると言われていますが、このような場合、得点の調整を行うことは考えられませんか。

**A** 大学入試センターでは、問題の作成に当たり、高等学校の教育課程に即し、その一般的・基礎的な学習の達成度を見るときにも、大学入学者の選抜の資料としての有効性を確保するために、各教科・科目ごとに平均点の目安を六〇点程度におき、科目ごとの問題作成部会で調整を重ね、できるだけ難易度に差のない均質の問題を作成するように努めています。しかし、結果として平均点にバラツキが生ずることは、ある程度やむを得ないことと考えます。

昭和五十六年度共通第一次学力試験では社会と理科について、科目選択の組み合わせで約一〇点の差が生じましたが、一昨年の社会の場合よりは、かなり縮小しています。これは、問題作成の過程において試験問題自体について改善の努力を行ってきたほか、過去二回の実施のデータについて、研究し、その結果を取り入れてきたためであると考えています。科目間の平均点のバラツキは、試験問

題それ自体の難易度の差によるほか、選択受験者集団の学力レベルの相違など複雑な要因があつて、これを全くなくすることはきわめて困難な課題であり、プラス・マイナス五点程度の差が生じること、やむを得ないのではないかと考えています。しかし、今回の結果についても更に詳細な調査分析などを行い、その結果を問題作成に反映させ、科目間で難易度に著しい差のない、できるだけ均質の問題を作る努力を続けることとしています。

なお、各大学が共通第一次学力試験の成績のほか、第二次試験の成績や高校からの調査書の内容等を総合する場合、種々の角度から受験生の学力を測定することが可能となるよう、各大学へ共通第一次学力試験の成績を提供する際には、受験者の個別の得点のほかに全受験者の総得点や、各科目の得点について詳細な資料を併せて提供しています。

**Q13** 試験場は、志願者の希望によって決められるのですか。

**A** 共通第一次学力試験は、全ての国立大学が同一の試験問題により、同一期日に実施するものであることから、その試験場の指定に当たっては都道府県を単位として、いわゆる居住地受験が原則となっています。試験場は、志願者数に応じて大学が設定します。

試験場は、各大学の施設を充てるのが望ましいのですが、受験者数が大学の施設の収容数を上回る場合には、やむをえず公立の高等学校などの学外の施設を使用することもあります。

大学入試センターは、これら各大学が設定した試験場を、次のとおり指定し、受験票に記載して入学志願者に通知します。

① 高等学校卒業見込みの者——在学している高等学校の所在する都道府県内の試験場

② 高等学校をすでに卒業した者及び高等学校の通信制の課程を卒業する見込みの者——出身高等学校の所在する又は志願票の現住所欄に記入した都道府県内の試験場(志願票の現住所欄に記入した都道府県内の試験場を希望する者に限り、出願のときに申請しなければなりません。)

③ 大学入学資格検定合格者など——志願票の現住所欄に記入した都道府県内の試験場

なお、指定された以外の試験場では受験できません。

**Q14** 身体障害者の受験については、どのような配慮がなされていますか。

**A** 身体に障害のある者が共通第一次学力試験を受験する際には、その障害の種類・程度に応じて、本人の申請に基づき、点字による出題、試験時間の延長、特定試験場の設定、文字による解答、手話通訳者・介助者等をつけるなど特別の措置をとることとしています。

昭和五十六年度共通第一次学力試験では、これら特別の措置を希望した志願者は一六六人いました。そのうち点字で出題を希望した一二人には次のような措置をとりました。

① 点字による試験問題を点字により解答

② 試験場は、公立盲学校などに設定、公立盲学校教員を監督補助者に委嘱

③ 試験時間は、一般受験者の一・五倍  
また、点字受験者以外の身体に障害のある受験者については障害の種類・程度により、必要に応じて次のような措置をとりました。

① 聴覚障害者には、公立聾学校の教諭を監督補助者に委嘱し、注意事項の伝達等について手話通訳

② 弱視者には、拡大鏡等の使用を許可  
③ 強度の肢体不自由者は、介助者をつけて別室で受験

④ マークシートの記入ができない者については、文字解答用紙に文字により解答

なお、身体に障害のある者のうち、重度の障害を有する者(受験案内24ページ参照)については、大学・学部により修学上特別な配慮を必要とすることもありま

すので、共通第一次学力試験の出願の前に、あらかじめ志望する大学と協議し、大学からの協議結果の文書を添えて出願することとなります。

なお、この場合、協議が早急に整わないときには、協議中であるという文書でも出願できることにしています。

**Q15** 職業科の高等学校出身者に対しては、どのような配慮がなされていますか。

**A** 共通第一次学力試験は、主として、高等学校における一般的・基礎的な学習の達成度を判定することを目的とし、高等学校の普通科、職業科を問わず共通の必修科目を中心とした科目について試験を行うこととしています。

で、職業科出身者に対しても制度上は平等の措置がとられていると言えます。更に数学、理科、外国語については、主として職業科の教育課程に取り入れられている「数学一般」、「基礎理科」、「英語A」の科目についての出題も行い、これらの科目を履修した者だけが選択して解

答できるようになっています。

なお、各大学の第二次の学力検査の実施に当たっては、職業科高校出身者のため、「職業に関する基礎的、基本的科目を出題し、選択解答できるよう特に配慮することが望ましい」とされています。

**Q16** マークシート(解答用紙)に記入する際には、どのような注意をすればよいのですか。

**A** 共通第一次学力試験は、主として、多肢選択による客観式の検査方法で行い、その解答はマーク方式で行います。

解答を記入する際には、読み取り装置にもっとも適した「Hの鉛筆」を使用し、訂正する際には「プラスチック製の消しゴム」を使用することとしています。色鉛筆、ボールペンよりも、シャープペンシルは「しん」の材質が異なっているためその使用が禁じられていますので注意してください。なお、記入に当たっては、所定の欄に正確にマークするよう心がけてください。

解答用紙にマークする方法は、特別な技術や知識を必要とするものではなく、注意事項をよく守って、指示どおりにマークすればよいのです。

受験番号欄、選択科目欄、解答欄のマークのしかたについては、問題冊子及び解答用紙の注意事項に記載されているほ



か、各教科の試験の開始前、開始直後、終了後に監督者が、口頭で注意することになっています。

特に、受験番号や選択科目のマークもれやマーク誤りがあつたときは、採点せず、0点となることの注意が問題冊子と解答用紙などに明記されています。

昭和五十六年度共通第一次学力試験本試験のマークもれやマーク誤りの件数は一、〇三四件で、延べ受験者数に対する発生率は〇・〇四％であり、著しく少ない状況です。慎重にマークを行い、ささいな注意不足のために大切な機会を損なうことがないようにしてください。

## Q17

試験問題の正解や平均点、標準偏差などはいつ公表されるのですか。

共通第一次学力試験で出題した試験問題の正解は、報道機関を通じて試験終了後に公表します。

なお、この正解の公表とあわせて、試験問題の大問の次の段階（小問）の配点についても公表します。（大問別の配点は問題冊子に印刷してある）

総得点と科目別の平均点、標準偏差、最高点及び最低点は、昭和五十七年二月八日（月）までに、報道機関を通じて公表します。

共通第一次学力試験の正確な成績を、二次試験の出願の前に本人や出身高校に明らかにしてほしいという意見もあります。

者選抜方法も、永年にわたる国立大学協会の検討に基づき構想され、国立大学協会の合意の下に実施に移されたものであり、それに公立大学も全体として加わってきたものです。

私立大学の各団体においても、従来から入試改善の検討が行われてきておりましたが、特に共通第一次学力試験の実施をきっかけとして、入試改善についての気運が一層高まり、新しい工夫をこらした入試が行われてきています。

昭和五十七年度の共通第一次学力試験には、私立大学として初めて産業医科大学が加わることとなりました。従って産業医科大学に入学しようとする者は、共通第一次学力試験を受験しなければなりません。

## Q20

共通第一次学力試験の趣旨からいうと、高等学校側の意見も十分に反映される必要があると思います。どうでしょうか。

A 大学入試は、大学教育の第一歩としてそれにふさわしい能力・適性を有する者を選抜するために行うものですから、これを実施する責任は、当然に大学がもたなければなりません。しかし、受験生は高校生なのです。大学が高等学校と高校生をよく理解していなければならぬことも当然のことです。そこで共通第一次学力試験に関する高等学校

す。しかし、この自己採点方式は、受験生が最終的な志望を固める際の一つの目安として、自己の学習の進展の度合い等を知るといふ意味のものであります。志望の決定は、共通第一次学力試験の得点による合格可能性のみによって行われるべきでないことは言うまでもないことであり、得点の予測もあくまでも一つの手がかりとして利用されるべきもので、そのためにはなおよそのものでよいと考えられています。

## Q18

追試験・再試験は、どのような場合に行われるのでしょうか。

A 病気、交通機関の事故などやむを得ない事由により、共通第一次学力試験を所定の期日に受験できない者に對しては、本試験の一週間後に追試験が実施されます。しかし、受験に備えて健康状態を良好に保つことも「試験のうち」と言われているように、病気の場合でも、真にやむを得ないとき以外は、追試験の受験は好ましくありません。

追試験の出題教科・科目、試験時間などは、本試験に準じます。その手続は次のとおりです。

① 病気などにより受験できないときは、本試験の前日（一月一五日後五時）までに医師の診断書等を持参して受験票に記載されている「問い合わせ大学」に届け出て許可を受けてください。

側の意見を、共通第一次学力試験の実施方法、問題作成などに反映させていくことは、この入試方法をよりよいものにしていくために、極めて重要なことです。このため、大学入試センターでは、高等学校側との間に連絡協議会を設けています。この連絡協議会には総合部会と試験問題部会とが置かれています。

総合部会では、共通第一次学力試験に関する一般的、包括的な事項について連絡協議を行います。

この部会は、全国高等学校長協会代表者、都道府県教育長協議会等代表者、大学入試センターの代表者十数人の委員で構成されています。

また、共通第一次学力試験だけでなく、広く大学入試に関する諸問題についても、この部会で討議されることとなりますが、その意見・要望は、各大学や国立大学協会、公立大学協会、文部省など関係方面に伝えられます。

試験問題部会では、共通第一次学力試験に出題された試験問題の内容、程度、出題方法について協議します。

この部会は、各都道府県教育委員会から推薦された四五人（一科目につき三人、一五科目合計四五人）の高等学校教員と、センター内の各試験問題作成責任者一五人とで構成されています。

この部会は、各科目ごとの分科会に分かれて協議を行い、高等学校教員の委員

い。

② 定期運行の交通機関の事故により、試験の全部又は一部の教科を受験できなくなった場合は、ただちに、受験票に記載されている「試験当日の電話」により、試験場へ連絡し、係員の指示を受けてください。審査を行い、追試験の受験を認めるかどうかを指示します。なお、試験当日の病気や負傷は、追試験の対象となりませんので注意してください。

次に、再試験は、積雪や地震等の天災、その他実施する側の事情により、所定の期日に全教科又は一部の教科の試験が実施できなかった場合に実施することとしています。

なお、再試験については、災害等の状況に応じて、臨機の対応策が講じられるようにテレビ・ラジオによる周知などの諸準備を行っています。

## Q19

共通第一次学力試験には、私立大学も参加するのですか。

A 大学入試の改善は、国公私立大学を通じて、大学全体として考えていくべきものでありますが、入学者の選抜は、大学教育の第一歩であることから、それぞれの大学の自主性のもとに行われ、またその改善が図られるべきものと考えます。

共通第一次学力試験を取り入れた入学

から試験問題の評価が大学入試センター所長に報告されます。大学入試センターでは、この結果を試験問題作成のうえに、十分反映させることとしています。

また、このほか全国的な教科別の教育研究団体（17団体）にも試験問題に関する意見を求めています。

さらに全国七地区で、毎年開催する共通第一次学力試験の説明協議会においても、現場の高等学校教員、PTA関係者などから直接意見を聞き、今後の改善に反映させることとしています。

## Q21

昭和五十七年度から高等学校の教育課程が変わりますが、共通第一次学力試験の試験科目などは、どのようになりますか。

A 大学の入学者選抜は、高等学校の教育に十分留意して行われなければならないものですが、高等学校の学習指導要領が昭和五十七年度から改訂されることとなり、それにのっとって教育を受けた生徒が大学を志願する昭和六〇年度以降の大学入試のあり方が課題となっています。

このたびの学習指導要領の特色はいろいろありますが、まず基礎的、かつ、基本的なものを重視して内容を精選していること、高等学校進学者が同一年齢層の九五％を超えるようになっている現実を考慮し、必修科目を縮小して生徒の履修



の実態に応じて多様な学習が可能となるようにしていることなどを挙げる事ができます。

国立大学協会では、すでに昨年の暮れからこの学習指導要領の改訂に伴う共通第一次学力試験のあり方を検討するため委員会を発足させ、調査研究にとりかかっていますが、大学入試センターでも国立大学協会の依頼により具体的な問題点の整理などを行うこととなり、専門委員会を設け、専門的立場からの検討を行っています。

既に国立大学協会は、昭和五五年一月の総会において、共通第一次学力試験と各大学が行う第二次試験とを組み合わせた現行方式の趣旨を、今後とも踏襲することが適当であるとし、共通第一次学力試験の出題範囲には、高等学校教育課程における必修科目のほかに、選択科目を加えて出題する方向で検討することを決めています。

今後、国立大学協会は本年秋ごろには共通第一次学力試験の出題教科・科目についての中間報告を発表し、各大学や高等学校などからの意見や要望を聞きつつ更に検討をすすめる、昭和五七年秋には最終結論をまとめることとしています。

## Q22

第二次試験の出願手続は、どのようなになっていますか。出願に必要な書類は、いつ、どこで手に入れることができますか。

A 第二次試験の内容については、各大学がそれぞれの方針に基づいて決定し、次のとおり公表することになっていますので、志望する大学の入試担当係に直接照会してください。

○ 七月三十一日(金)までに、第二次試験の内容の基本的事項(学力検査の教科・科目、実技検査や面接、小論文等の有無など)を決定し、募集要項の概要として公表します。

○ 一二月二五日(金)までに、募集人員、試験時間、出願手続など第二次試験の実施の細目について決定し、「学生募集要項」として公表します。

また、これらとは別に、九月頃に、各大学が七月に発表した事項と大学紹介とを記載した「国立大学ガイドブック」が刊行されますので、参照されると大変便利です。

なお、各大学の学生募集要項にも記載されていますが、国立大学の第二次試験を受験するためには、必ず、共通第一次学力試験を受験しておかなければならないことになっていますので、注意してください。ただし、推薦入学を実施している大学で、その一部の学部・学科につ

## Q23

共通第一次学力試験の志願票に記入した志望大学・学部を、その後各大学の第二次試験に出願するとき、他の大学・学部に変更することができませんか。

A 共通第一次学力試験は、各国立大学の第一次の学力検査を共同で行うという性格をもつものですから、出願の際に志望する大学・学部を決めておく必要があります。

出願のときには、第一志望は必ず記入することになっています。志望は、共通第一次学力試験を取り入れている大学のいずれからでも任意に選択することができます。大学入試センターではこの志望状況を集計して、昭和五六年一月中旬に公表することとしています。

第二次試験のために各大学へ出願する際には、この第一志望、第二志望として申請した大学・学部のうちから一つを選ぶことが原則とされていますが、公表された志望状況、共通第一次学力試験の自己採点の結果、あるいは勉学の進捗などから考えて、志願者自身が、第一、第二志望以外の大学に出願したいと考えたときは、他の大学・学部に変更してもさしつかえありません。また、そのときに変更届を出す必要もありません。

## Q24

第二次の学力試験の実施教科・科目などは、どのようになっていますか。

A 第二次試験で出題する教科・科目などは、共通第一次学力試験の目的、内容に対応し、その大学の学部・学科などの目的、特色、専門分野などの特性に応じた、必要最小限の科目数にとどめることが望ましいとされています。また、第二次学力検査では、共通第一次学力試験がマークシート方式による客観テストであることとの関連で、入学志願者の記述力、考察力、表現力などが検査できるような出題形式をとることが期待されています。

昭和五六年度の第二次の学力検査の実施教科・科目数は、国立大学で平均二・八科目。学力検査を課さないところも四五大学六九学部ありました。

第二次の学力検査でどの科目を出題するかは、各大学の学部・学科等の特性によって、それぞれ異なりますので、昭和五七年度の実施教科・科目などについては、志望する大学の入試担当係に直接照会してください。

なお、各大学は、七月三十一日(金)までに第二次の学力検査の実施教科・科目などを公表することになっています。(Q22参照)

## Q25

実技検査、面接、小論文などの実施状況は、どうなっていますか。

A 大学入学者の選抜は、大学教育を受けるにふさわしい能力と適性をもった者を入学させるため、多面的な資料を合理的に総合して、公正にしかも妥当な方法で行われなければなりません。主として入学志願者の高等学校における一般的・基礎的な学習の達成の程度を判定することを目的とする共通第一次学力試験をふまえて、各大学は、それぞれの大学・学部などの特性に応じた受験生の能力・適性などをみるため、第二次試験(第二次の学力検査、実技検査、面接、小論文など)を実施します。

実技検査、面接、小論文などは、学力検査のみでは判定し得ない能力・適性を評価するのに適した方法であり、特に、第二次の学力検査を実施しない場合には、これらを課すことが望ましいとされています。

昭和五六年度では五七大学六五学部で実技検査が実施されました。また、面接は四二大学五五学部で、小論文は七六大学一一八学部で実施されています。

これらの具体的な内容や方法はさまざまですが、各大学の募集要項などで発表されますので、志望大学の募集要項をよくみてください。

## Q26

推薦入学の実施状況は、どうなっていますか。また、推薦入学に出願する場合でも、共通第一次学力試験を受けなければなりませんか。

A 推薦入学制度は、在学する学校長の推薦に基づき、学力検査を課さないで、調査書などの内容を主な資料として入学者を選抜する方式です。

ところで、共通第一次学力試験は、各国立大学の入学試験の一部として、必修科目を中心に高等学校での一般的・基礎的な学習の達成度を判定することを目的として、本来、入学志願者全体を対象に行うものですので、推薦入学の場合でも共通第一次学力試験は受験するものとし、第二次の学力検査だけを免除することが原則とされています。

しかし、推薦入学を実施する大学・学部などの目的・特色、専門分野などの特性によって、特に必要のある場合には共通第一次学力試験も免除できることになっています。

推薦入学で共通第一次学力試験を課すかどうかなどは、各大学が適宜定め、七月三十一日(金)までに公表します。

また、判定結果については、昭和五七年二月二六日(金)まで(共通第一次学力試験を課さない場合は二月八日(月)まで)に発表します。



推薦入学に出席し、これに不合格となつた場合でも共通第一次学力試験を受けていれば、もちろんその大学の第二次学力検査を受験することは可能です。

昭和五十六年度において推薦入学を実施した国公立大学は六二大学（九九学部）でしたが、そのうち三二大学（四四学部）が共通第一次学力試験を免除していません。

**A Q27**

第二次募集は、いつ、どのように行われるのですか。

第二次募集とは、各大学が合格者を発表した後、共通第一次学力試験を受験している者で、いずれの国（公立）大学にも合格していないものを対象に行われる試験で、これらの者にとっては再受験の機会といふことができます。

第二次募集を行う大学には、あらかじめ入学定員の一部を留保して行うものと欠員が生じたときに行うものとがあります。

第二次募集は、三月二一日（日）以降に各大学が適宜定めて実施しますが、入学定員の一部を留保して行うものについては、あらかじめ募集要項などに定められています。

昭和五十六年度に入学定員の一部を留保して第二次募集を行ったところは、一五大学一七学部（募集人員八二二人）また、

欠員が生じて第二次募集を行ったところは三三大学三学部（募集人員約四〇人）ありました。

**Q28**

各大学の合否判定は、どのように行われるのでしょうか。また、一次試験、二次試験の配点は公表されないのでしょうか。

共通第一次学力試験と、各大学の行う第二次試験の成績の取扱いについては、文部省の「大学入学者選抜実施要項」に、「特に、共通第一次学力試験の成績が、この試験の目的に即して十分に適切に評価されるよう配慮するものとす」となっていますが、具体的な成績の配分などの基準は、各大学が独自に決定します。

各大学は、第二次試験では、必要に応じて第二次の学力検査のほか、小論文、面接、実技検査を課します。これらは、学力検査のみでは測定し得ない能力・適性などを評価するもので、特に、第二次の学力検査を実施しない場合には、これらを課することが望まれています。

最終的な合否の判定は、共通第一次学力試験及び第二次の学力検査の成績と、これらの小論文、面接などの結果及び調査書の内容などの多面的な資料を総合し綿密な検討によって行われます。

各大学は、適切な判定方法について常に検討を行っています。合否を判定する

るに当たって、共通第一次学力試験と第二次試験の成績の比重をどうするか、配点の方法はどうするかなどについて、公表するか、公表しないかは、各大学の自主性に委ねられています。

昭和五十六年度は三三大学でこれらの配点基準などを公表していますが、くわしくは各大学の募集要項や「国公立大学ガイドブック」などを参照してください。

**A Q29**

二段階選抜（いわゆる足切り）は、共通第一次学力試験の趣旨にそわないのでしょうか。

国公立大学の入学者選抜方法では、共通第一次学力試験と各大学が行う第二次試験の成績や調査書の内容を総合し、合理的な判定を行うことを本旨としています。しかし、第二次試験の受験生の数が非常に多く、そのため綿密な試験が十分できないような場合には、共通第一次学力試験の成績と調査書の内容により、第一段階の選抜（いわゆる足切り）を行うこともやむを得ないと考えられています。つまり、共通第一次学力試験の成績と調査書の内容によって、第一段階の選抜を行い、その合格者について、最終の選抜を行う方法です。この第一段階の判定は、第二次試験について出願を受け付けた後に、第二次試験の一部として実施されるものであります。

なお、この場合においても、第一段階

の選抜の合格者の数は、入学定員の三倍程度を下回らないようにすることが要請されています。これは、これまでの研究で入学定員の二倍程度を選抜することによって、第一段階合格者の九八・六％が最終的に合格しているということが経験的に分かっていますので、その程度をさらに広げて「三倍程度」ということにしたのです。

昭和五十六年度に二段階選抜を実際に行った大学は、国立大学で一一大学、公立大学で四大学となっています。その不合格者は、国公立大学合わせて約六、五〇〇人でしたが、その半数は二次試験を国立大学と異った期日に行った公立大学のものではなかった。

**Q30**

国立大学の入試期日の一元化は、受験の機会を減少させることになるのではないのでしょうか。

**A**

国立大学の一期校、二期校の区別を廃止して一元化することが望ましいことは、かねて決定されていたことですが、広く大学入試の改善という立場から考えるべき性質のものであるということ、共通第一次学力試験の実施と関連させ、昭和五十四年度の入学者選抜から同時に行うことにしたものです。

一期校、二期校の一元化については、二期校の格差感が解消されることや、一期校、二期校に重複して合格することに

よって生ずる欠員の発生がなくなるのと、また一元化によって慎重な大学選抜が促されるなどのメリットがあります。

大学を志願するということは、大学ならばどこでも入学できればよいということではなく、しっかりした志をたてて、それによって志望する大学を選ぶべきであることはもちろんのことです。

現行の入試方式では、志願者が最終的に志願する大学を決めるよりどころの一つとして、共通第一次学力試験の出願の際に志願状況を公表し、また共通第一次学力試験の正解に加えて平均点や、標準偏差、最高点、最低点などを公表しています。

また、一元化が受験生に与える影響を和らげるものとして、第二次募集の制度が設けられています。昭和五十六年度の入学者選抜においては「一八大学二〇学部（募集人員約八六〇人）」がこれを実施しました。

また、一部の公立大学では、国立大学と大部分の公立大学の試験期日と異なる期日に第二次試験を実施しています。



(2) 大学・短期大学入学志願者、入学者の推移

〔大学〕

| 入学<br>年度 | 国 立     |        |     | 公 立     |        |      | 私 立       |         |     | 計         |         |     |
|----------|---------|--------|-----|---------|--------|------|-----------|---------|-----|-----------|---------|-----|
|          | 入学志願者   | 入学者    | 倍率  | 入学志願者   | 入学者    | 倍率   | 入学志願者     | 入学者     | 倍率  | 入学志願者     | 入学者     | 倍率  |
| 35       | 250,118 | 44,847 | 5.6 | 59,244  | 6,925  | 8.6  | 485,597   | 111,150 | 4.4 | 794,959   | 162,922 | 4.9 |
| 40       | 307,853 | 54,681 | 5.6 | 89,436  | 9,130  | 9.8  | 806,048   | 186,106 | 4.3 | 1,203,337 | 249,917 | 4.8 |
| 45       | 372,190 | 64,519 | 8.8 | 104,625 | 10,215 | 10.2 | 1,466,392 | 258,303 | 5.7 | 1,943,207 | 333,037 | 5.8 |
| 46       | 362,767 | 65,484 | 5.5 | 83,961  | 10,321 | 8.1  | 1,505,956 | 282,016 | 5.3 | 1,952,684 | 357,821 | 5.5 |
| 47       | 372,375 | 66,877 | 5.6 | 84,257  | 10,317 | 8.2  | 1,518,958 | 298,953 | 5.1 | 1,975,590 | 376,147 | 5.3 |
| 48       | 384,988 | 69,582 | 5.5 | 85,883  | 10,401 | 8.3  | 1,600,914 | 309,577 | 5.2 | 2,071,785 | 389,560 | 5.3 |
| 49       | 412,514 | 73,190 | 5.6 | 90,473  | 10,434 | 8.7  | 1,817,126 | 323,904 | 5.6 | 2,320,113 | 407,528 | 5.7 |
| 50       | 452,687 | 75,479 | 6.0 | 104,767 | 10,673 | 9.8  | 2,199,245 | 337,790 | 6.5 | 2,756,699 | 423,942 | 6.5 |
| 51       | 482,861 | 76,537 | 6.3 | 92,928  | 10,479 | 8.9  | 2,218,729 | 333,600 | 6.7 | 2,794,518 | 420,616 | 6.6 |
| 52       | 504,808 | 78,323 | 6.4 | 94,424  | 10,718 | 8.8  | 2,358,662 | 339,371 | 7.0 | 2,957,894 | 428,412 | 6.9 |
| 53       | 509,497 | 80,237 | 6.3 | 103,812 | 10,797 | 9.6  | 2,513,819 | 334,684 | 7.5 | 3,127,128 | 425,718 | 7.3 |
| 54       | 270,300 | 82,533 | 3.3 | 69,899  | 10,578 | 6.6  | 2,456,046 | 314,524 | 7.8 | 2,796,245 | 407,635 | 6.9 |
| 55       | 255,019 | 84,731 | 3.0 | 64,832  | 10,848 | 6.0  | 2,338,555 | 316,858 | 7.4 | 2,658,406 | 412,437 | 6.4 |

(注) 入学志願者は延べ数

〔短期大学〕

| 入学<br>年度 | 国 立    |       |     | 公 立    |       |     | 私 立     |         |     | 計       |         |     |
|----------|--------|-------|-----|--------|-------|-----|---------|---------|-----|---------|---------|-----|
|          | 入学志願者  | 入学者   | 倍率  | 入学志願者  | 入学者   | 倍率  | 入学志願者   | 入学者     | 倍率  | 入学志願者   | 入学者     | 倍率  |
| 35       | 5,082  | 2,499 | 2.0 | 13,397 | 5,293 | 2.5 | 68,681  | 34,526  | 2.0 | 87,160  | 42,318  | 2.1 |
| 40       | 6,507  | 2,502 | 2.6 | 26,802 | 6,495 | 4.1 | 137,826 | 71,566  | 1.9 | 171,135 | 80,563  | 2.1 |
| 45       | 7,588  | 3,024 | 2.5 | 30,307 | 7,409 | 4.1 | 214,804 | 116,226 | 1.8 | 252,699 | 126,659 | 2.0 |
| 46       | 7,076  | 3,197 | 2.2 | 30,244 | 7,549 | 4.0 | 227,080 | 125,646 | 1.8 | 264,400 | 136,392 | 1.9 |
| 47       | 7,092  | 3,148 | 2.3 | 30,723 | 7,581 | 4.1 | 232,402 | 130,902 | 1.8 | 270,217 | 141,631 | 1.9 |
| 48       | 6,595  | 3,395 | 1.9 | 31,708 | 7,834 | 4.0 | 261,262 | 143,542 | 1.8 | 299,565 | 154,771 | 1.9 |
| 49       | 7,446  | 3,817 | 2.0 | 30,943 | 8,006 | 3.9 | 290,971 | 152,254 | 1.9 | 329,360 | 164,077 | 2.0 |
| 50       | 10,492 | 4,371 | 2.4 | 34,985 | 8,189 | 4.3 | 333,689 | 162,370 | 2.1 | 379,166 | 174,930 | 2.2 |
| 51       | 9,916  | 4,076 | 2.4 | 37,251 | 8,259 | 4.5 | 344,502 | 162,348 | 2.1 | 391,669 | 174,683 | 2.2 |
| 52       | 12,243 | 4,310 | 2.8 | 38,630 | 8,369 | 4.6 | 390,561 | 170,545 | 2.3 | 441,434 | 183,224 | 2.4 |
| 53       | 14,012 | 4,296 | 3.3 | 39,862 | 8,525 | 4.7 | 409,339 | 168,360 | 2.4 | 463,213 | 181,181 | 2.6 |
| 54       | 12,851 | 4,408 | 2.9 | 36,237 | 8,405 | 4.3 | 411,009 | 164,166 | 2.5 | 463,097 | 176,979 | 2.6 |
| 55       | 12,615 | 4,743 | 2.7 | 36,673 | 8,615 | 4.3 | 424,835 | 164,857 | 2.6 | 474,123 | 178,215 | 2.7 |

(注) 入学志願者は延べ数

(1) 大学入学状況推移

| 入学<br>年度 | 前年度高校<br>卒業生数<br>(A) | 区 分 | 入 学 志 願 者 数 |      |       |      | 入学者数<br>(E) | 入 学 率<br>(E/D) | 同一年令<br>層比 |
|----------|----------------------|-----|-------------|------|-------|------|-------------|----------------|------------|
|          |                      |     | 新卒(B)       | B/A  | 浪人(C) | 計(D) |             |                |            |
| 35       | 934千人                |     | 242         | 26.0 | 177   | 419  | 205         | 48.9           | 10.3       |
| 40       | 1,160                |     | 386         | 33.3 | 108   | 494  | 330         | 66.8           | 17.1       |
| 45       | 1,403                | 大 学 | 360         | 25.7 | 179   | 539  | 333         | 61.8           | 17.1       |
|          |                      | 短 大 | 126         | 9.0  | 12    | 138  | 127         | 92.0           | 6.5        |
|          |                      | 計   | 486         | 34.6 | 191   | 677  | 460         | 67.9           | 23.6       |
| 46       | 1,360                | 大 学 | 369         | 27.1 | 174   | 543  | 358         | 65.9           | 19.4       |
|          |                      | 短 大 | 130         | 9.6  | 12    | 142  | 136         | 95.8           | 7.4        |
|          |                      | 計   | 499         | 36.7 | 186   | 685  | 494         | 72.1           | 26.8       |
| 47       | 1,319                | 大 学 | 383         | 29.0 | 167   | 550  | 376         | 68.4           | 21.6       |
|          |                      | 短 大 | 135         | 10.2 | 10    | 145  | 142         | 97.9           | 8.2        |
|          |                      | 計   | 518         | 39.3 | 177   | 695  | 518         | 74.5           | 29.8       |
| 48       | 1,326                | 大 学 | 407         | 30.7 | 171   | 578  | 390         | 67.5           | 23.0       |
|          |                      | 短 大 | 147         | 11.1 | 12    | 159  | 155         | 97.5           | 9.2        |
|          |                      | 計   | 554         | 41.8 | 183   | 737  | 545         | 73.9           | 32.2       |
| 49       | 1,337                | 大 学 | 433         | 32.4 | 169   | 602  | 408         | 67.8           | 24.7       |
|          |                      | 短 大 | 158         | 11.8 | 11    | 169  | 164         | 97.0           | 10.0       |
|          |                      | 計   | 591         | 44.2 | 180   | 771  | 572         | 74.2           | 34.7       |
| 50       | 1,327                | 大 学 | 457         | 34.4 | 183   | 640  | 424         | 66.3           | 26.7       |
|          |                      | 短 大 | 170         | 12.8 | 11    | 181  | 175         | 96.7           | 11.0       |
|          |                      | 計   | 627         | 47.2 | 194   | 821  | 599         | 73.0           | 37.8       |
| 51       | 1,325                | 大 学 | 459         | 34.6 | 191   | 650  | 421         | 64.8           | 27.2       |
|          |                      | 短 大 | 173         | 13.1 | 11    | 184  | 175         | 95.1           | 11.3       |
|          |                      | 計   | 632         | 47.7 | 202   | 834  | 596         | 71.5           | 38.6       |
| 52       | 1,403                | 大 学 | 477         | 34.0 | 195   | 672  | 428         | 63.7           | 26.4       |
|          |                      | 短 大 | 184         | 13.1 | 11    | 195  | 183         | 93.8           | 11.3       |
|          |                      | 計   | 661         | 47.1 | 206   | 867  | 611         | 70.5           | 37.7       |
| 53       | 1,392                | 大 学 | 456         | 32.8 | 198   | 654  | 426         | 65.1           | 27.0       |
|          |                      | 短 大 | 183         | 13.1 | 11    | 194  | 181         | 93.3           | 11.5       |
|          |                      | 計   | 639         | 45.9 | 209   | 848  | 607         | 71.6           | 38.4       |
| 54       | 1,384                | 大 学 | 452         | 32.7 | 185   | 637  | 408         | 64.1           | 26.1       |
|          |                      | 短 大 | 181         | 13.1 | 10    | 191  | 177         | 92.7           | 11.3       |
|          |                      | 計   | 633         | 45.7 | 195   | 828  | 585         | 70.7           | 37.4       |
| 55       | 1,399                | 大 学 | 452         | 32.3 | 185   | 637  | 412         | 64.7           | 26.1       |
|          |                      | 短 大 | 184         | 13.2 | 10    | 194  | 178         | 91.8           | 11.3       |
|          |                      | 計   | 636         | 45.5 | 195   | 831  | 590         | 71.0           | 37.4       |

資料

大学進学状況等



# 資料 大学入学者選抜制度改革の歩み

昭和四十六年二月 国立大学協会「第二常置委員会」が「入試調査特別委員会」を設置し、①全国共通第一次試験の基本構想、②共通第一次試験結果の利用方法、③共通第一次試験を用いる利点などについて、本格的な調査研究を開始した。

昭和四十六年六月 「中央教育審議会」が、その答申の中で「広域的な共通テスト」の開発と利用について提言した。

昭和四十六年二月 「大学入試改善会議」が、共通学力検査の実施を含む「大学入学者選抜方法の改善について」を発表した。

昭和四十八年四月 国立大学協会は、新しい調査研究体制として「入試改善調査委員会」を設置し、①問題作成、②電算機による処理、③実施機構等について具体的な調査研究を開始した。

昭和四十九年一月 「入試改善調査委員会」は、国立大学の協力のもとに、全国七地区において、高校三年生約三、〇〇〇人を対象とした「共通第一次試験問題の実施研究」を実施した。

昭和五〇年三月 「大学入試改善会議」は、「国立大学の入試期日の一元化について」の報告を行い、その中で入試期日の一元化は、共通学力検査の実施に関連

させて行うことが望ましく、昭和五三年度の大学入学者選抜からの実施を目的とし、その間において共通学力検査の実施を推進することが適当であろうと提案した。

昭和五〇年十一月 「入試改善調査委員会」は、国立大学の協力のもとに、全国七地区四会場において、高校生約五、〇〇〇人を対象として実地研究を実施した。

国立大学協会総会は、調査研究を推進するため「国立大学入試改善調査施設」を、昭和五一年度において特定の大学に附置するよう文部省に要請した。

昭和五一年五月 全国共同利用の「国立大学入試改善調査施設」が東京大学に附置された。

昭和五一年六月 国立大学協会総会において「共通第一次試験の実施は大学入試の改善に資する。しかし、この共通第一次試験を実施することについては、種々重要な問題が残されているので、これらの問題について、今後文部省とも協議し、慎重に検討したうえで方針を決定したい。」との方針を全会一致で決定した。

その際、「国立大学入学者選抜期日の一元化」についても、共通第一次試験に

よる大学入学者選抜とあわせて、同時に実施することが望ましいとした。

昭和五一年十月 「入試改善調査委員会」は、国立大学の協力のもとに、全国七地区四八会場において、高校生約二、〇〇〇人を対象として実地研究を実施した。

昭和五一年十一月 国立大学協会総会において、「国立大学共通第一次学力試験は昭和五十四年度大学入学者選抜から実施可能である。」との結論を得た。

昭和五一年十二月 公立大学協会臨時総会において、「公立大学においても共通第一次学力試験を利用する。」との意向をまとめ、国立大学協会に要請した。

昭和五二年二月 国立大学協合理事会において、共通第一次学力試験を公立大学が利用することについて了承した。

昭和五二年五月 文部省は、国立大学協会等の要請に応え、国立学校設置法の一部を改正し、大学入試センターを設置した。

組織 所長 加藤陸奥雄  
研究部(情報処理、追跡、評価の三部門)  
管理・事業部(総務課、事業課)

昭和五二年六月 文部省から、共通第一次学力試験の日程及び各大学の第二次

学力検査等の日程等を含めた「昭和五十四年度以降における大学入学者選抜実施要項」が公表された。

選抜等の日程(下表①参照)

共通第一次学力試験の実施に、高等学校側の意見・要望等を反映させるため、大学入試センター内に「共通第一次学力試験等連絡協議会」を設置することを決定した。

昭和五二年七月 大学入試センターは、「昭和五十四年度大学入学者選抜に係る共通第一次学力試験実施大綱」を発表した。

共通第一次学力試験の実施期日

|                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 共通第二次学力試験の出願受付 | 9月1日から9月30日まで         |
| 共通第一次学力試験の実施   | 昭和53年12月23日(土)、24日(日) |
| 追試験の実施         | 昭和54年1月13日(土)、14日(日)  |

昭和五二年十二月 大学入試センター及び各公立大学一〇校が協力して、高校三年生等を対象として試行テストを実施した。

- (1) 出願者数 六三、六〇九人
- (2) 試験場数 二〇四会場
- (うち、点字問題受験者二九人)
- (点字問題試験場六会場)

③ 全教科受験者 三九、六七三人

昭和五三年一月 国立大学協会等及び「大学入試改善会議」が、共通第一次学力試験実施時期を一月中旬に繰り下げ

ることを決定した。共通第一次学力試験の実施期日の繰り下げに伴う「昭和五十四年度以降における大学入学者選抜実施要項」の一部改正について、文部省から通知された。

選抜等の日程(下表②参照)

昭和五三年二月 大学入試センターは、「昭和五十四年度以降における大学入学者選抜実施要項」の一部改正に伴い「昭和五十四年度共通第一次学力試験実施大綱」の一部改正を行い、公表した。

共通第一次学力試験の実施期日(下表③参照)

昭和五三年六月 「昭和五十四年度大学入学者選抜共 第一次学力試験実施要項」及び「同受験案内」を公表し、受験案内は各公立大学等で配布を開始した。

昭和五三年七月 全国七地区で、高等学校及び教育委員会等の進学担当教職員八、〇〇〇人を対象に、昭和五十四年度大学入学者選抜共通第一次学力試験説明・協議会を開催した。

昭和五三年十月 昭和五十四年度共通第一次学力試験出願受付(一〇月二日、一六日)を行った。

| 区 分      | 共通第1次学力試験の出願、試験実施の日程                                        | 各大学に対する出願、第2次の学力検査の日程                       |
|----------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 出願受付試験期日 | 前年度の9月1日から9月30日まで<br>前年度の12月20日から12月28日までの期間内で大学入試センターが定める日 | 前年度の2月1日から2月10日まで<br>前年度の3月3日から各大学が定める必要な期間 |
| 合格者の発表   |                                                             | 前年度の3月20日まで                                 |

| 区 分     | 改 正                                  |
|---------|--------------------------------------|
| 出 願 受 付 | 前年度の10月1日から10月15日まで                  |
| 試 験 期 日 | 前年度の1月10日から1月19日までの期間内で大学入試センターが定める日 |

|           |                      |
|-----------|----------------------|
| 出 願 受 付   | 10月1日から10月15日まで      |
| 試 験 の 実 施 | 昭和54年1月13日(土)、14日(日) |
| 追試験の実施    | 昭和54年1月20日(土)、21日(日) |



◎共通第1次学力試験に関する問い合わせ

共通第1次学力試験に関する問い合わせは、文書で行うこと。封筒の表に「受験問い合わせ」と朱書し、200円切手を貼付した返信用封筒（住所、氏名を表書きしたもの）を同封すること。

◎問い合わせ先

〒153 東京都目黒区駒場2-19-1

大学入試センター事業部事業課

電話での問い合わせは、やむを得ない場合に限り。

受験問い合わせ専用電話 03 (465) 8600

「座談会 大学入試を語る」を除いて、この冊子からの転載、複製は自由です。ただし、出所を明記してください。

大学入試センター

〒153 東京都目黒区駒場2-19-1

TEL 03 (465) 3946~9

昭和五三年十二月 昭和五四年度共通第一次学力試験出願時における各国公立大学の志望状況を公表した。

昭和五四年一月 昭和五四年度共通第一次学力試験を実施した。

昭和五四年二月 昭和五四年度共通第一次学力試験（本試験）の科目別全国平均点を公表した。

各国公立大学に、共通第一次学力試験の成績提供を開始した。

総提供件数 三二七、七四一件

（欠席者等を含む。）

昭和五四年度国公立大学入学志願状況が文部省から公表された。

昭和五四年三月 各国公立大学が第二次試験を実施した。

文部省は、国公立大学第二次試験の実施状況を公表した。

昭和五四年六月 「昭和五五年度共通第一次学力試験実施要項」及び「同受験案内」を決定し、受験案内は各国公立大学等で配布を開始した。実施要項の一部改正により、既卒業者は直接大学入試センターに出願することとした。

昭和五四年九月 入学志願者のため国立大学協会公立大学協会、大学入試センターの共同編集による「昭和五五年度国公立大学ガイドブック」が刊行された。

昭和五四年一〇月 昭和五五年度共通第一次学力試験出願受付（一〇月一日～一五日）を行った。

志願者数 三四九、五六六八

昭和五五年一月 昭和五五年度共通第一次学力試験を実施した。

高等学校の学習指導要領改訂に伴う共通第一学力試験のあり方を調査検討するため、国立大学協会において「入試教科目改訂専門委員会」が発足した。大学入試センターにおいても、「試験教科目等調査研究委員会」を発足させ、専門的な立場から調査・検討を開始した。

昭和五五年二月 昭和五五年度共通第一次学力試験（本試験）の科目別全国平均点を公表した。

各国公立大学に、共通第一次学力試験の成績提供を開始した。

総提供件数 三二四、〇〇六件

（欠席者等を含む。）

昭和五五年三月 各国公立大学が第二次試験を実施した。

昭和五五年四月 昭和五四年度共通第一次学力試験の実施報告を「大学入試センター年報」として公表した。

昭和五五年六月 昭和五六年度大学入学選抜共通第一次学力試験実施要項」及び「同受験案内」を公表し「受験案内」を各国公立大学等で交付した。

昭和五五年九月 「大学入学者選抜実施要項」の一部が改正され昭和五七年度の共通第一次学力試験から社会に属する科目の選択方法の一部を変更し通知した。（倫理・社会」及び「政治・経済」

の二科目を同時に選択できないこととした。）

昭和五五年一〇月 昭和五六年度共通第一次学力試験出願受付（一〇月一日～一五日）を行った。

志願者数 三五七、六三三八

昭和五六年一月 昭和五六年度共通第一次学力試験を実施した。

昭和五六年二月 昭和五六年度共通第一次学力試験（本試験）の科目別平均点を公表した。

各国公立大学に、共通第一次学力試験の成績提供を開始した。

昭和五六年三月 各国公立大学が第二次試験を実施した。



大学入試センター  
昭和56年6月

